

KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY

博物館利用の手引き

小 社会科・理科
学校



博物館利用の手引き

小学校 社会科・理科



北九州市立 自然史・歴史博物館
いのちのたび博物館
KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY



ごあいさつ



我が国では近年、少子高齢化、高度情報化、国際化などが急速に進む中で、家庭や地域の教育力の問題や、子どもの学ぶ意欲や学力の低下が指摘されるようになりました。そういった社会の動きの中で、だれもが生涯にわたって学習することができる機会の創出と、そのために必要な場所を整備することが求められています。また、地域ぐるみで子どもを育てていくための、拠点としての社会教育施設の在り方が注目されています。

このような状況から、豊富な学習資源とそれらについての専門家を擁する博物館には大きな期待が寄せられており、博物館としても積極的にその対応をしていきたいと考えています。

当博物館は、北九州市内にあった伝統と実績のある3つの博物館（歴史・自然史・考古）が一体になり、2002年11月に誕生しました。長年みなさまに支えていただき、おかげさまで2012年11月には10周年を迎え、館内をリニューアルしました。生命の進化の道筋を自然と人間の両面から展示解説し、未来へ向けて私たちの生き方を考えるために、「いのちのたび」をコンセプトにしています。46億年前の地球誕生から現代にいたるいのちの歩みを、多種多様な化石や動植物標本、歴史資料などからひもとけるようにしています。多くの来館者の方々、特に次世代を担う子どもたちに、自然と人間の「いのちのたび」を学びながら、その関わりについて考えて欲しいと思っています。

当館では“博物館は第二の学校（教室）である”との思いから、博物館と学校とをつなぐパイプ役としてMT（ミュージアムティーチャー）を配置し、「博物館セカンドスクール事業」を展開しています。今回、この事業の一環として「博物館利用の手引き」を発行致しました。学校の先生方に博物館の豊富な展示資料や人的資源を活用してもらい、学校での教育活動に役立てて欲しいとの思いから、博物館を利用した学習展開例を具体的にまとめています。本書を利用することで、子どもたちの学習に対する興味や関心が一層深まることを願っています。

最後に、本書の作成にあたり、ご尽力いただきました教育委員会の方々をはじめ学校の先生方に厚くお礼を申し上げます。

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）

館長 伊藤 明夫



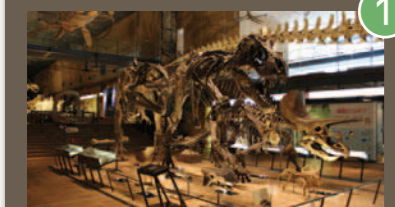
NATURAL HISTORY

自然史ゾーン

地球誕生から現在に至る自然と生命の歴史を、約4500点の展示資料で紹介します。

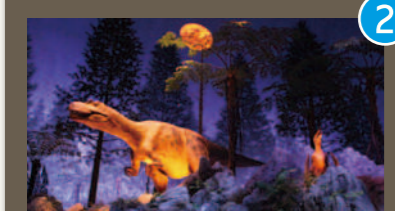
アースモール (進化の大通り)
History of the Earth and Life

100mの回廊に古生代から現代にいたる骨格標本や化石等を一堂に展示している大展示空間です。



エンバイラマ館 (白亜紀ゾーン)
Time-Travelling Room

約1億3千万年前の北九州地域の環境を、360度体感型のジオラマで再現した展示空間。



エンバイラマ館 (リサーチゾーン)
Time-Travelling Room

北九州やその近くから産出した標本を展示しています。



生命の多様性館
Diversity of Life

地球上の様々な地域に生息する多種多様な生物を紹介します。



自然発見館

Discovering Nature

標本やジオラマ等で北九州地域の自然の特徴や自然観察の技法を楽しく学ぶことができます。



自然学習園

Eco-Garden

自然発見館の外に広がる野外観察コーナーです。



このマークは記念写真におすすめのポイント
デジタルカメラやコンパクトカメラでの記念写真はOKです。三脚や大型ストロボなどを使う場合は係員に申し出てください。

見ごろ行きごろ時間

演出タイムは、毎時00分・15分・30分・45分から。入口で音声ガイドを貸し出しています。

- 券売機
- インフォメーションカウンター
- トイレ
- 多目的トイレ
- 休憩スペース
- コインロッカー
- エレベーター
- ミュージアムショップ
- 授乳室
- 喫煙デッキ
- AED (自動体外式除細動装置)



講座室

3階



実習室

3階



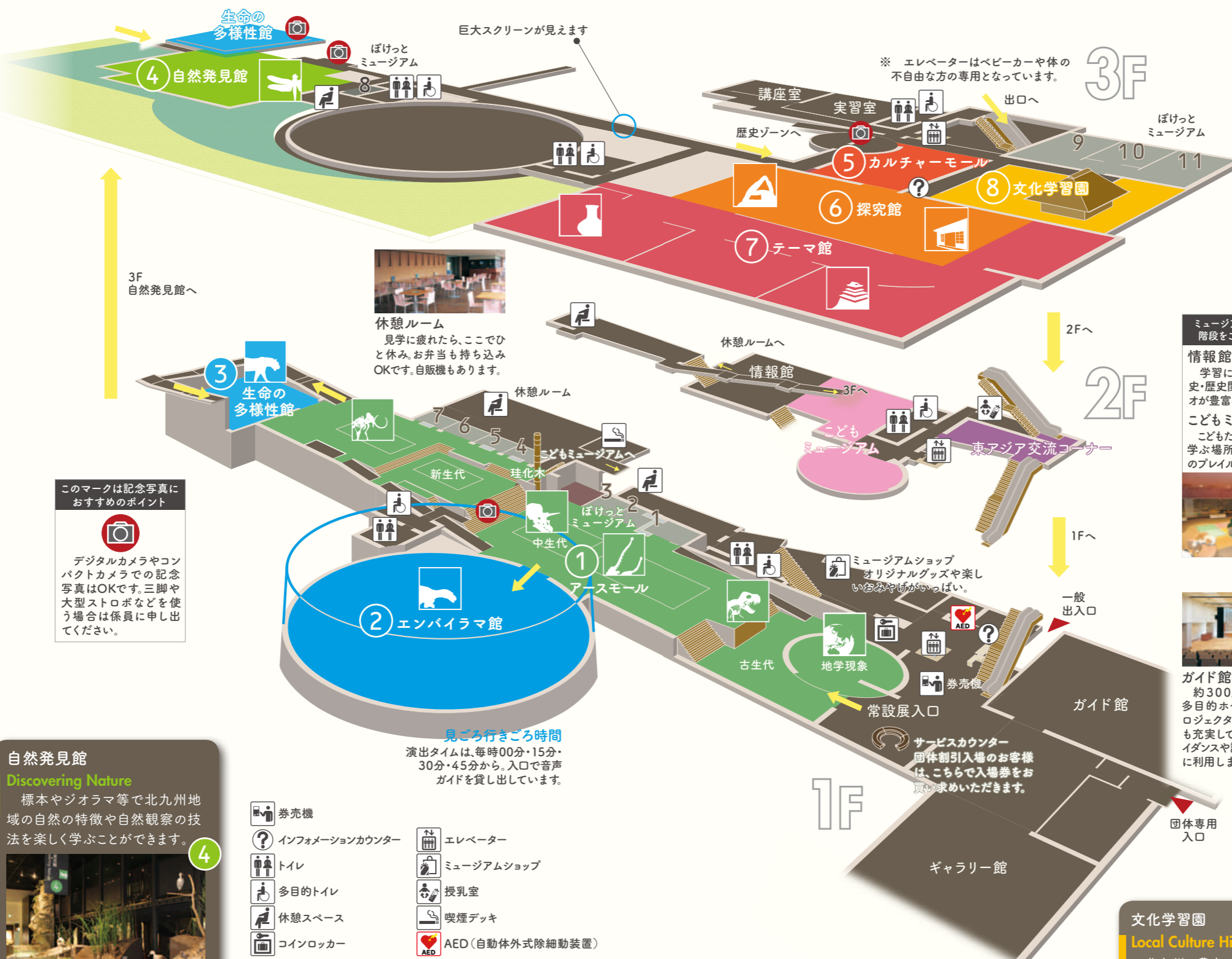
こどもミュージアム

2階



東アジア交流コーナー

2階



HUMAN HISTORY

歴史ゾーン

北九州地域のあゆみや人々の暮らしの変遷を、「路」をテーマに約1500点の歴史資料をもとに紹介します。

カルチャーモール
Local Festival Lobby

北九州市の三大夏祭りである小倉・黒崎・戸畑祇園を紹介しています。



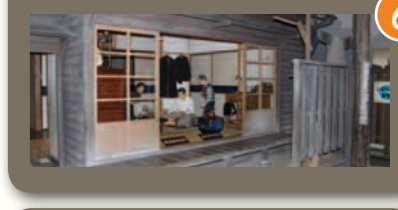
探究館 (弥生時代復元住居)
Discovering History

小倉南区の長野小西田遺跡をモデルに竪穴住居を再現しています。



探究館 (昭和30年代の社宅)
Discovering History

八幡製鉄所の社宅の生活を再現し、電化製品が普及する直前の暮らしを紹介しています。



テーマ館

History of Kitakyushu

「路」というテーマで北九州の文化や歴史を紹介しています。



文化学習園

Local Culture History

北九州の農家の家屋を部分的に再現し、実物の民具中心に農家の暮らしに触れることができます。



ミュージアムショップ横の階段をご利用ください。

情報館

学習に利用できる自然史・歴史関連の図書、ビデオが豊富に揃っています。

こどもミュージアム
こどもたちが遊びながら学ぶ場所です。幼児対象のプレイルームもあります。



ガイド館

約300人が収容できる多目的ホールです。大型プロジェクター等の映像設備も充実しており、博物館のガイダンスや講演会、学会などに利用します。



※ エレベーターはベビーカーや体の不自由な方の専用となっています。

3F

2F

1F

1F



「いのちのたび博物館」の名称について



当博物館は、世界の、そして北九州のさまざまな化石や動植物標本、歴史資料などを豊富に展示し、子どもたちに見る楽しさ、知る喜びを感じて欲しいと考えています。

「アースモール」では、この地球上で様々な生命が絶滅と進化を繰り返してきたことを知り、「生命の多様性館」などでは、多くの生きものたちが、今私たちとともに生きていることを実感していただきたいと思います。

現在、人間の手によって第6番目の大絶滅が起こっていると言われており、自然を大切に、他の生きものたちとの共生を図っていくことが求められています。

当館は、いのちある全てのものが永遠に“いのちのたび”を続けていけるようにとの深い思いを込めて「いのちのたび博物館」という名称にしています。

子どもたちにとっての“いのちのたび”とは、身近な草や木、虫や動物など、全てのいのちあるものごとを考えること、友達と仲良くすること、家族に感謝する心などと考えています。このことばのなかに流れている「いのちの大切さ」を感じ理解して欲しいと願っています。

館内の見学を通して、太古の昔から続いてきている“いのちのたび”を感じ取り、人間も自然環境との関わりのなかで存続してきたこと、身近な環境を大切にすることなどを子どもたちとともに考える機会にしていきたいと思っています。

CONTENTS

もくじ

博物館利用の手引について	2
博物館の利用について	3

博物館利用の展開例

〔社会科〕

第3学年 さぐってみよう昔の暮らし	
まちに伝わる祭りや行事	4
昔の道具と暮らし	8
第4学年 昔から今へと続くまちづくり	
堀川をつくった人々	12
第6学年 大昔の暮らし	
国づくりへの歩み①	16
国づくりへの歩み②	20
武士の世の中	
武士の政治が始まる	24
全国統一への動き	28
幕府の政治と人々の成長	32
新しい時代の幕開け	
小倉のまちの様子を調べよう	36
近代国家へのあゆみ	
二つの戦争と日本・アジア	40

〔理科〕

第3学年 こん虫をしらべよう	54
植物を育てよう(4)花が終わったあと	58
第4学年 季節と生き物(春)	62
わたしたちの体と運動	66
季節と生き物(冬)	70
第5学年 生命のつながり(3)メダカたんじょう	74
流れる水のはたらき	78
第6学年 生物とのかんきょう	82
土地のつくりと変化	86
生物と地球のかんきょう	90

資料編

〔社会科〕

探究館の展示案内「弥生時代復元住居」	44
探究館の展示案内「弥生時代 家族の会話(朝)」	45
探究館の展示案内「弥生時代 家族の会話(夜)」	46
探究館映像「弥生の暮らし」	47
長野城合戦模型解説ナレーション	48
堀川の水運「川ひらた演出映像」	49
探究館の展示案内「昭和30年代の社宅」	50
探究館展示映像「昭和30年代の北九州」	51
体験学習「昔の暮らし体験」	53

〔理科〕

自然学習園	94
自然学習園MAP	95
自然発見館のジオラマと生き物	96
館内授業「土地のつくりと変化」	98
ディスカバリーボックスの貸し出し	102

体験学習プログラムの利用	103
ホームページ	105
団体見学申込書	106
常設展観覧料減免申請書	107
博物館利用案内・作成委員	108

※ギガノトサウルスは国立科学博物館協力

博物館利用の手引きについて

本書は、子どもたちが博物館の学習資源を利用してより効果的な学習が行えるよう、学習指導要領のねらいを踏まえた学習プランや学習展開例を紹介した教師用の手引き書です。

小学校・中学校で学習する内容を中心に作成したもので、当博物館の展示資料や館内施設等を利用した単元別学習展開例を教科・学年別で紹介し、標準時間配当も年間指導計画に無理なく組み込めるよう計画しました。また、博物館の事前学習や事後の学習までを一つの授業と考え、博物館の展示資料や学習に関連する参考資料を掲載し、学習内容の深まりと今後につなげる授業づくりを考慮し以下に示す内容に留意して作成しました。

内容の構成

単元別学習展開例、ワークシート(記録用紙)、学習関連資料(口絵写真を含む)、博物館利用案内、貸出教材(ディスクカバーボックス)、博物館ホームページ等で構成し、博物館を利用した学習指導書として作成しています。単元別学習展開例と学習関連資料について以下に示します。

(1) 単元別学習展開例(基本:4ページ構成)

1 ページ目
単元名、単元の概要、ねらいと手だて、指導計画

単元別学習内容と標準時間配当を本市教育委員会発行の『教育課程編成資料(教科)』と関連づけて博物館での学習内容を計画しました。

2 ページ目
博物館での学習展開例

博物館の展示資料や施設を利用した具体的な生徒たちの学習内容と活動を示しました。また、教師からの活動の支援として指導上の留意点も示しました。

3 ページ目
博物館での学習

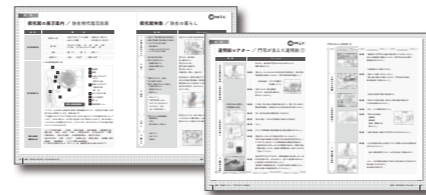
博物館での学習展開例(2ページ)のイメージがつかめるよう博物館の展示資料の写真や参考資料、施設の効果的な活用を含めた内容等を示しました。

4 ページ目
ワークシート(記録用紙)

学習を展開する際に使用するワークシートと児童生徒の予想される記入例を示しました。(使用時には記入例を消し、コピーして使用するか、HPからダウンロードしてご利用ください。)

(2) 学習関連資料

単元別学習展開例に関連する博物館展示資料や展示解説資料、参考資料写真資料など、博物館を利用した教科の学習資料として示しました。

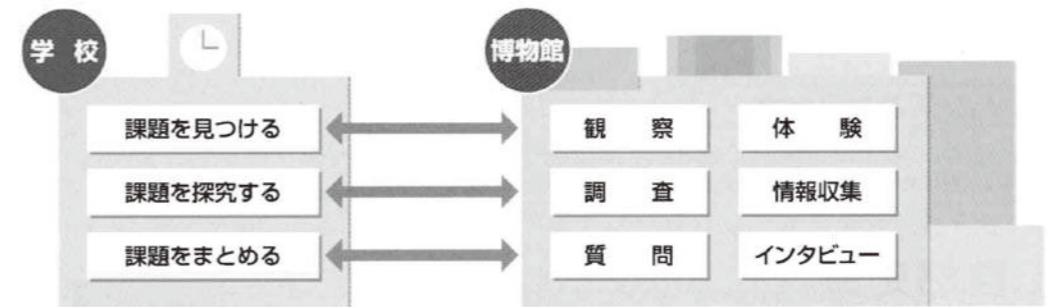


ミュージアムティーチャー (MT)

学校現場と博物館との結び付きを強めるため、当博物館ではミュージアムティーチャー(MT)として教員を配属しています。博物館を利用した学習の単元開発、資料の紹介、修学旅行や校外学習のお手伝いなど幅広く対応しています。

博物館の利用について

当博物館は、自然史分野・歴史分野の展示を一堂に集めた博物館です。多岐の分野にわたる展示物の中から限られた時間で子どもたちが主体的に活動することができるように、予め学校でテーマ(課題)を決めて見学されることをお勧めします。学校からのご利用に際しては、時間の調整や教科と展示物の関連性など、できる限りの情報の提供や体験的な活動の支援を行い、一人でも多くの子どもたちや先生方が「学ぶ喜び」を分かち合っていけるようにしたいと考えています。



博物館の一般的な利用例

入館

ガイド館にてガイダンスビデオ[※]視聴(要予約)
[※] ガイダンスビデオ:博物館の見所をまとめた11分ほどのビデオです
 基本は自由見学です。見学途中の質問は展示交流員までお尋ねください。

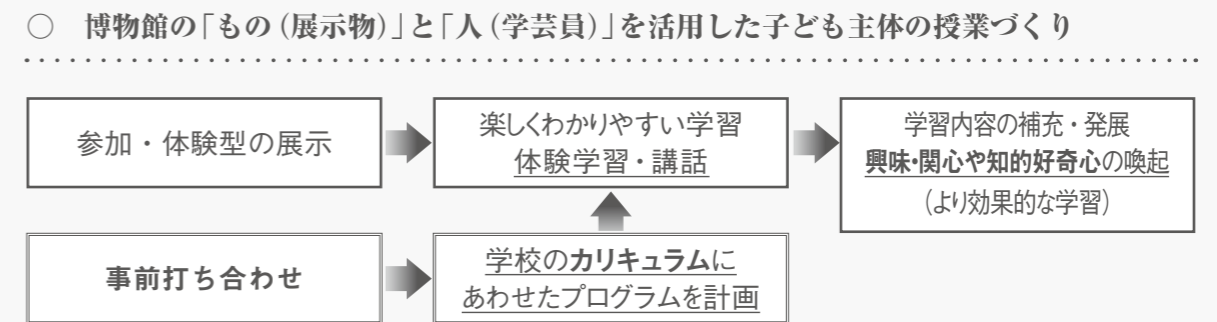
学習支援(事前の打ち合わせが必要)

- 体験学習プログラム
- 学芸員や博物館スタッフからの講話 など

退館

ガイド館前に集合
 見学のみ場合は2時間以上がおすすめです。
 (体験学習を計画されている場合は3時間以上)

学習の組み立て例



[※] 学芸員や博物館スタッフによる学習支援については、原則として事前打ち合わせの中で調整を行います。博物館普及課MT(ミュージアムティーチャー)が窓口として受け付けますので、気軽にご相談ください。

さぐってみよう昔の暮らし | まちに伝わる祭りや行事

1 単元の概要

日本文化を象徴するものの一つに祭りがあります。日本の祭りは単に人々が楽しむために行われているのではなく、そこには人々の強い願いが託されています。もともと、日常生活で遭遇する災難や自然災害は神々の怒りによる仕業と考えられていました。そこで、人々は神々をもてなし、その怒りを鎮めることで自分たちの生活を守ってきました。災害や病気が多発する夏や作物の収穫時期である秋に祭りが多いのはそういった理由によるものです。地域に伝わる祭りには、人々のどのような願いが託されているのかについて学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 受け継いできた祭りや行事に込められた地域の人々の願いを考えるとともに地域社会に対する誇りと愛情をもつことができるようにする。
- 地域の人々が受け継いできた祭りや行事について見学・調査し、絵や文にまとめ、祭りや行事に込められた人々の願いを考えることができるようにする。



黒崎祇園山笠の映像

3 指導計画（総時数7時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 地域に伝わる祭りや行事の様子を話し合い、学習問題をつくり、調べる計画を立てる。	○ 祭りや行事の写真を提示して、それらの様子や参加した体験、祭りや行事の始まりやいわれなどの疑問について話し合わせる。	1時間
II 地域に伝わる祭りや行事の始まりやいわれ、内容、受け継ぐ人々の願いについて調べる。	○ 祭りや行事の保存に携わる人から話を聞く活動を行い、人々が協力する姿や受け継いでいくための努力について話し合わせる。	4時間
III 博物館展示物で北九州市の山笠や山車を見学し、その祭りの始まりやいわれ、内容を調べ、人々の願いを考える。	博物館での学習 ○ パネルや小倉祇園山車、戸畑祇園大山笠、黒崎祇園笹山笠を見て、祭りのいわれや人々の願いを考えさせる。 ◆ カルチャーモール	1時間
IV 地域で行われている年中行事について調べ、暮らしとのかかわりや願いについて考え、学習をまとめる。	○ 年中行事に込められた思いや願いを考え、表現させることで、地域社会の一員であるという意識をもたせるようにする。	1時間

4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
北九州で続けられている祭りについて調べよう。		博物館での学習 1時間
I 「北九州の祭り」を見て、北九州市ではたくさんの祭りが行われていることを知る。 II 博物館カルチャーモールで展示されている山笠や山車を見学する。	○ パネル「北九州の祭り」の「各地区の主な祭り」から、北九州市ではたくさんの祭りが行われていることを知る。 ○ 実物を見て、その大きさや迫力を体感させ、刻まれている字や刺しゅうの模様について調べる。 ○ 映像資料から、祭りの昼と夜の様子を比較させる。特に、「戸畑祇園大山笠」は、昼は幟山笠で、夜は提灯山笠になることに気付かせる。 ○ パネル「北九州の祭り」の「各地区の主な祭り」で、小倉祇園太鼓、戸畑祇園大山笠、黒崎祇園行事が行われている場所を確認させる。 ○ ワークシートの「祭りが行われている場所」や「祭りの特徴」を記入させる。	◆「北九州の祭り」 ◆小倉祇園山車 ◆戸畑祇園大山笠 ◆黒崎祇園笹山笠 ◆映像資料 「北九州の祭り」
III 展示物に書かれている説明を読んだり、教師の話を聞いたりして、祭りの始まりやいわれ、内容について知る。 IV 祭りに参加する人々の願いを考え、話し合う。	○ 展示物資料や教師の話などから祭りの特徴やいわれについて学ぶことができるようにする。 ○ 知りたいことについては、事前に博物館職員に質問させ、祭りに込められた人々の願いに気付くことができるようにする。（質問する際には、事前に博物館へ連絡を入れておくこと） ○ ワークシートの「祭りのいわれや人々の願い」を記入させる。 ○ 既習の自分たちが住んでいる地域の祭りを想起させ、共通する人々の願いに気付くことができるようにする。	

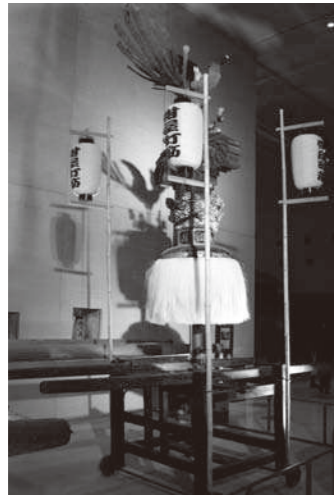
5 博物館での学習

北九州で続けられている祭りについて調べよう。

博物館での学習

北九州市には、小倉・戸畑・八幡（黒崎）に三つの大きな祇園祭があります。これらの祭りはどれも毎年夏に行われ、多くの人でにぎわいます。祭りには地域の人々の強い願いや思いが込められていますが、北九州を代表するこれらの祭りにはどのような願いが込められているのか考えながら学習を進めていきます。

博物館のカルチャーモールには、小倉祇園太鼓、戸畑祇園大山笠、黒崎祇園行事で実際に使われていた山笠や山車が展示されています。実物の山笠や山車を見せて、その大きさや迫力を体感させてください。



小倉祇園山車



戸畑祇園大山笠



黒崎祇園笹山笠

映像資料では、それぞれの祭りの様子が常時映し出されており、それぞれの祭りの特徴を学習することができます。たくさんの方が携わっていること、多くの見物人でにぎわっていることに気付かせてください。戸畑祇園大山笠は、昼は幟山笠、夜は提灯山笠というように、昼と夜で山笠の姿を変えることに目を向けさせてください。黒崎祇園行事は、展示してある笹山笠でお汐井とり（潮を汲み、山笠を洗い清め、安全祈願をすること。）を行い、人形飾山笠に衣替えすることを補足説明してください。

また、パネルでそれぞれの祭りのいわれなどが説明されています。既習の自分たちが住んでいる地域の祭りを想起させ、どんな願いをもってたくさんの方が祭りに携わっているのかを考えさせ、健康や平穏無事を願う人々の願いが共通していることに気付かせてください。



昼の幟山笠



夜の提灯山笠

(映像資料「戸畑祇園大山笠」より)

1 北九州を代表する三つの祭りについて調べよう。

北九州を代表する三つの祭り	こくらぎおんだいこ 小倉祇園太鼓	とばたぎおんおおやまがき 戸畑祇園大山笠	くろさきおんぎょうじ 黒崎祇園行事
祭りが行われている場所	小倉北区	戸畑区	八幡西区（黒崎）
やまがきだし 山笠や山車の名前	小倉祇園の山車	戸畑祇園幟山笠	黒崎祇園笹山笠
祭りの特ちょう	江戸時代には、山鉾・踊り舞台・踊り子などを従えていたが、それらはなくなった。 現在は、太鼓とジャンガラでにぎやかさと勇壮さをかもし出している。	昼は豪華な刺繍をした幕で飾った幟山笠だが、夜は309個の提灯を飾った提灯山笠になる。 提灯山笠としては、日本最大規模である。	笹山笠でお汐井とり（海水で山の土台や棒を洗って清めること）をした後、きらびやかな人形山笠に衣替えする。 祇園囃子は、大太鼓、小太鼓、鉦、ほら貝でする。
祭りのいわれや人々の願い	1618年、流行った伝染病が早く治るように祈ったことから、始まった。	1803年、この地方に流行った病気がやっと収まったことを祝って、始められた。	970年頃始まった。日常生活の中で出遭う災難や自然災害が起こらないでほしいと願ってはじめられた。 お汐井とりをして、安全に祭りが行われるようお願いをしてまつりをはじめた。

2 どんな願いをもってたくさんの方が祭りに参加しているのか考えよう。

- ・元気で暮らしたい。
- ・災難や自然災害が起こらないでほしい。
- ・まつりでまちを盛りあげたい。

さぐってみよう昔の暮らし | 昔の道具と暮らし

1 単元の概要

私たちは便利な道具に囲まれ、快適な生活を送っています。しかし、今の生活は地域の人々の昔の生活における知恵や工夫の積み重ねによってもたらされたものです。そこで、地域に残る昔の道具を調べ、地域の人々の生活がどのように移り変わってきたか、また、昔の生活における人々の生活の知恵について学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 昔の道具やそれらを使っていた頃の暮らしの様子について見学・調査したり、年表にまとめたりして人々の生活の変化や過去の生活における人々の知恵を考えるとともに、地域社会に対する誇りと愛情をもたせる。
- 地域の昔の道具を観察したり、道具の使い方を調べたりして当時の暮らしの様子を考えさせる。



探究館（昭和30年代の社宅の生活）

3 指導計画（総時数8時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 社会科資料室や自分の家にある昔の道具に着目し、博物館にある昔の道具を調べる計画を立てる。	○ 教科書などを使って、地域に残る昔の道具について調べる意欲を高める。	1時間
II 昔の道具調べをして、その頃の暮らしの様子を調べる。 ① 居間の道具 ② 台所の道具 ③ 暮らしの様子	■ 博物館での学習 ○ 約100年前の農家、昭和30年代の社宅、そして現在の台所や居間を比べ、暮らしの様子の違いを考えさせる。 ◆ 文化学習園「昭和初期の農家」 ◆ 探究館「昭和30年代の社宅」	2時間
III 地域の方と実際に昔の道具を使ったり、地域の方にその頃の暮らしの様子を聞いたりする。	○ 探究館展示映像をもとに、当時の町の様子を具体的にとらえることができるようにする。 ◆ 探究館展示映像「昭和30年代の北九州」①②	2時間
IV 道具の移り変わりの様子を年表にまとめ、暮らしの移り変わりについて話し合う。	○ 年表をもとに道具の移り変わりや、人々の暮らしの様子を関連させて話し合い人々の生活が変化してきたことや人々の願いを考えるようにする。	2時間
V スピーチ大会を開く。	○ わかったことをもとにスピーチ大会を行い、道具の移り変わりによって、人々の暮らしが便利になったことをとらえられるようにする。	1時間

4 学習展開例（2時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
<p>古くから残る道具や、それらを使っていた頃の暮らしの様子について調べよう。</p>		
<p>I 文化学習園の農家（約100年前）を見学する。</p> <p>① 農家の展示物を見て展示解説を読んだり、教師の説明を聞いたりして、家の中の様子や道具の名前や使い方、工夫点を調べる。</p> <p>② 田畑の仕事をする道具を調べて、人々の工夫や知恵を考える。</p>	<p>○ 建物の外観を見て、現在の家との違いに気付かせる。</p> <p>○ 廊下のガラスの入口に展示されている版画から、当時の暮らしをとらえられるようにする。</p> <p>○ 居間では、囲炉裏や箱膳の使い方や工夫点に気付かせる。</p> <p>○ 台所では、かまどやはがま、水がめ、屋外の井戸に目を向けさせ、現在の道具との違いについて考えさせる。</p> <p>○ 農具の使い方、工夫を調べ、田畑の仕事が効率的にできるようになったことに気付かせる。</p>	<p>◆文化学習園 「農家（約100年前）」 ◆片山正信作 「大正走馬燈」</p>
<p>II 探究館の昭和30年代の社宅（約50年前）を見学する。</p> <p>① 社宅の展示物を見て展示解説を読んだり、教師の説明を聞いたりして、家の中の様子や道具の名前や使い方、工夫点を調べる。</p> <p>② 社宅に住む家族の1日の暮らしや映像資料を見て、昔の人々の生活の様子を知る。</p>	<p>○ 建物の外観を見て、現在の家との違いに気付かせる。</p> <p>○ 居間では、一つの部屋で家族が寝食をともにしていたことや火鉢、ちゃぶ台等の使い方や工夫点に気付かせる。</p> <p>○ 台所では、かまどや水道、はだか電球に目を向けさせ、100年前の農家の台所や現在との違いについて考えさせる。</p> <p>○ 家族の会話や街頭に映し出される人々の会話からも昔の暮らしの様子をとらえさせる。</p> <p>○ 電化されていない時代の生活を想像させる。</p>	<p>◆探究館 「昭和30年代の社宅」</p> <p>◆街頭の映像資料</p>
<p>III 調べて考えたことをまとめる。</p>	<p>○ 現在の自分たちの生活と比べ、道具が変わることによって暮らしがどう変化してきたか考えさせる。</p>	

5 博物館での学習

地域に残る昔の道具や、それらを使っていた頃の暮らしの様子について調べよう。

博物館での学習
2時間

事前に、ホームページで「文化学習園」を開くと、北九州に多く見られた農家(約100年前)が復元された様子を見ることができます。また、「探究館」を開くと、昭和30年代の八幡製鐵所社宅(約50年前)が再現され、そこで暮らす家族の様子が紹介されています。昔の道具や生活の様子で、調べたいことを考える学習問題づくりのきっかけを得ることができます。



文化学習園の農家(約100年前)



囲炉裏



水がめやかまど

博物館では、文化学習園から探求館の順で見学し、時代が変わると家の中の様子や生活が変わっていくことをとらえさせます。また、調べる際には、「台所」と「居間」の様子に着目させ道具や暮らしの変化を具体的に調べ、ワークシートにまとめるようにします。

まず、文化学習園では、建物の外観や版画を観察させ、自然と関わって生活をしてきたことをつかませます。内部では、囲炉裏、箱膳等や米づくりの農具を調べ、ワークシートの1に書き込ませてください。囲炉裏や箱膳からは、居間での暮らしの様子を知ることができます。台所にあたる土間には、はがまの使い方を示したかまどや井戸水を貯める水がめがあり、食事の支度をするためには、火おこしや水汲みなどの労働があったことを知ることができます。農具には、電気を使わずに効率よく作業を進められるように人々の知恵がこめられていることが分かります。

次に、探究館では、昭和30年代の社宅の玄関、土間の台所、和室二間が再現されていて、当時は一つの部屋で家族が寝食をともにしていた様子を知ることができます。居間になっている和室では、はだか電球、ラジオ、火鉢、家具などの道具を調べ、ワークシートの1に書き込ませてください。台所には、水道やかまど、七輪があり、当時の炊事の様子を知ることができます。

ここでは、現在の生活との違いから電化される直前の生活を想像させるようにします。



探究館の社宅(約50年前)



火鉢



台所

また、探究館には、1日の時間の流れを設定し、そこに暮らす家族の会話や街角を通る人々の様子(映像)も復元されており、時代の雰囲気を感じることができます。ワークシートの2では、道具の中でも囲炉裏と火鉢、水がめと水道のように、移り変わりが見える道具をとりあげて、道具が変わることによって、暮らしがどう変化してきたかを考えさせます。

なお、博物館職員による昔の道具体験プログラムを活用し、昔の道具に直接触れたり、使ったりする学習もできます。

1 昔の道具を絵や文でかこう。

場所	ぶんかがくしゅうえん 文化学習園(約100年前の農家)	たんきゅうかん 探究館(約50年前の社宅)
見つけた道具	<ul style="list-style-type: none"> ・囲炉裏 ・箱膳 ・はがま ・水がめ ・かまど ・井戸 ・足踏み水車 	<ul style="list-style-type: none"> ・火ばち ・はだか電球 ・大きいラジオ ・木おけ ・七輪 ・かまど ・水道

2 昔の道具のとくちょうや工夫、家の中の様子を、今の様子とくらべながら調べよう。

場所	100年前の道具	50年前の道具	今の道具
居間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 囲炉裏は暖房だけでなく、照明や調理器具としての役割を果たしていた。囲炉裏のまわりで、家族がそろってご飯を食べていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ はだか電球やラジオ等の電気製品がある。 ○ 火鉢は暖房だけでなく、お湯を沸かすこともできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 色々な種類の照明があって部屋が明るく、テレビやエアコン等の多くの電気製品がある。
だい所	<ul style="list-style-type: none"> ○ かまどで火おこしをしてから調理をしていた。 ○ 水は井戸から汲んできて、水がめに貯めて使っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 七輪は持ち運びができ、どこでも調理ができる。 ○ 水道があり、水汲みをしなくてよくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ガステーブルや電子レンジで簡単に調理ができる。 ○ 水だけでなく、温水器でお湯を好きなときに使える。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米づくりでは、電気を使わなくても動く道具を使って少しでも仕事を早くしたり、らくにしたりするための工夫をしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一つの部屋で、食事や家族の団欒、子どもの学習をしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電気製品にタイマーがついていて、人がついていなくても調理をしたり、ビデオをとったりすることができる。

3 100年前の人たちや50年前の人たちのくらしを調べて、考えたことを書こう。

- 今と比べて電気製品が少ない。自動のものがなく、自分たちの手や足を使って動かさなければならぬものが多いが、道具の使い方一つ一つに工夫が見られる。
- 昔の道具は、木や石、土など自然の材料を使ったものが多い。
- 今は、電気やガスを使って時間をかけずに食事の準備ができるようになっている。

昔から今へと続くまちづくり | 堀川をつくった人々

1 単元の概要

川は昔から私たちの暮らしになくてはならないものでした。飲み水となり、米や野菜を育て、また、物資を運ぶなどいろいろな役目を担ってきました。しかし、子どもたちの知っている川は自然の川であり、昔、人の手によってつくられた川があることは知りません。よりよい生活を求めて知恵と力を出し合い、長い年月をかけて努力し、地域の発展に貢献してきた人々がいます。ここではこのような先人の働きについて学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 堀川開削にかけた先人の工夫や努力と人々の生活の向上との関連について理解させる。
- 博物館の川ひらたや石炭の実物、川ひらた演出映像を活用することによって、当時の人々の働きや苦心、地域の人々の生活の向上などについて考えることができるようにする。



現在の堀川の地図

3 指導計画（総時数 14 時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 堀川の現在と昔の地図を基に、川的位置やまわりの様子について話し合い、学習問題をつくる。	○ 堀川的位置を地図で確認したり、昔の地図と比べて、人の手によってつくられた川であることに気付くことができるようにする。	1 時間
II 堀川がつくられたわけを調べる。	○ 洪水と日照りなどが頻繁に起こっていることを年表を使って調べさせ、堀川がつくられたわけについて話し合うようにする。	1 時間
III 堀川を見学し、分かったことや疑問を出し合い、堀川開削について調べる計画を立てる。	○ 寿命唐戸や中間唐戸、河守神社、車返し付近を見学させ、分かったことや疑問を見学メモにまとめさせる。	3 時間
IV 堀川開削の様子、当時の人々の工夫や努力を調べグループごとに紙芝居にまとめる。	○ 資料をもとに、大膳や又之進、久作らの苦心や願いについて調べ、工事の難しさや人々の知恵や努力に気付かせる。	6 時間
V 堀川ができてからの人々の暮らしの変化について調べる。 ① 洪水や日照りの被害の減少と米の取れ高の増加 博物館での学習 ② 石炭・年貢米運搬のための運河としての利用	○ 米の取れ高が増えたことや堀川が石炭の運搬などの運河として利用されたことなどを調べ、堀川開削と地域の人々の生活の変化との関連について考えさせるようにする。 ◆ 川ひらた演出映像 ◆ 川ひらた ◆ 石炭	2 時間
VI 地域住民の堀川を守る活動について調べ、堀川に対する地域住民の思いについて話し合う。	○ 地域住民の思いに触れさせることで、自分たちも地域を大切にしていこうという心情をもつことができるようにする。	1 時間

4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
<p>川ひらたの実物や石炭、「川ひらた演出映像」などの資料をもとに、堀川ができてから人々の暮らしは、どのように変化したのか考えよう。</p>		
I テーマ館に展示されている川ひらたを見学する。	○ ワークシートに川ひらたの絵をかかせたり、説明を書き加えたりさせることで、川ひらたの大きさやつくりを実感させる。	◆川ひらた 博物館での学習 1 時間
II 川ひらたや石炭の実物を見て、わかったことや考えたことについて発表する。	○ 川ひらたや石炭の実物を見て、当時働いていた人々の様子について考えさせる。	◆石炭
III 「川ひらた演出映像」を見ながら、堀川開削に尽くした先人の働きと人々の生活の向上について話し合う。	○ 映像資料（川ひらたに乗った二人の船頭が堀川開削の歴史について話しているもの）を視聴する際、堀川開削に尽くした先人の働きや、完成後の人々の生活の向上について着目しながら視聴させるようにする。 ○ 映像資料のシナリオ台本（「博物館利用の手引き」のP49）を増し刷りし、児童に持たせたいうで映像資料を視聴させるようにする。 ○ 映像資料を視聴後、これまでの学習を振り返り、「堀川がつくられたわけ」「堀川づくりにおける人々の工夫や努力」「堀川が完成した後の人々の生活」について、船頭さんになったつもりでワークシートの吹き出しにまとめさせるようにする。	◆堀川の水運 「川ひらた演出映像」

5 博物館での学習

川ひらたの実物や、「川ひらた演出映像」などの資料をもとに、堀川ができてからの人々の暮らしは、どのように変化したのか考えよう。

博物館での学習
1時間

テーマ館には堀川の水運に関する資料が展示されています。その中で子どもたちの興味や関心を高めるのは「川ひらた」だと思われます。この舟は寝泊まりができる「所帯舟」と言われる大型のもので、宮崎県に生育する飴肥杉の中でも赤身の多い「日向鼈甲^{ひゅうがべっこう}」といわれる杉材を使用し、材料・工法ともに往時の川ひらた（五平太）を忠実に再現しています。

実物を絵に描かせたり、船金庫や船箆筒など舟の中に積まれているもの、その他気付いたことや見付けたことを書き加えさせたりすることで、子どもたち一人一人が「川ひらた」への思いを具体的にもつことができると考えられます。

また、子どもたちを「川ひらた」の前に並ばせて、大きさを実感させるなどの活動を仕組むことも可能です。

さらに、この舟には石炭が積まれています。7.5トンの石炭を積むことができました。米を運び、石炭を運んだ「川ひらた」が行き来した堀川の様子をイメージすることができるでしょう。

映像資料では、堀川の歴史が映像と二人の船頭の会話を通して分かりやすく説明されています。

※堀川の水運「川ひらた演出映像」内容概略

- 堀川をつくったわけ
- 堀川の工事を始めた黒田長政の紹介
- 一番の難工事であった吉田切貫
- 年貢米を運ぶ川ひらた
- 寿命の唐戸水門
- 全長12.5キロメートルにおよぶ堀川の完成
- 洞海湾が大変近くなったこと
- 日本の近代化を支えた石炭の運搬
- 何千艘もの川ひらたで働く船頭さん



テーマ館の川ひらた

※1「川ひらた演出映像」詳細については、P49 堀川の水運「川ひらた演出映像」をご覧ください。

○川ひらたデータ

・積載量…40石(約7.5t) ・長さ…4丈3尺(約13m) ・幅…8尺(約2.4m) ・深さ…2尺6寸(約0.8m)

POINT 「川ひらた」関連参考資料

事前に学校で堀川工事の概要を学習した上で、この「川ひらた演出映像」を視聴することによって、堀川の役割を再認識し学習をふりかえることができます。また、映像を視聴しながら、ワークシートに「堀川をつくったわけ」「堀川工事における苦労」「堀川完成後の人々の生活」をまとめることによって、堀川の果たした役割と当時の人々の生活との結び付きが見え、堀川について十分理解が深まることが期待できます。

1 テーマ館の「川ひらた」を絵や文で書きましょう。



2 「川ひらた」を見学して、わかったことや考えたことを書きましょう。

・堀川を使って、この大きな舟にたくさんの石炭を積んで、いろいろなところに運んでいたと思う。

3 船頭さんになったつもりで、堀川をつくったわけや、堀川づくりの苦労、完成後の人々の生活について吹き出しにまとめてみましょう。



①堀川がつくられたわけは…

むかし遠賀川では大水(洪水)のせいで被害を受けていた。遠賀川の流れを堀川に分けて、洞海湾に流したかったからじゃ。

②堀川づくりで苦労したことは…

吉田切抜で400 mも続く岩場をつちとのみで切り抜いていったところじゃ。9年間もの年数をかけて、人々が協力し車返しの工事をがんばったのじゃよ。

③堀川が完成してからは…

ひらた舟を使って、年貢米や石炭を運べるようになったんじゃ。また、洪水や日照りの被害が減り、堀川から田に水がひけるようになって、米の取れ高が増えた。このように、村人の生活が安定したんじゃ。

大昔の暮らし | 国づくりへの歩み①

1 単元の概要

縄文時代と弥生時代の遺物などを比べながら、人々の暮らしの様子について話し合い、児童の歴史に対する興味・関心を高めていきます。狩りや漁をしていた暮らしや米づくりを始めたころの人々の暮らしの変化、むらからくにへの統合の過程、巨大古墳の広がりなどについて調べ、古代の人々がどのようにして国づくりをしていったかをとらえさせ、歴史を学ぶことの楽しさを感じながら学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 農耕の始まりや古墳について調べ、大和朝廷による国土の統一の様子を理解させる。
- 大昔の人々の生活の知恵や工夫を学ぶ学習、博物館や郷土資料館等を活用して遺跡や遺物などを観察する学習、身近な地域に残る古墳について調べる学習など体験的な活動を通して、大昔の人々の暮らしや社会の様子が分かるようにする。



縄文人と弥生人

3 指導計画（総時数7時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 想像図を基に、大昔の人々の暮らしの様子について話し合う。	○ 想像図を基に、住居や集落の様子、村人の仕事の様子などを視点に話し合わせる。	オリエンテーション 1時間
II 縄文時代と弥生時代の展示物を調べて、二つの時代の人々の生活や社会の様子について話し合う。	博物館での学習 ○ 縄文時代と弥生時代の展示物の違いから人々の暮らしや社会がどのように変化したのかについて考えさせる。 ◆ 資料「縄文人と弥生人」 ◆ テーマ館「旧石器時代から古墳時代の北九州」コーナー ◆ 探究館「弥生時代の暮らし」	1時間
III むらの様子や変化について調べる。	◆ 探究館映像「弥生のムラの日」	1時間
IV 豪族がほうむられた古墳は、どのようなものだったのか調べる。 ① 日明一本松塚古墳の石室の大きさから古墳作りの様子を想像する。 ② 出土品のふるさとを調べる。	○ 石室から古墳の大きさを実感させ、古墳作りの様子を想像させる。 ○ 出土品などから大陸の文化などの影響について考えさせる。	1時間
③ 大山古墳や大和朝廷による国土の統一について調べる。	◆ テーマ館「先史・原史コーナー」パネル「前方後円墳の出現」など	1時間
V 調べたことをもとにして、歴史新聞をつくり、大昔の人々の暮らしの変化について話し合う。	◆ 博物館のパンフレットや博物館で撮影した写真などを活用する。	2時間

4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
縄文時代と弥生時代の展示物を調べて、二つの時代の人々の生活や社会の様子を比べてみよう。		博物館での学習 1時間
I 弥生時代の暮らしの展示から、当時の暮らしの様子を想像する。	○ 弥生時代の暮らしの展示物をもとに、当時の人々の暮らしを調べさせる。 ○ 展示資料を調べて分かったことをワークシートの1に書くようにする。	◆復元住居 ※1 ◆復元住居内の家族 ※2
II 縄文時代と弥生時代の展示物を調べる。	○ 縄文時代と弥生時代を土器や道具（石器、鉄器・青銅器などの金属器、木製農具など）、食べ物、住居などの視点で調べさせ、それぞれの特徴や変化に気づくようにする。 ○ 探究館展示「弥生時代の暮らし」や映像資料などの展示からも当時の暮らしの情報を見つけさせる。	◆縄文の食べ物、弥生の食べ物 ◆縄文土器 ◆弥生土器 ◆縄文カレンダー ◆石器 ◆木製農具
III 縄文時代と弥生時代の展示物を比べて気付いたことや考えたことを出し合い、人々の暮らしや社会がどのように変化したかについて話し合う。	○ 縄文時代と弥生時代の二つの時代を比べさせることから、人々の暮らしがどのように変化したのか想像し、ワークシート3に書くようにする。	◆復元住居 ◆復元住居内の家族 ◆家族の会話 ◆映像資料「弥生の暮らし」※3

※1 探究館の展示詳細については、P44「探究館の展示案内1」をご覧ください。

※2 家族の会話詳細については、P45 P46「探究館の展示案内2・3」をご覧ください。

※3 探究館展示映像詳細については、P47 探究館展示映像「弥生の暮らし」をご覧ください。

5 博物館での学習

縄文時代と弥生時代の展示物を調べて、二つの時代の人々の生活や社会の様子を比べてみよう。

博物館での学習 1時間



弥生時代の復元住居

「大昔の暮らし」は、狩猟・採集生活から農耕の始まり、それに伴う暮らしや社会の変化への興味、どこか冒険心をくすぐるような思いなど、子どもたちはワクワクしながら学ぼう。歴史学習の第一歩となるこの学習では、何よりも子どもたちのそうした興味・関心を大切に、具体的な活動や体験を生かしながら学習を進めていく必要があります。

探究館は、ドングリのアクを抜くための大規模な「水さらし場」が見つかった北九州市小倉南区長野小西田遺跡をモデルに、弥生時代の住居を実物大で復元して

あり、弥生時代の暮らしや当時の雰囲気を体感することができます。展示を見るだけでなく、住居内の家族の会話に耳を傾けたり、周りのスクリーンの映像にも目を向けたりすることができます。まず、この探究館で当時の暮らしの様子を実感をもって想像させ、ワークシート1に気付いたことや感じたことを書きこませます。「探究館展示案内」の資料も、事前の準備に活用することができます。

テーマ館「旧石器時代から古墳時代の北九州」コーナーでは、発掘された資料をもとに、北九州とその周辺で展開された縄文時代や弥生時代の人々の暮らしについて説明されています。

ここでは、縄文時代と弥生時代の展示について、道具・土器・食べ物・住まいなどの視点で調べ、表にまとめていきます。



縄文土器



弥生土器



縄文カレンダー



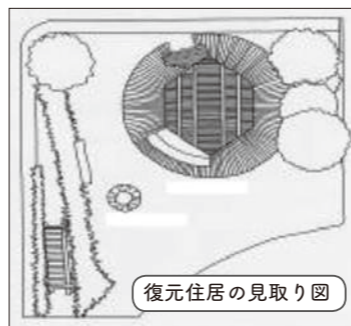
縄文人と弥生人



弥生時代の木製農具

縄文時代と弥生時代の二つの時代を比べさせることから、人々の暮らしがどのように変化したのかを想像し、ワークシート3に書き、その後人々の暮らしや社会がどのように変化したかについて話し合います。

1 弥生時代の暮らしの展示から当時の暮らしの様子を想像してみよう。



復元住居の見取り図

復元住居やコーナーの中で見付けたり、住居内の家族の会話や周りのスクリーンに映し出された映像を聞いたりして分かったことを書こう。

※森へ木の実、川へは魚を採りに行き、鳥は弓矢で射落としていた。など、このころの人々の生活の様子分かるような内容が書かれていけばよい。

2 縄文時代と弥生時代の展示物を調べて、二つの時代を比べよう。

縄文時代や弥生時代の人々の暮らしについて調べ、表にまとめよう。

	縄文時代	弥生時代
道具	石斧・石鏃などを使っていた。	・穂摘み具の石包丁が登場。 ・青銅器・鉄器などの金属器が登場。 ・米づくりに伴い、木製農具が発達。
土器	厚くてどっしりした感じ。縄目の模様が付いているものが多い。 食物を煮るための深鉢形が基本。	薄くて硬い感じ。模様のないものもある。 ふちがついている。 貯蔵用や煮沸用など、用途ごとに特定の器種が出現。
食べ物	※シカ・イノシシ・貝・クリ・ドングリ・山菜など 狩りや漁・採集にたよっていたことをおさえるとよい。	※米・あわ・きび・クリ・ドングリ・キノコ・鳥・シカ・イノシシなどの狩りや漁・採集のほか栽培活動(米づくり)も始まったことをおさえるとよい。
住まい	定住化が進んだ。ドングリなどの貯蔵穴もあった。	竪穴住居・かやぶきの屋根、柱は6本・真中には炉があり魚を焼いていた。魚などを干していた。水さらし場やドングリなどの貯蔵穴もあった。高床の倉庫もあった。
その他	※道具・土器・食べ物・住まい以外で見付けた、縄文時代のことが書かれていけばよい。 (祭祀活動、装身具、漆工芸等)	※道具・土器・食べ物・住まい以外で見付けた、弥生時代のことが書かれていけばよい。 (むらとむらの争い、大陸・半島との交流等)

※ワークシートの内容を見る時の留意点

3 二つの時代の様子を比べて、人々の生活や社会の様子について考えたことや思ったことを話し合おう。

調べてみて考えたことや思ったことを書きましょう。

※食べ物の収穫方法・道具や土器の変遷など、人々の暮らしや社会が変化していることに気付いている感想が書かれていけばよい。

大昔の暮らし | 国づくりへの歩み②

1 単元の概要

わが国の歴史が形づくられた時期において、狩猟・採集や農耕が始まったころの人々の生活、社会の様子、各地に大きな力をもつ豪族が出現したことなどを調べます。また、神話・伝承も調べることで、国の形成について当時の人々のものの見方や考え方が分かります。これらのことを通して大和朝廷による国土統一の様子を学習しましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 狩猟・採集や農耕の始まりや古墳について調べ、大和朝廷による国土統一の様子を理解させる。
- 博物館や郷土資料館等を活用して遺跡や遺物などを観察する学習、身近な地域に残る古墳について調べる学習などの体験的な活動を通して、大昔の人々の知恵や工夫を学ぶことができるようにする。



日明一本松塚古墳

3 指導計画（総時数7時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 想像図を基に、大昔の人々の暮らしの様子について話し合う。	○ 想像図を基に、住居や集落の様子、村人の仕事の様子などを視点に話し合わせる。	1時間
II 縄文時代と弥生時代の展示物を調べて、二つの時代を比べる。	○ 縄文時代と弥生時代の展示物の違いから人々の暮らしや社会がどのように変化したのかについて考えさせる。 ◆ 資料「縄文人と弥生人」 ◆ テーマ館「旧石器時代から古墳時代の北九州」コーナー ◆ 探究館「弥生時代の暮らし」	1時間
III むらの様子や変化について調べる。	◆ 探究館映像「弥生のムラの日」	1時間
IV 豪族がほうむられた古墳は、どのようなものだったのか調べる。 ① 日明一本松塚古墳の石室の大きさから古墳作りの様子を想像する。 ② 出土品のふるさとを調べる。	■ 博物館での学習 ○ 石室から古墳の大きさを実感させ、古墳作りの様子を想像させる。 ○ 出土品などから大陸の文化などの影響について考えさせる。	1時間
③ 大山古墳や大和朝廷による国土の統一について調べる。	◆ テーマ館「先史・原史コーナー」パネル「在地豪族の展開」「前方後円墳の出現」	1時間
V 調べたことをもとにして、歴史新聞をつくり、大昔の人々の暮らしの変化について話し合う。	◆ 博物館のパンフレットや博物館で撮影した写真などを活用する。	2時間

4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
① 豪族がほうむられた古墳は、どのようなものだったのか調べよう。		
I 日明一本松塚古墳の石室を調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日明一本松塚古墳（装飾古墳）の石室の外観や中の様子を見て、古墳の大きさを実感させる。 ○ 古墳の石室に使われている大きな石や巨大な一枚岩などを自分の体と比べさせ、どのようにしてこの石や岩を運んだのか疑問をもたせる。 ○ 一番奥の大きな石には、文様が描かれていることに気付かせ、どのような人がほうむられていたのか考えさせる。 	博物館での学習 1時間 ◆日明一本松塚古墳の石室模型 ◆日明一本松塚古墳石室模型内の装飾や壁画
II 石室の大きさから古墳づくりの様子を想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古墳に使われている石や岩の大きさから、多くの人々が働き、大変な苦勞があったことに気付かせる。 ○ 古墳の石室のようすから、何のために古墳づくりを行ったのかを考えさせるようにする。 	◆日明一本松塚古墳の石室模型 ◆日明一本松塚古墳の出土品
② 出土品を調べよう。		
I 出土品にはどんなものがあるか調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古墳には、豪族の遺体とともに、さまざまな品物が納められていたことに気付かせる。 ○ 出土品が朝鮮半島から制作技術が伝わってきているということから、大陸とのつながりにも気付かせる。 	◆日明一本松塚古墳の出土品 ◆紫川流域の墳墓群の出土品
		◆日明一本松塚古墳出土の須恵器
		◆紫川流域の古墳分布図

5 博物館での学習

① 豪族がほうむられた古墳は、どのようなものだったのか調べよう。

博物館での学習

「テーマ館」の先史・原始のコーナーには、北九州市とその周辺地域で発掘された古墳時代の資料が展示されています。北九州市とその周辺地域にある古墳の写真や出土品などが解説パネルでわかりやすく紹介されています。また、日明一本松塚古墳の石室を復元したものがあり、子どもたちが実際に古墳の大きさを実感することができます。

展示された資料をもとに、古墳づくりの様子や古墳時代の豪族の暮らしや大陸とのつながりをうかがうことができます。

日明一本松塚古墳の石室の大きさから古墳づくりの様子を調べよう。

日明小学校横の響灘を臨む洪積丘陵南斜面に位置する円墳（径約15m）の模型です。

石室は、全長は約7.5m、玄室は長さ2.0m、幅2.4m、高さ2.5mです。玄室奥壁は幅2.1m、高さ2.5mの一枚岩を使用し、そこに装飾文様を施しています。

巨大な一枚岩を運ぶことから、たくさんの人手が古墳づくりに必要なことが分かります。

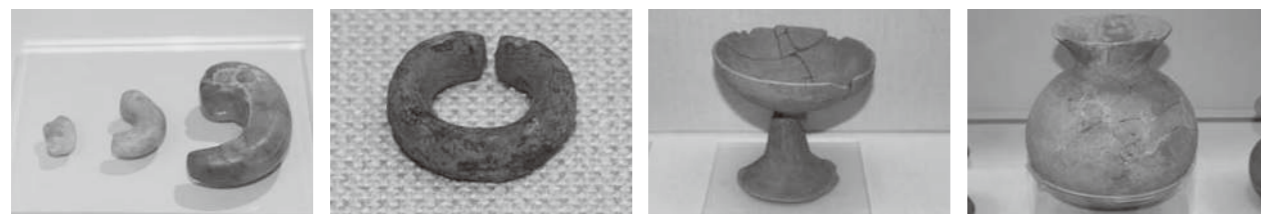


日明一本松塚古墳の石室模型

② 出土品を調べよう。

博物館での学習

(1) 古墳から出土したもの



勾玉

耳環

高杯

壺



人物埴輪



金銅製馬具



鉄刀

(2) 大陸から伝わったものや大陸の影響を受けたもの

- ・ 須恵器…朝鮮半島から製作技術が伝わり、奈良・平安時代まで土師器とともに生産、使用されてきました。初期の須恵器は朝鮮半島の陶質土器に似ていますが、やがて、日本的な形に変化しました。
- ・ 郷屋古墳の中国製の四禽文鏡しきんもんきやう

1 日明一本松塚古墳の石室の大きさから古墳づくりのようすを想像しよう。

(1) 日明一本松塚古墳の石の大きさや数を見て、気付いたことや思ったことを書きましょう。



- ・ 大きな石をたくさん使って石室ができていますので、びっくりした。どのようにして、石を運んだのだろう。
- ・ どれだけの人数でこの石室を作ったのだろう。
- ・ 大きなお墓がなぜ必要だったのだろう。

(2) 日明一本松塚古墳の石室のようすなどを見て、気付いたことや思ったことを書きましょう。

- ・ 大きなお墓だから、えらい人のための墓である。
- ・ えらい人が力を示すための墓である。

2 出土品を調べよう。

(1) 古墳から出土したものにはどんなものがあるか書きましょう。(絵でもよい。)

(身に着けるもの)

- ・ 勾玉、耳環、ガラス製丸玉など

(生活に使うもの)

- ・ 高杯、壺、鉢、鉄製の農具など

(その他)

- ・ 金銅製馬具、鉄剣、鉄刀など

(2) 大陸から伝わったものや大陸のえいきょうを受けたものを見つけて書きましょう。

- ・ 朝鮮半島から作り方が伝わった須恵器
- ・ 中国の四禽文鏡

武士の世の中 | 武士の政治が始まる

1 単元の概要

鎌倉時代になると、貴族にかわって武士による政治が始まります。ここでは、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを中心に、武士による政治や社会が確立されていった様子を学習します。また、武士による政治が進められる中で、新しい文化が起こったことや人々の暮らしが変化していったことなどを、地域に残る歴史的資料などを積極的に活用して学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことを理解させる。
- 各種の基礎的資料を読み取ったり地域に残る建造物や史跡などの史料を活用したりしながら、当時の人々の暮らしや願いについて考えることができるようにする。



やから様 (八幡西区に残る平氏の伝承地)

3 指導計画 (総時数4時間)

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 武士の暮らしの様子や武士が力をもつようになったわけについて話し合い、学習問題をつくる。 ・武士の館 ・一所懸命	○ 貴族の屋敷と武士の館の図を比較したり、年表を確認したりして、武士の世の中への興味をもたせ、政治の仕組みや社会の様子について調べる計画をたてさせる	1時間
II 源頼朝と鎌倉幕府の政治の仕組みについて調べる。 ・御恩と奉公 ・執権北条氏	○ 将軍と御家人の関係図をもとに、土地を仲立ちにした政治体制の基本をとらえさせる。	1時間
III 元との戦いについて調べ、鎌倉幕府の力が衰えていったわけについて話し合う。 ・元寇 ・北条時宗	○ 元軍の戦いの様子や北条時宗に関するエピソードなどを調べ、幕府が2度の元の攻撃を退けたことがわかるようにする。 ◆ 蒙古襲来絵詞	1時間
IV 源平の戦いや武士による政治が行われていた時代についてまとめる。 ・平清盛 ・源頼朝 ・源義経 ・壇の浦の戦い ・金剛力士像 ・足利義満	■ 博物館での学習 ○ 源平の戦いと北九州との関わりを切り口に、この時代への関心を高める。 ○ 新しい文化や大陸との交易の様子を調べることを通して、武士の世の中の様子をとらえさせる。 ◆ 「源平の戦いと北九州」のパネル ◆ 金剛力士像 ◆ 遣明船シアター	1時間

4 学習展開例 (1時間扱い)

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
源氏と平氏の戦いと北九州とのつながりや、武士による政治が始まった時代についてまとめよう。		博物館での学習 1時間
I 北九州に残る平氏の伝承地を調べる。	○ それぞれの場所のいわれについて調べ、平氏と北九州の強い結びつきに気付かせるとともに、学習への関心を高めさせる。 ○ 平氏滅亡後、朝廷から征夷大將軍に任じられた源頼朝が鎌倉に幕府を開いたという事実関係をおさえる。	◆「源平の戦いと北九州」のパネル
II この時代の文化を代表する金剛力士像を見て、鎌倉時代の様子について考える。	○ 「金剛力士像」の質素さや力強さに着目させ、貴族の時代の文化とは違った武士の時代の新しい文化を当時の社会の様子と関連付けて考えさせる。	◆大興善寺 金剛力士像
III 遣明船シアターを見て、当時、行われていた大陸との交易の様子を調べる。	○ 菅原道真の進言により遣唐使が廃止された後も、大陸との交易は、宋⇒元⇒明との間で続き、我が国の経済に大きな影響を与えていたことに気付かせる。 ○ シアターで紹介される映像は、室町時代の話が中心だが、大陸との交易が、武士の世の中になって盛んに行われるようになったことをおさえる。	◆遣明船シアター ◆宋銭 ◆勘合印
IV 武士の時代になって、どのような社会がつくられていったのか考える。	○ これまで調べたことや考えたことをもとに、武士の時代になってどのような社会がつくられていったのか自分の考えをワークシートにまとめる。	

5 博物館での学習

源氏と平氏の戦いと北九州とのつながりや、武士による政治が始まった時代についてまとめよう。

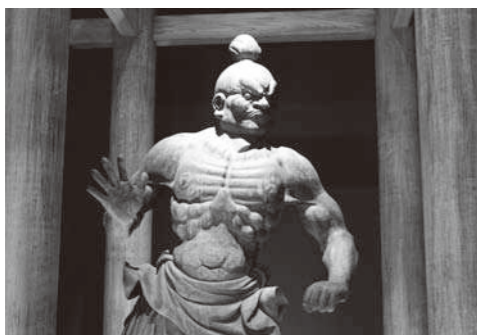
博物館での学習
1 時間

栄華を誇った平氏一族は、寿永4年(1185年)関門海峡の壇ノ浦で源義経率いる源氏との戦いに敗れ滅亡しました。平氏の勢力が強かった北九州には、平氏にまつわる伝承地が多く残っています。「源平の戦いと北九州」のパネルを見ることで、北九州と平氏の結び付きの強さを実感することができるでしょう。このような地域に残る史跡を調べることは、子どもたちの学習への関心をさらに高めることにつながります。



「源平の戦いと北九州」パネル

「金剛力士像」の置かれている大興善寺は、鎌倉幕府の執権北条氏が創建したと伝えられる寺院です。山門に立つ阿形・吡形の仁王像の姿からは、当時の気風を反映した質素で力強い武士の時代の新しい文化の興りを感じることができます。この像を見ることで、子どもたちは平安時代の貴族の文化とは違う、まさに時代の変化を感じ取ることができるでしょう。

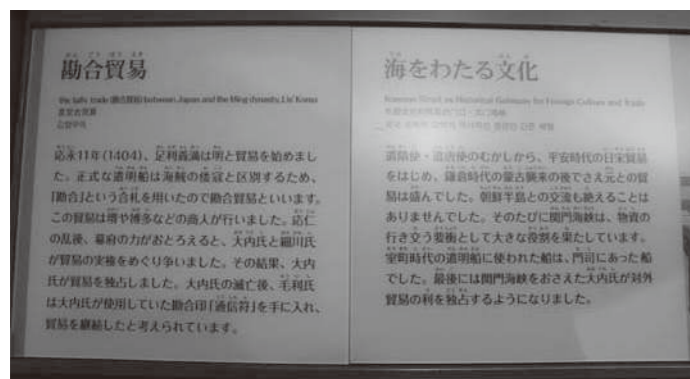


吡形の仁王像 (口を閉じている)



阿形の仁王像 (口を開けている)

平清盛は日宋貿易を進め、その拠点となった大輪田泊や博多は栄えました。鎌倉時代から室町時代にかけて大量に輸入された宋銭は国内に流通し、当時の市場の要求に応えるだけの貨幣量を準備できなかった我が国の経済の基盤となりました。北九州では、門司氏が早くから大陸との交易を担っており、シアターでは、その交易の様子がアニメーションで説明されます。子どもたちにとって、この映像資料は、武士の時代に始まった貿易の様子をわかりやすく伝えることでしょ。



「大陸との交易に関する説明文」



輸入銅銭 (宋の貨幣)

1 「金剛力士像」を見て、平安時代の文化とくらべて、気付いたことや考えたことを書きましょう。



予想される児童の回答
.....
筋肉がすごい、強そう、力が入っている、たくましい
.....
ちょっとこわい、カッコいい、貴族のふんいきとちがう、
.....
いかにも武士が好きそうな、武士らしい感じなど
.....
.....

2 遣明船シアターを見て、気付いたことや考えたことを書きましょう。



予想される児童の回答
.....
幕府は外国と貿易をして、しっかりともうけていた
.....
北九州は、昔から大陸への窓口になっていた
.....
遣唐使みたいに苦労しながら、大陸に渡って
.....
がんばっていた人たちがいたことがわかったなど
.....

3 学習したことをもとに、武士の時代になって、どのような社会がつくられていったのか考えて書きましょう。

予想される児童の回答
.....
武士が支配する、力強いふんいきをもった世の中になっていった
.....
戦いを繰り返して、勝った人たちが世の中を動かす立場になっていった
.....
外国とつきあい、お金をためて、しっかりとした日本になっていったなど
.....
.....

武士の世の中 | 全国統一への動き

1 単元の概要

応仁の乱の後、全国各地で領地を取り合う争いが起こり、力で世の中を治めようとする動きが現れてきました。そんな戦国の世の中も、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三人の武将によって統一され天下が治められるようになります。戦国の世がどのようにして統一されていったのか調べてみましょう。

2 学習のねらいと手だて

- キリスト教の伝来、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の天下統一について調べ、戦国の世の中が統一されていったことを理解させる。
- 三人の武将の活躍の様子をエピソードや絵図などの具体的な資料をもとに調べ、その業績や生き方などについて考えることができるようにする。



検地の模型

3 指導計画（総時数6時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 三人の武将の天下統一のあゆみについて話し合い、学習問題をつくる。	◆ 豊臣秀吉朱印状	1時間
II 織田信長の天下統一への歩みについて調べる。 ① 長篠の戦い ② キリスト教の保護	◆ 長野城合戦ジオラマ（鉄砲の利用）	1時間
III 豊臣秀吉の天下統一への歩みについて調べる。 博物館での学習 ① どのようにして検地が行われたのかを調べる。 学校での学習 ② 刀狩や外交政策などの政策について調べる。	○ 全国統一されていった様子を展示物からとらえることができるようにする。 ◆ 豊臣秀吉朱印状 ◆ 規矩郡水町村検地帳 ◆ 検米刀	2時間
IV 徳川家康の天下統一への歩みについて調べる。 ① 関ヶ原の戦い ② 江戸幕府の成立	◆ 天下統一と江戸の開府パネル ◆ 江戸幕府と小倉藩・福岡藩の成立パネル	1時間
V 調べて分かったことを発表し合い、天下統一の様子についてまとめる。		1時間

4 学習展開例（2時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
1 検地について調べよう。 I 検米刀について調べる。 II 検地の模型を見て、どのように行われたのかを調べる。 III 支配されていった農民の気持ちや豊臣秀吉の考えについて話し合う。		博物館での学習 1時間 ◆ 検米刀 ◆ 検地の様子 の模型 ◆ 寛永三年規矩郡干上村田島検地帳 ◆ 豊臣秀吉朱印状
2 豊臣秀吉の天下統一への歩みについて調べよう。 I 豊臣秀吉がどのように全国統一を進めたのかを調べる。 ・刀狩 ・外交		学校での学習 1時間 ○ 豊臣秀吉が全国統一を成し遂げるまでの経緯や刀狩、外交について調べ、世の中にどのような影響があったのかを考えるようにする。 ○ 豊臣秀吉が検地や刀狩を行うことで、武士が農民を支配する基盤を整えたことを理解するようにする。

5 博物館での学習

1 検地について調べよう。

博物館での学習
1時間

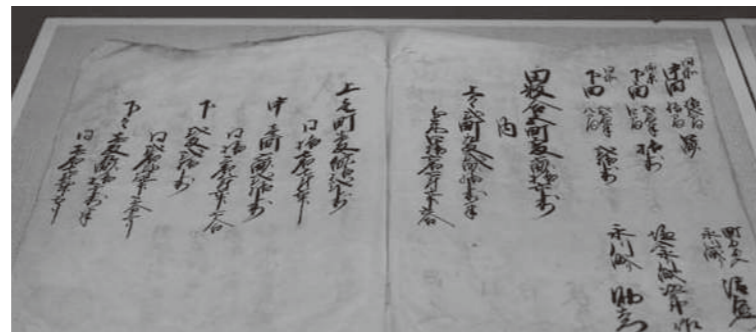
検米刀は年貢として納められた俵から米を抜き取り、品質を検査するために使われました。良質なものは売って、質の悪いものを年貢として納めようとする農民も中にはいたようです。また、刀の形になっているのは、農民との身分の差を示すためにこの形になっています。さらに、検査で使用する分のお米は、年貢で納める量に含まれなかったため、年貢用と検査用の両方の量のお米を納めないといけませんでした。



検米刀



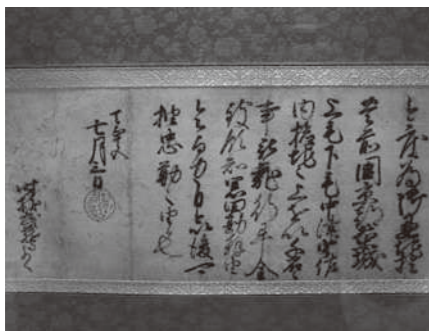
検地の様子



寛永三年規矩郡干上村田畠検地帳

まず、検米刀をよく観察し、ワークシート(1)に書きます。農民が年貢の米を検査されるということから、豊臣秀吉の政策に興味をもたせるようにし、検地についてワークシート(2)にまとめます。

豊臣秀吉の重要な政策の一つである太閤検地では、ものさしの長さや升の大きさを全国で統一し、田畑の面積や収穫量を調べました。その土地の生産力を米の体積で表しました。畑の四隅に細見竹を立て、中間に梵天竹を立て、縄を十文字にはり、田の面積を計算したことがわかります。



豊臣秀吉朱印状

「寛永三年規矩郡干上村田畠検地帳」は太閤検地の施行原則にならない、江戸時代の寛永3年(1626年)に土地台帳として作られました。この検地は小倉北区の日明で行われたものです。帳簿作成に当たっては、庄屋、百姓と藩方役人の双方が立会い、了解のもとで行われました。検地帳には、等級、面積、年貢高、耕作者を記載し、全国の土地を豊臣政権が管理しました。また、耕作者をはっきりとさせたことから、年貢を確実に取り立てるようにしました。この政策はのちの江戸時代まで続いていきます。

この朱印状は、豊臣秀吉から豊前の豪族である時枝武蔵守に与えられたものです。京都・築城・上毛・下毛・中津・宇佐の中で検地を実施したのちに、1000石の領地を与えると書かれています。秀吉によって、九州が平定されたことがわかります。

このようにして豊臣秀吉は全国を支配していきました。年貢を取り立てられ、取り立てられた後も検査をされた農民の気持ちや豊臣秀吉の政策の意図を考えることで理解を深めるようにします。

1 「検米刀」からどのようなことが分かるか書きましょう。



- 検米刀を見て、気がついたことを書きましょう。
- ・刀の中が空洞になっている。
 - ・長さは短い。
 - ・切れそうにないので争いなどでは使えない。

2 検地の様子の模型を見て、気付いたことを書きましょう。



- 検地は誰がどのように行ったのでしょうか。また、どのような道具を使用しているのでしょうか。
- ・役人が計測している。
 - ・田の端に細見竹を立てて長方形を作っている。
 - ・細見竹と細見竹の中間に梵天竹を立て、十字木で直交を確かめている。

3 検地や検査をされた農民の気持ちやそれを行った豊臣秀吉の考えを書きましょう。

<農民の気持ち>

- ・逃れることができない。
- ・年貢を納めないといけない。
- ・ごまかすことができない。
- ・とても苦しい。

<豊臣秀吉の考え>

- ・全国の土地を正確に測量し、管理したい。
- ・土地の広さや良しあしに合わせて、年貢を確実に取りたい。
- ・納められる年貢も品質の良いものを取りたい。

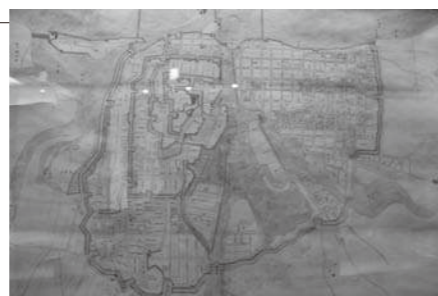
幕府の政治と人々の成長

1 単元の概要

江戸時代、北九州市は譜代大名である小笠原氏の小倉藩、外様大名である黒田氏の福岡藩に分かれていました。本博物館をはじめ市内には江戸時代に関する様々な資料が残っています。それらを活用し、江戸幕府の政治の仕組み(大名支配・身分制度・交通政策・外交政策等)について学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 大名支配(大名行列・大名の配置・参勤交代・武家諸法度等)、農民に対するおふれ書き、街道整備、「鎖国」などについて調べ、これらの政策によって江戸幕府による支配体制が確立していったことを理解させる。
- 博物館の資料を活用して江戸時代のイメージをもたせながら調べる活動を通して、江戸幕府が支配体制を強めていったことを捉えることができるようにする。



豊前小倉図 宝暦年間 (1751 ~ 63)

3 指導計画(総時数5時間)

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 「大名行列」の絵を見て話し合う。 ① 行列の人数や持ち物 ② 行列を迎える人々の様子	◆ テーマ館通史イメージ映像「路-北九州の人々の歩みと交流-」のうち、街道や参勤交代の路の部分を活用。	1時間
II 幕府の大名支配について調べ、家光や支配される大名の立場で、それぞれの考えや思いについて考える。 学校での学習 ① 幕府がどのようにして大名を支配したのか調べる。 博物館での学習 ② 江戸時代初期の九州北部の大名配置について調べる。 ・細川忠興と小笠原忠真	○ 大名支配の政策(武家諸法度、参勤交代)を調べ、家光や支配される大名の立場に立って考えさせる。 ○ 博物館の資料をもとに九州北部の大名配置を調べ、豊前国に細川家や小笠原家など徳川家と結び付きの強い大名を配置した意味を考えさせる。 ◆ 細川忠興・小笠原忠真肖像画 ◆ 大名配置図(1601年)(1632年) ◆ 豊前小倉図	2時間
III 外国との交流がどのように変わっていったのか調べる。 ・キリスト教禁止や「鎖国」政策、「鎖国」下の外国との交流	○ キリスト教の禁止と「鎖国」政策とを関連的にとらえさせるとともに、中国などとの交流についても理解させる。 ◆ 文化の交流、外国の文化 ◆ 密貿易船打払い図	1時間
IV 幕府が行った身分制度や人々の暮らしの様子を調べる。	○ 農民に対するお触書などから、身分制度が確立したことをとらえさせる。	1時間

4 学習展開例(2時間扱い)

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
① 幕府がどのようにして大名を支配したか調べよう。 I 全国の大名配置図から、幕府の考えた大名配置の工夫について考える。 ・徳川家光 ・親藩、譜代、外様の配置 II そのほかにも幕府が行った大名を支配する工夫について調べる。 ・武家諸法度 ・参勤交代	○ 徳川家光の人物像について調べさせ、大名の力を弱めるために知恵を働かせたことを理解させる。 ○ 全国の大名配置図から、大名配置の工夫について気付かせる。 ○ 幕府の大名支配について、幕府と大名それぞれの立場で考えさせ、260年に及ぶ幕藩体制の基礎が固まったことを理解させる。	学校での学習 1時間
② 江戸時代初期の九州北部の大名配置について調べよう。 I 2枚の大名配置図から、2人の藩主細川忠興と小笠原忠真について調べる。 ・大名配置図(1601年)(1632年) ・徳川家と細川忠興、小笠原忠真 II 常盤橋や小倉藩城下町の模型や解説パネルから、豊前小倉藩の重要性について調べる。 III 細川忠興と小笠原忠真を豊前小倉藩の藩主としたわけについて考える。	○ 1601年と1632年の大名配置図を比べ、気が付いたことをワークシート(1)にまとめさせる。 ○ 解説パネルをもとに細川忠興と小笠原忠真について調べたことをワークシート(2)にまとめさせる。 ○ 徳川家と細川・小笠原両氏との関係を調べ、両大名が徳川家との結び付きが強かったことを理解させる。 ○ 模型や解説パネルをもとに教師が説明し、本州への玄関口であり、長崎街道の起点である小倉が、重要な地理的位置にあったことをとらえさせる。 ○ 豊前小倉藩に、幕府が信頼のおける大名を配置したわけについて、ワークシート(3)にまとめさせる。	博物館での学習 1時間 ◆大名配置図(1601年)(1632年) ◆国境石 ◆忠興肖像画 ◆忠真肖像画 ◆細川・小笠原氏の解説パネル ◆常盤橋及び解説パネル ◆小倉城下町の様子(模型、解説パネル)

5 博物館での学習

2 江戸時代初期の九州北部の大名配置について調べよう。

博物館での学習
1時間

江戸時代の北九州市域は、門司・小倉は豊前国小倉藩、若松・戸畑・八幡は筑前国福岡藩に属していました。北九州は本州への玄関口にあり、交通要衝の地として、大名の参勤交代、幕府役人や外国使節の往来など、水陸ともに賑わいを見せました。

「テーマ館・江戸時代の北九州」では、豊前国小倉藩の初代藩主・細川忠興と細川家が肥後国(熊本)に転封したのち、小倉藩主となった小笠原忠真の肖像画や九州北部の大名配置図、各種解説パネルなどが展示され、幕府がどのように九州の大名支配を考えていたかをうかがい知ることができます。

まず、1601年と1632年の2枚の大名配置図を比べて、気が付いたことをワークシート(1)にまとめます。

次に、豊前国小倉藩主が細川家から小笠原家に替わったことから細川忠興と小笠原忠真について興味をもたせ、解説パネルをもとに調べ、ワークシート(2)にまとめます。



国境石 (館内)



1601年の大名配置図



1632年の大名配置図



常盤橋

さらに、常盤橋や小倉城下町の解説パネルをもとに、小倉藩が本州への玄関口であり、長崎街道の起点でもある交通要衝の地であることなどを教師がわかりやすく解説しながら、幕府が小倉藩を重要な地として考えていたことをとらえさせるようにします。

最後に、小倉藩の地理的重要性と徳川家と結び付きが強い細川・小笠原両家を藩主としたことを関連的にとらえ、ワークシート(3)にまとめ、幕府の大名配置の工夫について理解を深めるようにします。

以上のような博物館の資料を活用した学習を展開することにより、幕府のとった全国的な大名配置という政策を、地元の豊前小倉の大名の配置と結び付けて考えることができます。

1 江戸時代初期の九州北部の大名配置について調べよう。

(1) 1601年と1632年の大名配置図を比べて、気が付いたことを書きましょう。

- ・1601年、江戸幕府が開かれたころは、豊前小倉藩の藩主は細川家だったのに、1632年には、小笠原家にかわっている。
- ・筑前福岡藩の藩主は、1601年も1632年も黒田家のままで、かわっていない。
- ・1632年になると、豊前国は2つの藩に分かれている。

・・・など

○豊前小倉藩…今の小倉北区、(門司)区

○筑前福岡藩…今の若松区、(戸畑)区、(八幡東)区、(八幡西)区

(2) 初代小倉藩主細川忠興と細川家に替わって小倉藩主となった小笠原忠真についてまとめましょう。



【細川忠興】

- ・関ヶ原の戦いで戦功のあった細川忠興は、丹後国宮津から入国した。
- ・小倉城を大改築し、城下町や社会の諸制度など、小倉藩の基礎を築いた。
- ・1620年に三男忠利があとをつぎ、1632年、細川氏は熊本にうつった。

・・・など



【小笠原忠真】

- ・1632年、細川家にかわって、播磨国明石からうつってきた。
- ・忠真は、徳川家康のひ孫にあたり、九州に最初に入った譜代大名であった。
- ・細川家とも親せき関係にあって、細川家の築いた小倉藩の基礎を発展させた。

・・・など

(3) 幕府が細川忠興や小笠原忠真を小倉藩主にしたわけについて考え、書きましょう。

- ・小倉藩は、九州と本州をつなぐ玄関口で、とても大切な位置にあった。幕府は、徳川家と親しく、信用できる大名である細川忠興や小笠原忠真を藩主にして、九州の大名たちを支配しようと考えたからである。

・・・など

新しい時代の幕開け | 小倉のまちの様子を調べよう

1 単元の概要

江戸時代の小倉城下町は、海陸交通の要の地として発展しました。博物館をはじめ市内には江戸時代に関する様々な資料が残っています。それらを活用して、江戸時代の交通や人々の暮らし、文化について学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 長崎街道の様子（黒崎宿や木屋瀬宿等）や、小倉城下町の様子、人々の暮らしについて調べ、交通が発展していった様子や文化が栄えたことを理解させる。
- 博物館の江戸時代に関する具体的な資料や見学など、郷土に関する資料の活用を図り、江戸時代の小倉のまちのイメージをもつことができるようにする。



豊前小倉図

3 指導計画（総時数5時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 江戸時代の江戸・大阪・京都のまちの様子について話し合う。 ・日本橋付近の様子 ・大阪の港のにぎわい	◆ テーマ館通史イメージ映像「路-北九州の人々の歩みと交流-」を活用。 ○ 人々の暮らしや文化、社会の変化について問題意識をもたせるようにする。	1 時間
II 江戸時代の文化の様子について調べる。 ・歌舞伎 ・浮世絵	○ 新しい文化を当時の人が楽しんだ様子をとらえさせるとともに、江戸時代に生まれた文化が現代の暮らしの中に引き継がれていることに気付かせる。	1 時間
III 江戸時代の交通や産業の発達を調べる。 ・街道や航路 ・各地の特産物	○ 街道や航路の整備によって人々や物の行き来が盛んになり産業が発達し、人々の生活が豊かになっていったことに気付かせる。	1 時間
IV 江戸時代の小倉の城下町の交通の様子や人々の暮らし、文化について調べる。 ・江戸時代の城下町の様子 ・小倉のまちの人々の様子や文化	■ 博物館での学習 ○ 博物館の展示物の見学を通して、江戸時代の小倉城下町の様子や文化についてとらえさせる。 ◆ 西国内海名所一覧 ◆ テーマ館・江戸時代の北九州の展示品	1 時間
V 江戸時代の新しい学問や教育について調べる。 ・国学と蘭学 ・寺子屋や藩校について	○ 新しい学問が世の中に与えた影響について話し合う。	1 時間

4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
江戸時代の小倉城下町の様子や文化について調べよう。		
I 江戸時代の小倉城下町の様子について調べる。	○ 博物館にある小倉城下町のジオラマや「西国内海名所一覧」などの簡単な説明をもとに、当時の小倉城下町の様子や人々の暮らしについて概観させる。 ○ 展示品の紹介文から、当時の小倉城下町について調べさせる。 ○ 長崎街道に関する展示等から、江戸時代に交通が発展していった様子をとらえさせる。 ○ 観察して気付いたことなどをワークシート1に記入させる。	博物館での学習 1 時間 ◆テーマ館 ◆江戸時代の北九州の展示品 ◆小倉城下町のジオラマ ◆西国内海名所一覧 ◆長崎街道に関する展示 ◆黒崎宿古図 ◆木屋瀬宿図絵馬
II 小倉のまちの人々の様子や文化について調べる。	○ 博物館内の展示品から、江戸時代の小倉のまちの人々の様子や文化について調べさせる。 ○ 調べたことをもとに、ワークシート2に記入させる。 ○ 小倉のまちが、交通の要衝であったことから、人やものが集まり産業が発展していったことをとらえさせる。	◆上野焼に関する展示 ◆輸入陶磁器に関する展示 ◆小倉織と小倉縮に関する展示 ◆名産と名所 ◆町と商人 ◆外国の文化
III 分かったことや感想をまとめる。	○ 博物館での学習を通して、分かったことや感想をワークシート3に記入させる。	

5 博物館での学習

江戸時代の小倉城下町の様子や文化について調べよう。

博物館での学習
1時間

博物館の「テーマ館・江戸時代の北九州」には城下町小倉の模型、長崎街道の起点である常盤橋の欄干、長崎街道に関する展示、北九州市の海運に関する展示などがあり、小笠原氏の城下町であった当時の小倉の様子、また、そこで生活していた人々の暮らしなどを、展示物や紹介文などからうかがい知ることができます。「小倉城下町の様子」模型は、江戸時代後期の小倉城下町の様子をジオラマで再現したものです。

「西国内海名所一覧」を観察し、船や倉庫がたくさんあり、人通りが多い様子から、北九州が本州への玄関口にあり、交通の要衝の地として、大名の参勤交代、幕府の役人や外国使節の往来など、水陸ともに賑わいを見せていたことや、当時の人々や地域の様子をつかませることができます。

また、「なぜ、長崎街道を整備したのか」「なぜ、象が通ったのか」等について考えさせることにより、江戸幕府の国内政策や対外政策等の学習につないでいくこともできます。



小倉城下町の様子



西国内海名所一覧

江戸時代の小倉は、小笠原 15 万石の城下町で港町や宿場町として海陸交通の要の地として発展しました。城下町として栄えた小倉には様々な人やものが集まり産業が発展しました。

また、江戸時代初期、「鎖国」制が敷かれる以前には、小倉には「唐船」が入港しており、対外貿易も盛んでした。博物館にある、小倉城下町をえがいた「西国内海名所一覧」や「豊国名所」には、小倉織や三官飴、火打ち石など小倉を代表する名産が描かれています。これらの展示品を見学することにより、江戸時代の小倉のまちの人々の様子や文化について具体的につかむことができます。



小倉織袴



輸入陶磁器

1 小倉城下町を調べよう。

(1) 「西国内海名所一覧」の絵を見て、当時の小倉城下町の様子について気付いたことを書きましょう。

- ・海にたくさんの船が集まっている。
- ・港の近くに倉庫のような建物がたくさんある。
- ・道を大名行列のようなものが通っている。
- ・とてもにぎわっている感じがする。

(2) 江戸時代の小倉城下町の様子について、次の文の()にあてはまる言葉を入れ、文を完成させましょう。【ヒントは、テーマ館・近世の展示資料説明板にあります。】

- ・小倉城下町の町域は、東西に約(2) km、南北に(1.3) km、中央を(紫川)が流れ、北は響灘に接しています。
- ・「西国内海名所一覧」には、手前中央紫川にかかる(常盤)橋と河口の船溜ふなだまりを配置し、東西に走る(長崎街道)に連なる京町・(室)町の町並みが描かれています。
- ・小倉は、本州への渡航地でもあり、港町・(宿場町)の性格もそなえていました。

2 テーマ館・江戸時代の北九州の展示資料を調べて、江戸時代の小倉の名産品や、輸入品にはどのようなものがあったか書きましょう。

【小倉の名産品】

- ・小倉織 ・上野焼 ・三官飴

【輸入品】

- ・西洋のディナー皿、ケーキ皿、ティーカップ、盃、酒瓶

3 学習して分かったことや感想をまとめよう。

- ・江戸時代の文化の様子や交通・産業の発達、小倉の城下町についての記述が書かれていればよい。

近代国家へのあゆみ | 二つの戦争と日本・アジア

1 単元の概要

日清戦争や日露戦争を経て日本の国力や国際的な地位が向上しました。なかでも日清戦争の賠償金でつくられた八幡製鉄所は、その後の日本の発展に大きく関与しました。またそのかげには、八幡製鉄所の鉄づくりを支えた、筑豊炭田で働く人々の姿もありました。一方で、差別をなくす運動や選挙権を求める運動などもこの時期に起こりました。

2 学習のねらいと手だて

- 博物館の学習では、筑豊炭田で働く人々と官営八幡製鉄所の発展を調べる活動を通して、鉄作りを中心に日本が近代国家へと進む様子を理解させる。そして、それを支えた人々の努力や願いに気付くようにする。



山本作兵衛の炭鉱記録画（1975）

3 指導計画（総時数6時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 日清・日露戦争の様子について調べ、その背景にある国際状況や戦争の影響について話し合い、学習問題をつくる。	○ 教科書の資料を基に、二つの戦争が起こったわけを考えさせる。	1 時間
II 日露戦争のあとの日本とアジアの国々との関係について調べる。	○ 教科書の資料を基に、多くの国民は、戦争の勝利を喜んでいる一方、疑問を抱く人もいたことを理解させる。 ○ 朝鮮を植民地とし、我が国が朝鮮の人々に苦しみを与えたことを理解させる。	1 時間
III 不平等条約を改正していった経過を調べ、日本の国際的な地位の変化について話し合う。	○ ノルマントン号事件の絵を基に、日本と欧米諸国との関係について話し合わせ、条約改正の様子を理解させる。	1 時間
IV 戦争のあと産業はどのように変わったかについて、筑豊炭田や官営八幡製鉄所を中心に調べる。	<p>■ 博物館での学習</p> ○ テーマ館「明治時代以降の北九州」の展示資料を活用し、八幡製鉄所の様子とそれを支えた筑豊炭田の様子を調べさせる。 ◆ 炭鉱記録画 ◆ 炭鉱切符 ◆ 大日本帝国製鉄所全景 ◆ 製鉄所及付近図	1 時間
V 産業の発展と同時に起こった様々な問題を考える。	○ 田中正造の取組について調べたり、米騒動について話し合ったりすることで、産業発展の問題点を考えさせる。	1 時間
VI 差別をなくす運動や選挙権を求める運動を調べ、明治から大正期にかけての政治や社会の変化を話し合う。	○ 水平社演説会の訴えや平塚らいてうの文章、選挙権の拡大のグラフを基に話し合い、平等な社会を目指す運動がさかんになったことを理解させる。	1 時間

4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
<p>1 筑豊炭田の様子について調べよう。</p>		
<p>I 4年生の学習を想起する。</p> <p>II 炭鉱記録画（坑内の労働）を見て、何をしている様子を描いているのかを話し合う。</p> <p>III 炭鉱記録画（坑外の労働）を見て、筑豊炭田が活気づいている様子を話し合う。</p>	<p>○ 4年生で学習した堀川の川ひらたの学習を想起させ、水運として堀川が活用されていたことに触れる。そして、運ばれていた石炭は、筑豊炭田で採掘されたことを知らせ、学習の導入とする。</p> <p>○ 石炭を知らない児童も多くいると思われるので、どのように採掘を行い利用していたのかを補説する。また、絵中の吹き出しに書かれている説明を読ませ、内容を考えさせる。</p> <p>○ どのような状況で作業していたのかを考えさせ、そのときの気持ちを想像してワークシートに書かせる。</p> <p>○ 十分に観察してから、絵から分かったことをワークシートに書かせる。</p> <p>○ 絵中の吹き出しに書かれている説明を読ませ、分かったことをワークシートに書かせる。</p>	<p>博物館での学習 1 時間</p> <p>◆川ひらたや石炭の展示（テーマ館 江戸時代の北九州）</p> <p>◆炭鉱記録画（坑内の労働）</p> <p>◆炭鉱で使った道具</p> <p>◆炭鉱記録画（坑外の労働）</p> <p>◆現地の娯楽を表した記録画</p>
<p>2 八幡製鉄所について調べよう。</p>		
<p>IV 八幡製鉄所の位置を地図で調べる。</p> <p>V 建設当時の八幡製鉄所の様子を調べて、ここに建てられた理由を考える。</p>	<p>○ 展示資料を見て、現在スペースワールドやいのちのたび博物館がある場所に敷地があったことを確認させる。</p> <p>○ 八幡製鉄所の位置をワークシートの地図で確認させる。</p> <p>○ 展示資料や説明を見て、八幡製鉄所の様子を理解させる。</p> <p>○ 建設には日清戦争の賠償金が使われたことを知らせる。</p> <p>○ この地に八幡製鉄所が建てられたわけについて、筑豊炭田と結びつけて考え、ワークシートに書かせる。</p>	<p>◆製鉄所及び付近の地図</p> <p>◆大日本帝国製鉄所全景</p> <p>◆説明「筑豊の石炭と輸送」</p>



炭鉱で使われた道具類



八幡市鳥瞰図

5 博物館での学習

1 筑豊炭田の様子について調べよう。

博物館での学習

博物館のテーマ館「明治時代以降の北九州」には、2011年に田川市の所蔵作品が世界記憶遺産に登録されたことでも有名な、山本作兵衛の記録画が展示されています。彼の最大の作品とされるこの展示とそこに書かれている言葉、実際に炭鉱で使った道具、炭鉱切符などをしっかりと観察して読み取ることで、当時の筑豊炭田の様子や生活の様子を知ることができます。そして、分かったことや思ったことをワークシートに書く活動を通して、八幡製鉄所をはじめ日本の近代化のために努力した人々の気持ちを考えることができます。



炭鉱記録画

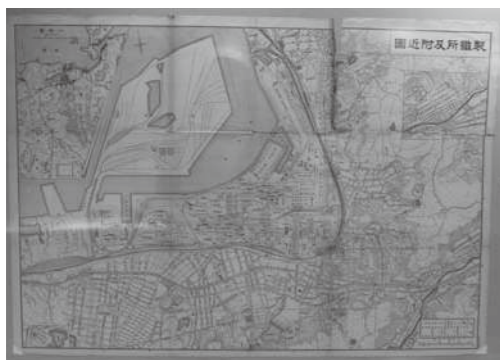


炭鉱切符

2 八幡製鉄所について調べよう。

博物館での学習

博物館のテーマ館「明治時代以降の北九州」には、官営八幡製鉄所に関する資料も展示されています。筑豊炭田の石炭の利用を考えてこの地に建設されたことを、「製鉄所及付近図」などを参考にして理解させてください。また、「いのちのたび博物館」への行き帰りに見える「東田第一高炉史跡」にも触れることで、当時の八幡製鉄所は、まさに今自分たちが住んでいる場所にあったことを知らせると、より実感がわくと思われれます。また、建設当時の様子を伝える資料「大日本帝国製鉄所全景」を観察して気付いたことをワークシートに書かせ、どのような工場が建てられたのかを考えさせてください。そして、八幡製鉄所を中心に多くの工場が建てられたことで、かつて四大工業地帯の一つとまで言われるようになった北九州市の発展を理解させてください。



製鉄所及附近図



大日本帝国製鉄所全景

1 筑豊炭田の様子について調べよう。

(1) 炭鉱記録画を見て、気づいたことを下の表にまとめましょう。

どんな作業をしているか	せまいところで、機械を使わずに働いている。トンネルの中で危ない感じがする。
働く人の様子はどうか	暑そう。きつそう。男の人も女の人も同じように働いている。
機械や道具などについて	大きな機械は使っていないで、ほとんど手作業だ。馬も働いている。今より仕事が大変そう。
そのほかに気付いたこと	

(2) 炭鉱で働く人々はどんな気持ちで作業していたでしょう。想像して書いてみましょう。

とても危険な仕事だけれど、掘った石炭が日本の鉄作りに使われたり、みんなの生活に役立ったりするから、頑張って働こう。

2 八幡製鉄所について調べよう。

(1) 左の「製鉄所及付近図」と右の現在の八幡の地図を比べて、八幡製鉄所があった場所を現在の地図で確認しましょう。また、気付いたことを下の に書きましょう。



現在のいのちのたび博物館やスペースワールドがあるところに、昔は八幡製鉄所があった。とても広い面積にたくさんの工場が建てられていた。

(2) 「大日本帝国製鉄所全景」の資料を見て、八幡製鉄所はどんな工場だったのか、気付いたことを書きましょう。

いろいろな種類の工場があった。煙突もたくさんあり、煙が多く出ていた。広い面積を使って大きな工場が建てられていた。鉄をつくるためには、大きな工場がたくさん必要だったのかもしれない。

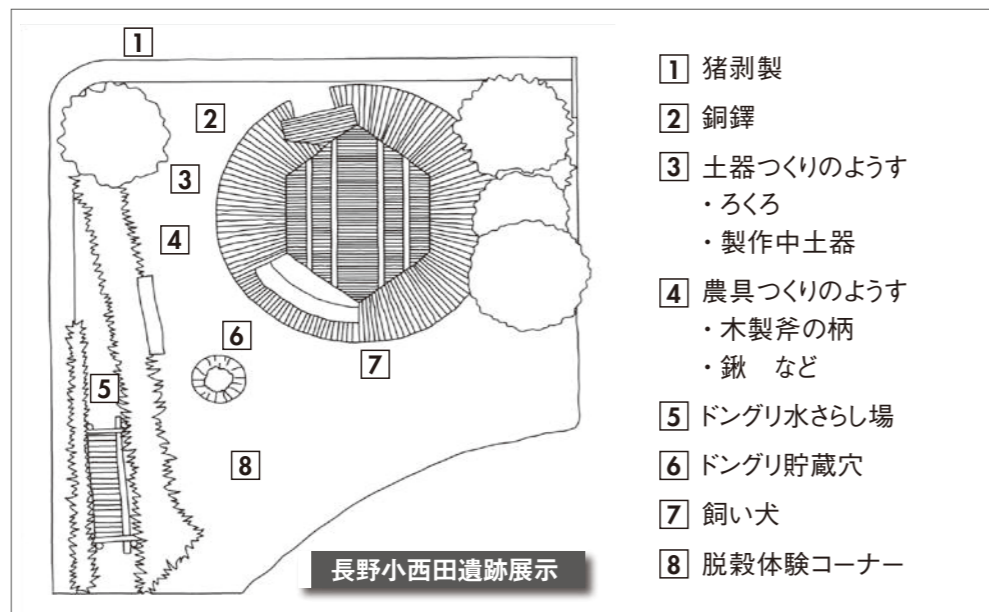
(3) この地に八幡製鉄所が建てられたわけを、筑豊炭田と結びつけて考えて書きましょう。

鉄作りに必要な大量の石炭を、近くにある筑豊炭田からすぐに運ぶことができたから。

探究館の展示案内 / 弥生時代復元住居

場所	展示
竪穴住居内部	家族の人形 ・石包丁を作っている父親 ・石槍をもつ男子 ・米をとぐ母親 ・木の枝をもつ女の子
	食べ物 ・干されている稲 ・米 ・柿 ・栗 ・山芋 ・干し魚 ・火であぶられている魚 ・貝
	土器 ・甕…2 ・壺…2 ・高坏…1
	道具など ・土笛 ・石包丁 ・石囲いの炉

◎ 考古探究館見取り図



- ・ ここでは、北九州市小倉南区の長野小西田遺跡をモデルに、弥生時代の暮らしが体感できるよう再現しています。季節は秋です。
- ・ この遺跡ではドングリのアクを抜くための「水さらし場」やドングリの貯蔵穴が見つかっています。「水さらし場」は、川の底に割り裂いた木で枠を作ったもので、長さ30数メートルにもおよぶ大規模なものでした。このムラでは、米だけでなくドングリも大量に食料としていたことが分かります。

長野小西田遺跡出土品

- ・ ドングリ貯蔵穴断面
・ 小型壺
・ 袋状口縁壺
・ 脚付短頸壺
・ 長頸壺型土器
・ 壺型土器
・ 器台
・ 砥石
・ 叩石
・ 太型蛤刃石斧
・ 挟入柱状片刃
・ 石鎌
・ 平鍬未製品
・ 把手付き容器
・ 石斧直柄未製品
・ 扁平片刃石斧
・ 柱状片刃石斧
・ 石剣
・ 石包丁
・ 皮袋形土器
・ 鐸型土製品
・ 鉄製鋤、鋤先
・ 鉄製鉋
・ 青銅製鋤先
・ パネル「長野小西田遺跡」
- ※ この時代の道具の中心は、石でした。鉄、青銅器が使われ始めた時代です。

探究館の展示案内 / 弥生時代 家族の会話(朝)







家族	ナレーション	食べ物・生活用品
母親	おはよう。今朝は、空気が冷たいね。朝日がでるのが、ずいぶん遅くなったね。	
父親	おはよう。だんだん朝が寒くなるなあ。何か飲みたいな。	
母親	今、温かいものを作りますよ。	・火を使った食事
父親	今日は、天気がよさそうだ。みんなで森へ木の実を採りに行くことにしよう。一人一人籠を背負って行くだよ。	・籠
男子	栗がたくさんってるよ。 私は、残るわ。小川でドングリをさらしたり、もうすぐ冬が来るから、着るものも編まなくちゃならないし。食べ物がすくないうえに、寒さがひどくて、赤ん坊が何人もしんじった年があったねえ。	・栗 ・ドングリ ・編んだ衣類 ・食糧事情
	 ドングリ貯蔵穴	
女の子	お父さん、昨日雨だったから、キノコが生えているような気がするんだ。	・キノコ
父親	そうだなあ。キノコも採ろう。夕方までかかるから、何か食べ物を持って行こう。	
母親	昨日の夜作った栗餅を焼いてあげよう。	・栗
女の子	私、栗餅大好き。お兄ちゃんがたくさん食べるから、いっぱい焼いてね。	
父親	そうだ。鳥がいるかもしれないから弓矢を持って行こう。コノは、射落とした鳥を探してくるのが得意だからな。	・鳥肉 ・飼い犬
母親	ほんとに、いい犬だよ。お父さんが子犬の時から、よく仕込んだんだよ。	
父親	帰ってきたら、石斧を作るよ。いい石を手に入れたんだ。お前も手伝えよ。	・石斧
男子	うん。ぼくの使う石斧も作ってね。今度木を切って見せるぞ。	
父親	怪我に気をつけろ。命取りになるぞ。	・怪我の手当ての事情
女の子	私の使う石包丁も作ってね。今年から私も稲刈りを手伝うわ。	・石包丁

探究館の展示案内 / 弥生時代 家族の会話(夜)



家族	会話	食べ物・生活用品
母親	今日は、キノコがたくさん採れたね。	・キノコ
女の子	落ち葉にかくれていたのを私が見つけたの。かたまって生えていたよ。	
母親	それはよかったね。キノコが生えるところは、毎年決まっているから、おぼえておくんだよ。	
女の子	キノコを採っていたら、何かが走って通ったの。びっくりしてそっちを見たら、猪の親子だったの。獣道だったんだね。きつと。	・猪肉
男子	親は、大きくて牙があって怖かったよ。猪狩りってたいへんだらうな。	
父親	そうさ、大勢いなければ無理だよ。遠くから罫んで追い詰めて獲るんだ。今度、猪狩りについて来るか。	・狩の方法
男子	えっ。ほんと。きつと連れに行っ。	
母親	鹿は、見なかったかい。	・鹿肉
男子	鹿の群れが遠くの山に行くのを見たよ。鹿狩りもいいなあ。	・稲 ・粟 ・豆
父親	丘から田んぼを見渡したけれど、今年は豊作だなあ。どの田も重そうな穂がついているよ。山のほうの粟や豆もよく実っているよ。	
女の子	豆がおいしそうだったよ。	
父親	今年は、ムラから飢え死にする子を出さなくてすむな。このムラも豊かになったもんだね。	
女の子	神様に感謝しなくちゃね。今年のお祭りは、にぎやかになるね。ほかのムラからも大勢来るよ。お供え物もたくさんになるね。	・お供え物
男子	お父さんは、また武器を持って鳥のような格好をして踊るの? (※この踊りについては、考古探究館前で上映される展示映像「弥生の暮らし」参照)	・武器 ・祭の装束
父親	そうさ、いい踊りだらう。鳥は神様の使いなんだ。幸せをよんでくるんだ。お前もよく見ておきなさい。 武器の使い方も覚えなければだめだぞ。男なんだから。	



探究館映像 / 弥生の暮らし

画面	ナレーション
<p>1 北九州の弥生のムラ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○石包丁で稲の穂を摘み取る様子。 ○高床式倉庫に稲を保管する様子。 ○ムラの中の生活の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・機を織る人 ・犬をおいかける子どもたち ・ドングリ水さらし作業 	<p>弥生のムラに実りの秋が訪れました。</p>  
<p>2 祭り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鳥の姿の男の踊り ○祭りに参加する人々 <ul style="list-style-type: none"> ・銅鐸を鳴らす人 ・楽器を演奏する人 ・踊る人 	<p>男たちは、鳥の姿を装い踊りました。</p> <p>弥生の人たちは、豊作を神に感謝する祭りを行いました。収穫を祝って歌い、踊ります。</p> 
<p>3 埋葬</p> <p>テロップ</p> <p>「死する停喪十余日、時に当りて肉を食わず、喪主哭泣し、他人就いて歌舞飲酒す。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○埋葬するようす。石棺。 ○祈りを捧げる巫女 ○葬式に参加する人々の様子。 <ul style="list-style-type: none"> ・死者を悼む人々 ・飲食をする人々 ・踊る人々 	<p>弥生時代は、病気や怪我で亡くなる人が多い時代でした。巫女が死者の霊を鎮め、舞を捧げます。</p> <p>魏志倭人伝に人が死ぬと14日喪に服して、肉を食べず、喪主は泣き叫び、ほかの人は、酒を飲み、歌い、舞うと記されています。</p>  
<p>4 争い</p> <ul style="list-style-type: none"> ○弥生のムラの戦闘場面 <ul style="list-style-type: none"> ・環濠集落 ・弓矢 ・盾と剣をもって戦う人 	<p>弥生のムラでは、時には争いも起こりました。ムラまわりの柵や壕が、大きな役割を果たしました。</p>
<p>5 春のムラ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田おこし ・あぜづくり ・田植え 	<p>穏やかなムラの営みがまた始まります。</p> 

長野城合戦模型解説ナレーション

模型の演出	ナレーション
<p>1 畝状空群の工事場面</p> <ul style="list-style-type: none"> 親方に指揮された百姓たちが空堀を作っている。女性も作業に参加している。 《男女の力仕事の声》 土堀り 《掘る音》 仕上げ 《照明—土堀り、仕上げをスポット》 	<p>長野城は長野氏が築いた戦国時代を代表する山城です。永禄8年6月、長野城は大友勢の攻撃を受けました。</p> <p>長野城の特徴の一つは斜面に沿って掘られた無数の空堀にあります。 背丈よりも深く土を掘り下げています。この工事には多くの百姓たちが動員されました。</p>
<p>2 城櫓、逆茂木、矢来などの防御施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 《照明—城櫓にスポット》 《照明—矢来にスポット》 《照明—逆茂木にスポット》 	<p>長野城の防御の構えは厳しいものでした。櫓を設け、昼も夜も見張りが敵の動きを監視しました。</p> <p>矢来が張りめぐらされていました。この間から下の敵に向かって矢を射ったり、鉄砲を撃ったりしました。</p> <p>また、切った木を下に向けて構える、いわゆる逆茂木を並べ、攻め登る敵を阻みました。</p>
<p>3 大友勢の隊別構成</p> <ul style="list-style-type: none"> 《兵士たちの声、エイエイオー》 《照明—大友勢にスポット》 	<p>攻める大友勢は4人の大將がそれぞれに鉄砲、弓矢、槍を備えた兵を引き連れていました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>大友氏の旗印</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>長野氏の旗印</p> </div> </div>
<p>4 武器(鉄砲・弓矢・槍)を使用する合戦場面</p> <ul style="list-style-type: none"> 城兵、大友勢双方の鉄砲が火を噴く。 《鉄砲を撃つ音》 《弓矢が飛び交う音》 《雄叫び》 	<p>大友一族は杏葉紋の旗を掲げています。城の守りは堅く、兵も果敢に戦いました。この頃、地方豪族の長野氏もすでに鉄砲を持っていたのです。</p> <p>空堀を攻め上がってくる大友勢を鉄砲や弓矢で狙い撃ちにしました。</p> <p>熾烈を極めた戦いは、2か月に及び、長野勢はついに力つき、城は落ちたのでした。</p>

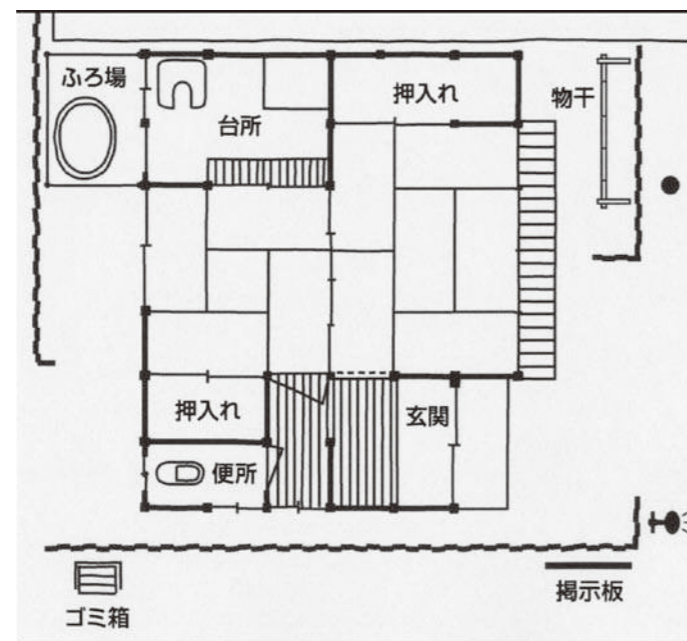
堀川の水道 / 川ひらた演出映像

画面	台詞
<p>◎ 滔々と流れる遠賀川の流れ</p> <p>テロップ 遠賀川</p>  <p>老船頭</p>	<p>老船頭 ちょっと聞いてくれんかのう。 堀川はのう、遠賀川から水を引いて作ったとたい。むかしや遠賀川はよう大水がでてのう。あっちこっちに大きな被害をうけちよるたい。</p>
<p>◎ 黒田長政像(資料)</p> <p>テロップ 黒田長政</p>	<p>若船頭 それで遠賀川の流れを堀川に分けて、洞海湾に流したと。</p>
<p>◎ 吉田切抜</p> <p>テロップ 吉田切抜</p>	<p>老船頭 そうさ、元和7年、黒田長政様が殿様の時に、掘り始めたんじゃが、中断して、長いことたつてまたほったとたい。</p>
<p>◎ 「木屋瀬天神裏登船の景」(写真)</p>	<p>若船頭 おおごとやちよろうなあ。</p>
<p>◎ 寿命の唐戸</p> <p>テロップ 寿命の唐戸水門</p>	<p>老船頭 一番けわしか工事が吉田切抜やった。 400メートルも続く岩場をのみとつちで切り抜いちよるんよ。</p>
<p>◎ 「楠橋村寿命の唐戸通船景」(写真)</p> <p>◎ 折尾村切抜(写真)</p>  <p>若船頭</p>	<p>老船頭 ほう。</p>
<p>◎ 折尾村陣之原(写真)</p>	<p>老船頭 そして、やっと宝暦13年1月から、ひらた船が堀川を行き来するようになった。 秋ともなれば、年貢米ば積んだひらた船がひっきりなしに下ったもんじゃ。 その後、寿命(じめ)までのばして、唐戸水門をつくったんじゃ。これでおよそ12.5キロの水路が完成したんじゃ。</p>
	<p>若船頭 ひらた船は若松まで早う下ることができるようになった。洞海湾がうんと近うなったとたい。</p>
	<p>若船頭 へえ。そして、石炭の時代がきたんやね。</p>
	<p>老船頭 そう、塩田で石炭をうんとこ使うようになってひらた船も石炭運びに忙しゅうなった。</p>
	<p>若船頭 明治時代は?</p>
	<p>老船頭 明治になってもひらた船が石炭を運んでなあ、日本の近代化ちゅうもんを支えたんや。多い時は、何千艘もひらた船がおったとよ。それあ、船頭の鼻息も荒かった。</p>
	<p>若船頭 ふーん。</p>
	<p>老船頭 さあ、行くとするか。</p>

探究館の展示案内 / 昭和30年代の社宅

場所	展示
玄関	・長靴 ・ズック ・サンダル ・革靴 ・回覧板 ・かさ ・かさたて ・達磨の絵の額 ・靴磨き道具
六畳の部屋	和ダンス周辺 ・博多人形 ・ラジオ ・ねじ巻き式時計 ・柳行李
	ちゃぶ台周辺 ・火鉢 ・火箸 ・五徳 ・灰掻き ・ヤカン
	木製の学習机周辺 ・ランドセル ・算盤 ・木の本立て ・木の独楽 ・ハーモニカ ・パチンコ ・セルロイドの筆箱 ・電気スタンド
庭	・物干し台 ・物干し竿 ・犬小屋 ・犬 ・フラフープ ・植木 ・下駄 ・竹箒 ・木のちりとり
四畳半の部屋	・水屋 ・裁縫箱 ・足踏み式ミシン ・鏡台 ・菓子鉢 ・コタツ ・木目込み人形 ・茶筌筒 ・着物
風呂場と風呂場周辺	・鏡 ・脱衣かご ・すのこ ・桶 ・石鹸箱 ・洗面器 ・木製の風呂桶 ・風呂用の椅子 ・ヘチマ ・薪の束 ・石炭袋 ・十能
台所	かまど周辺 ・火消し壺 ・やかん ・鍋 ・七輪 ・団扇 ・米びつ ・火の用心の札 ・マッチ
	台所周辺 ・まないた ・アルマイトの弁当箱 ・マッチ ・洗い桶 ・鯉節削り器 ・すり鉢 ・すりこ木 ・蒸籠 ・土鍋 ・壺 ・味噌樽 ・じょうご ・ささら ・さらしの布巾 ・塗り物の重箱 ・一升瓶 ・曲わっぱなど ・洗濯盆 ・洗濯板
路地	・街燈 ・ゴミ箱 ・板塀 ・木の電柱 ・自転車 ・掲示板 ・商品宣伝看板(豆炭・足袋・パンなど) ・映画の看板 ・猫
家族の会話内容	・ラジオの音声 ・電気釜 ・パン ・即席ラーメン

昭和30年代の社宅の部屋



探究館展示映像 / 昭和30年代の北九州

画面	ナレーション
1 製鉄所映像	男 A おい、昭和の30年代に入ったころは、この北九州も活気に満ちていたなあ。 男 B そうよ。あの時代、神武景気・岩戸景気と続いたんだからなあ。
2 若松市北海岸の映像	男 A NHK福岡が、九州初のテレビ放送をはじめたのが昭和31年なんだ。この年に若松の北海岸が国定公園に指定されて全国に知られることになった。 男 A 門司水族館に大勢の人がつめかけたのも、このころだったな。
3 門司水族館 魚を見る子どもたち	男 A そう、たいへんな人気だった。
4 関門国道トンネル開通	男 A 昭和33年も忘れられない年になったんだ。長年の夢という願いがかなって、関門国道トンネルが開通し、本州と九州を結ぶ「路」として、門司や小倉はいっそう重要な役割を果たすようになったというわけだ。
5 製鉄所の圧延機 戸畑専用港 鉾石岸壁	男 B 北九州も大きく変わる時代に入ったんだな、そのころに。 男 A うん、そうだ。製鉄所も戸畑で新しい圧延機が動き始めた。迫力があつたなあ。そして、専用埠頭には、次々と鉄鉾石を積んだ船が入ってきた。
6 小倉中央卸売市開設写真 テレビ西日本開局写真 高塔山ロープウェイ	男 A テレビ西日本も放送を始めた。 男 B 高塔山ロープウェイも開業したんだ。初めて乗ったときは、嬉しかったなあ。
7 日本シリーズ西鉄対巨人戦	男 B そして、この年西鉄ライオンズが黄金時代を迎えたんだ。何しろ日本シリーズで巨人に3敗した後、逆転4連勝したんだから、そりゃあ、九州は、大騒ぎになった。 男 A 稲尾は、何試合投げたんだったかなあ。 男 B 7試合中6試合に登板、47イニングも投げたんだ。その上、自ら逆転サヨウナラホームランときたからね。 男 A そりゃあ、神様、仏様、稲尾様と言われたわけだね。



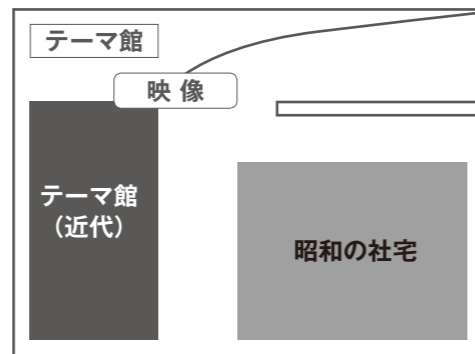
探究館展示映像 / 昭和30年代の北九州

画面	ナレーション
8 小倉城天守閣 ジェットコースター	男 B 昭和34年。小倉城の天守閣が復元した。遊園地のジェットコースターが大人気だった。
9 和布川の菊人形展ポスター	
10 戸畑第一高炉	男 A 戸畑で、世界最大、1,500 tの高炉に火が入った。
11 若戸大橋開通	男 B それから、着々と鉄の一貫生産体制が作られていった。昭和37年、若戸大橋ができた。
12 五市合併北九州市発足の ニュース	男 A そうだよ。こうして現在の北九州の発展の基盤が作られていったんだ。
13 現在の北九州市街地	男 A 昭和38年2月、門司、小倉、若松、八幡、戸畑の五市が合併。北九州市が誕生。新しい時代を迎えたんだ。

※探究館展示映像およびナレーションがあるのは夜の場面のとき。朝と夕方は親子の会話となっている。



◎映像が映し出されている様子



◎部屋の中の様子



◎台所の様子

体験学習「昔のくらし体験」



博物館では第3学年社会科の「さぐってみよう 昔のくらし」を支援する館内授業を行っております。博物館の特性を活かし、実物に触れたり、学芸員の解説を聞いたりしながら昔のくらしについて学んでいきます。

定員	2クラス(約70名)	時間	90分
持参するもの	炒った大豆(一人5粒程度)	教材費	無料

◎ 学習内容

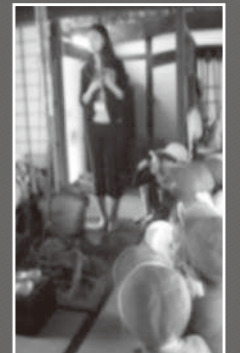
昔の農家を見てみよう

約100年前(明治時代)の農家に入って、家の造りや生活の工夫などを学芸員の解説を聞きながら学び、今と昔の生活の違いを考えていきます。

時期や天候によっては、昭和時代の社宅(探究館)に場所を変更する場合があります。



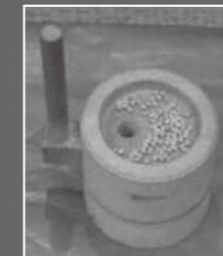
昔の農家(文化学習園)



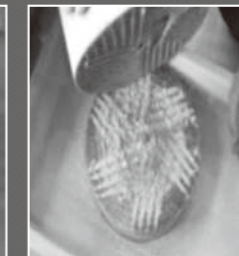
学習の様子

石臼体験

実際に石臼をひき、大豆を黄粉にする体験や年長者の方からのお話を聞く活動を通して、昔の人の苦労や知恵、工夫を体感します。



石臼



石臼でできた黄粉



学習の様子

昔の道具調べ

昔の道具に触れながら、使い方を調べる活動を通して、昔の人々の知恵や工夫を理解し、現在の道具と比較することで、生活の変化を実感できるようにします。



学習の様子



昔の道具(左から黒電話、がんどう、箱膳、ひのし)

事前申込が必要ですので、ご希望の場合は、あらかじめ博物館へご連絡下さい。

※70名を超える場合は、2回に分けて行いますので滞在時間が3時間必要です。

※時期により、内容は変更する場合がございます。詳細についてはお問い合わせ下さい。

こん虫をそだてよう

1 単元の概要

この単元では、身近な昆虫を採集したり飼育したりする活動を通して、昆虫には体のつくりや育ち方など共通している点があることに気付かせます。また、中にはバッタのように幼虫からさなぎにならずそのまま成虫へ姿をかえるものなど、成長の過程に違いがあるものがあることにも触れます。また、昆虫について調べていくうちに、食べ物やすみかを通じて植物との関係が深いことにも気付かせることができます。

この単元の中で博物館を利用することにより、多種多様な昆虫と自分で採集、飼育した昆虫とを比較することや、昆虫に対する興味・関心を高めることができます。

2 学習のねらいと手だて

- 昆虫の体のつくりや育ち方には一定のきまりがあることや、昆虫と植物とのかかわりについての見方や考え方もつよにするとともに、身の回りの生き物を比較して追究する能力や、生き物を愛護する態度を育てる。
- 昆虫の体のつくりについては、すでに学習したモンシロチョウと対比させながら、その共通点を見つけて、昆虫の基本の形をとらえさせるようにする。



昆虫の標本

3 指導計画（総時数 11 時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I チョウの育ち方を調べる。 ① モンシロチョウのたまごから成虫になるまでの様子を観察する。 ② 他のチョウと比べ、成長のきまりについてまとめる。	○ 形、色、大きさ、動きなどを視点として観察するよう指導し、たまご、幼虫、さなぎ、成虫のそれぞれの過程における様子を、観察カードに記録できるようにする。	6 時間
II チョウの体のつくりを調べる。	○ 体の分かれ方、どこに翅や足がついているのかなど、観点をもって観察するようにする。	1 時間
III トンボやバッタなどの育ち方や体のつくりを調べる。	○ 完全変態で成長するものと、不完全変態で成長するものがあることを対比的に扱う。	3 時間
IV いろいろな昆虫の体のつくりや昆虫の育ち方などについて調べる。 ① 世界のいろいろな昆虫の体のつくり ② 北九州にいるいろいろな昆虫の育ち方	博物館での学習 ◆ 生命の多様性館「動物界 昆虫」 ◆ 自然発見館「北九州の林、北九州の草原、有害生物」	1 時間

4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
① いろいろなこん虫をしらべて、からだのつくりをまとめよう。		
I 大きい昆虫や小さい昆虫をさがす。	○ 体の大きさが違って、同じ昆虫の仲間であることに気付くようにする。	博物館での学習 0.5 時間 ◆生命の多様性館 「大きな昆虫」 「小さな昆虫」
II きれいだと思う昆虫をさがす。	○ 同じ種類でも、形や色が違うことに気付くようにする。	◆生命の多様性館 「モルフォチョウコレクション」 「いろいろな昆虫」
III お気に入りの昆虫をさがす。	○ 様々な観点から自分のお気に入りの昆虫を見つけ、観察したことや思ったことをノートに書くようにする。	◆生命の多様性館 「擬態」 「社会をもつ昆虫」 「においをもつ昆虫」
IV 調べてわからなかったことは情報館の図鑑などで調べるようにする。	○ 本時まで調べてわからなかったことや本時の学習で不思議に思ったことがあれば、情報館の図鑑や展示パネルなどで調べるようにする。	
② 北九州には、どんなこん虫がすんでいるかしらべよう。		
V 北九州市の自然についての話を聞く。	○ ジオラマを活用し、北九州市にはたくさん自然があることを説明する。 ○ 人の生活において、危険な動物についての説明をする。	◆自然発見館 「北九州の林」 「北九州の草原」 「平尾台の四季」 ビデオ ◆自然発見館 「有害生物」
VI ジオラマや展示してある標本を観察し、北九州市にすんでいる昆虫について調べる。	○ 住む場所によって昆虫の種類が違うことに気付くようにする。 ○ ベッコウトンボやオオウラギンヒョウモンを紹介し、絶滅の危機にひんしている昆虫がいることに気付くようにする	◆自然発見館 「北九州の林」 「北九州の草原」 「北九州の川」 「北九州の池」

5 博物館での学習

① いろいろなこん虫をしらべて、からだのつくりをまとめよう

博物館での学習
0.5時間

博物館の生命の多様性館(3階)では、南米に生息する美しいモルフォチョウをはじめ、世界で一番大きなカブトムシであるヘラクレスオオカブトムシなど、めずらしい昆虫を数多く展示しています。とても小さな昆虫を集めたコーナーや擬態する昆虫を集めたコーナーなど、観点別に展示してあるので、自分のお気に入りの昆虫を探すのも容易で、昆虫に対する興味・関心を高めることができます。

昆虫以外のクモやサソリ等も展示してあるので、体のつくりを比べることによって昆虫の特徴を明確にすることができます。



大きな昆虫



昆虫の擬態

② 北九州には、どんなこん虫がすんでいるかしらべよう。

博物館での学習
0.5時間

博物館の『自然発見館』では、北九州の代表的な自然をジオラマや標本で紹介しています。草原、林、水辺などのジオラマを観察することによって、環境やそこにすむ昆虫の違いに目を向けさせることができます。都心部に近い学校では身近な自然は少ないですが、北九州にはたくさんの自然が残っていると感じ取ることができます。また、ベッコウトンボやオオウラギンヒョウモンの減少のパネルを見て、その理由や、どうすれば絶滅を防ぐことができるのかを考えさせることにより、生き物を愛護する態度を育てることができます。



「北九州の林 山田緑地」ジオラマ



「北九州の草原 平尾台」ジオラマ

1 いろいろなこん虫をしらべて、からだのつくりをまとめましょう。

「生命の多様性館」には、世界中のいろいろなこん虫がてんじされています。自分のお気に入りのこん虫をさがしましょう。

※児童の実態に応じて記入
させてください。

(1) 一番大きいと思ったこん虫は、

ヨナグニサン、ヘラクレスオオカブトムシ、
アクタエオンゾウカブトムシ 等

です。

(2) 一番小さいと思ったこん虫は、

アメイロアリ、ヒメコバチ、
クロサワツブミズムシ 等

です。

(3) きれいだなと思ったこん虫は、

モルフォチョウのなかま、トリバネアゲハの
なかま、ハゴロモのなかま 等

です。

(4) お気に入りのこん虫のからだのつくりについて、絵や文でまとめましょう。

お気に入りの
こん虫の名前

※児童の実態に応じて記入させてください。

足が、6本ある。

頭、むね、はらに分かれている。等

絵

頭、
むね、
はらは
どこ
わかる
かな？



2 北九州市には、どんなこん虫がすんでいるのでしょうか。

「自然発見館」には、北九州にすんでいるいろいろなこん虫がてんじされています。それぞれの場所で見つけたこん虫の名前を書きましょう。

北九州の草原(平尾台など)

ミドリヒョウモン、トノサマバッタ、クルマバッタ
ウラギンヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、
セグロイナゴ、ショウリョウバッタ、クルマバッタ 等

北九州の林(山田緑地など)

カブトムシ、ミヤマクワガタ、オオムラサキ、
クリシマミドリシジミ、オオヨツスジハナカミキリ
クツワムシ 等

学校 3年 組

植物をそだてよう(4) | 花がおわったあと

1 単元の概要

植物は一つの種子から多くの種子ができます。また、本葉から出てくると役目を果たし枯れ落ちる子葉の存在など、生命が受け継がれるための工夫もっています。本単元では、子どもたちが自分たちの手で栽培する活動を通して、成長の様子をとらえるとともに、成長には一定の順序があることや植物の体には決まったつくりがあることをとらえていきます。単元の終わりに博物館を利用し、植物の体のつくりや種子による繁殖の工夫を調べることで学習内容を発展させることができます。

2 学習のねらいと手だて

- 身近な植物について興味・関心をもって追求する活動を通して、植物の種類は違っていても、一定の順序で育つことやきまった体のつくりがあることをとらえさせる。
- 成長に伴う形態の変化について視点をもって調べたり成長の様子を比較したりしながら、植物の特徴をとらえさせる。



「北九州の林 山田緑地」のジオラマ

3 指導計画(総時数5時間)

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 花が咲き終わった後の葉や茎の様子を調べ、記録する。 ① 花が咲き終わった後のヒマワリやホウセンカの様子を調べ、記録する。 ② 熟している実や種子の様子を調べ、記録する。 ・種子の形、色、大きさ ・種子の数を数える。 ・ほかの草花の様子と比べる。	○ 葉の大きさや形、色、草丈、茎、成熟した種子の様子を夏の頃の観察記録と比べる場をもち、違いに着目して記録することができるようにする。 ○ 種子の数をきちんと数えることで、一つの種子から実になると、その中に多くの新しい種子ができることに喜びや驚きをもたせるようにする。	2時間
II 草花の育つ様子や順序をまとめる。 ① 観察記録をもとに、ヒマワリやホウセンカの発芽から種子ができるまでの成長の順序や様子をまとめる。 ② オクラやダイズ、マリーゴールドなどの育ち方を調べ、それらの植物の成長の順序や様子をまとめる。	○ 草花の育つ様子を分かりやすくまとめるため、表やグラフに表し、友達と交流しながら、育ち方の共通性を考えることができるようにする。 ○ 植物の種類は違っていても、一定の順序で育ち、その体は、根・茎・葉からできていることをとらえられるようにする。	2時間
III 植物の育ち方をまとめる。 ① 林の中をのぞいて植物をかんさつしよう。 ② 「タネの旅行」についてしらべよう。	■ 博物館での学習 ◆ 自然発見館「北九州の林 山田緑地」のジオラマ ◆ 自然発見館「北九州の林 九州の二次林一里山の植物—タネの旅行」	1時間

4 学習展開例(1時間扱い)

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
① 林の中をのぞいて植物をかんさつしよう。		
I 「北九州の林 山田緑地」のジオラマを観察する。	○ 透明ドームを使い、動物の目線から林の中を覗かせる。	博物館での学習 0.5時間 ◆ 自然発見館「北九州の林 山田緑地」のジオラマ
II 植物の体の共通点や違いを見つける。	○ 背の高い植物(木)と背の低い植物(草やシダ)から1つずつ選んで観察させ、茎の太さ、葉のつき方、葉の形を比較させる。	
② 「タネの旅行」についてしらべよう。		
III 種子の移動について調べる。 ① 移動する種子の種類や形を調べる。 ② 種子が移動する方法について話し合う。 ③ 種子が移動する方法について知る。	○ 移動する種子をルーペで観察させることで、種子の周りについているとげなど、種子の形状の特徴に気付かせる。 ○ 観察する種子を1つ選び、分かったことを絵や文で表現させる。 ○ とげなどが周りを覆っていることで、種子は動物につきやすくなり、移動しやすくなっていることを考えさせる。 ○ タヌキの剥製をヒントにし、種子が移動する方法について予想させる。 ○ 「タネの旅行」のパネルを分かりやすく説明し、種子が移動する方法には、動物について移動する方法以外にもあることを知らせる。 ・風に乗って飛ぶ。 ・果実を食べられ、散布される。 ・海流に乗って流れる。 ・熟した果実がはじけて飛び出る。	博物館での学習 0.5時間 ◆ 自然発見館「北九州の林 九州の二次林—一里山の植物—タネの旅行」 「海辺の観察」漂流物をつめよう

5 博物館での学習

① 林の中をのぞいて植物をかんさつしよう。

博物館での学習
0.5時間

自然発見館の「北九州の林」コーナーには山田緑地のジオラマが展示されており、林の中で暮らす植物と動物の様子をとらえやすくなっています。また、林内に設置された透明ドームから覗くと、小さな動物の目線で林内を見る体験ができます。この中にある植物には、タブノキのような高木とベニシダのような背の低い植物があり、植物の体のつくりを比較することができます。



「北九州の林 山田緑地」のジオラマ

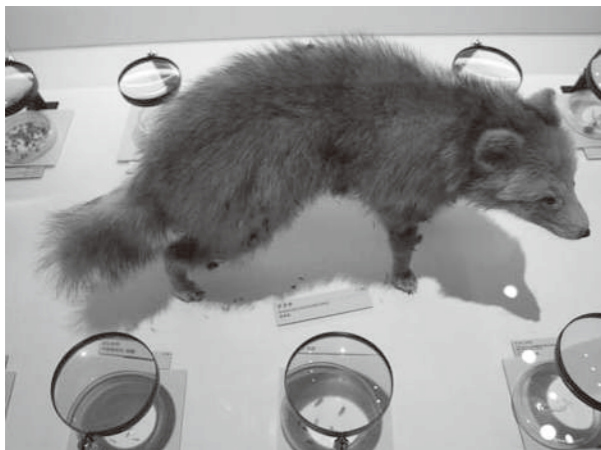


ベニシダ

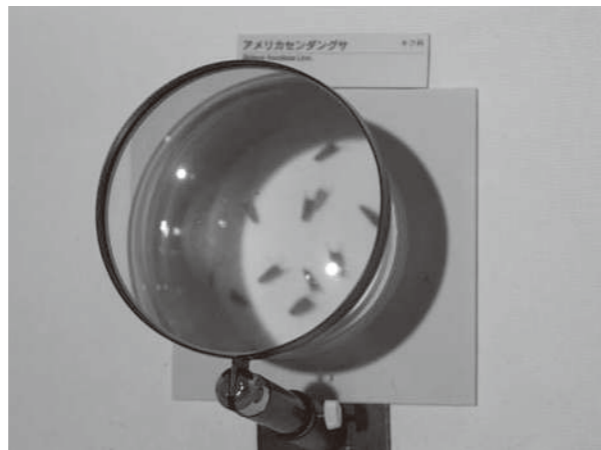
② 「タネの旅行」についてしらべよう。

博物館での学習
0.5時間

山田緑地のジオラマ前には、「タネの旅行」と題して、植物の種子が移動する方法やその実物が展示されています。実際の種子をルーペで覗き、その形状の特徴を観察することにより、種子が移動するための工夫を知ることができます。また、中央に展示されているタヌキの剥製には、いくつかの種子がついており、種子の移動方法の1つに気付くことができます。



タネの旅行



タネの旅行 (タネとルーペのセット)

1 林の中をのぞいて植物をかんさつしましょう。

林の中には背の高い植物と背の低い植物があります。それぞれの植物から1つえらんで絵をかいいたり、とくちょうをメモしたりしましょう。 自然発見館「北九州の林 山田緑地」

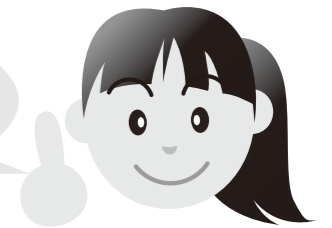
背の高い植物の名前： 例 タブノキ

絵

背の低い植物の名前： 例 ベニシダ

絵

ヒマワリやホウセンカは、葉やくき、根で体ができていました。
背の高い木も同じように、葉やくき、根で体ができています。
しかし、シダのように、くきがなく、葉と根で
体ができている植物もあります。



2 「タネの旅行」をしらべましょう。

自然発見館「北九州の林 タネの旅行」

(1) たねには、新しい場所へなかまをふやすためのくふうがあります。どなんくふうがあるかしらべてみましょう。

えらんだたねの名前： 例 オナモミ

たねの絵
タヌキの体にくっついて
種子が運ばれる様子を見学
できます。
また、ルーペで種子を
拡大して見ることが
できるので、その形を
観察させてください。

気づいたこと
例 とげがたくさんついていて
動物の体や、人の服に
くっつきやすくなっている。



(2) たねはどうやって運ばれるのでしょうか。「タネの旅行」パネルを見て分かったことを書きましょう。

たねが運ばれる方法

- 例 ・風によってとばされて運ばれる・動物に実を食べられてフンといっしょに出されることによって運ばれる。
- ・動物の体や人の服につくことによって運ばれる。

※ 新しい場でなかまをふやすために様々な工夫がされていることに気づかせてください。

季節と生き物（春）

1 単元の概要

私たちの身の回りの自然を観察すると、四季折々それぞれの季節に応じた動物の活動や植物の成長を見ることができます。校庭や学校の周辺を観察するだけでたくさんの動植物に出会うことができます。そして、四季ごとに動植物を探し、それらを育てたり観察を継続的に続けたりすることによって、子どもたちは動物の活動や植物の成長は季節によって違いがあるということをとらえるようになります。

「春」は、動植物の活動が急速に始まる季節です。新年度を迎え進級した子どもたちは生き生きとしています。自分たちの成長と動植物の成長とを重ね生命の息吹を感じさせると共に、一年間を見通して動植物の活動を調べる目標をもたせるようにします。

2 学習のねらいと手だて

- 身近な動物や植物を探したり育てたりして、春の動物の活動の様子や春の植物の成長に伴う変化を観察し、その特徴をとらえることができるようにする。
- 動物や植物の活動や植物の成長と、春という季節とのかかわりについての見方や考え方をもちょうにするとともに、生き物を愛護する態度を育てていく。



マイクロハイク

3 指導計画（総時数8時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 春の校庭や身近な場所の動物や植物の様子を調べ、1年間自分が調べる動物や植物を決め観察する。	○ 自分が調べたい動植物を決めさせる。観察カードの書き方やまとめ方を指導する。また、四季を通じて動植物がどのように変化していくのか予想させる。	3時間
II 春の動物や植物の様子の調べ方について話を聞き、観察する。 ① 博物館の自然学習園でネイチャーゲームをしよう。 ② 博物館の自然学習園で動植物を観察しよう。	■ 博物館での学習 ◆ 自然学習園 ○ 博物館の自然学習園でネイチャーゲームを行い春の動植物に興味・関心をもつ。さらに、動植物の活動や成長をどのように記録すればよいか話を聞き、自然学習園で観察する。	2時間
III ツルレイシの種子をまき、育つ様子を観察する。	○ 次の観察のときどのくらい成長しているか予想して調べるようにする。	3時間

4 学習展開例（2時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
1 博物館の自然学習園でネイチャーゲームをしよう。		博物館での学習 1時間
I 虫眼鏡と糸を使ってマイクロハイクをする。	○ 地面に1メートルの糸をはわせる。糸を道に例えて、糸に沿って小さな動物たちの視点で地面を虫眼鏡で見えていくようにさせる。	◆自然学習園 ・糸 ・虫眼鏡 ・ワークシート
II 感想を話し合う。	○ 子どもたちの素直な感想を聞きだし、動物や植物が生きていることを実感させるようにする。	
III 北九州市で普通に見られる動物や植物を自然発見館の資料を通して調べる。	○ 校庭の周りでも普通に見られる動植物について名前由来や特徴などについて写真や剥製標本とその解説パネルなどを通して調べる。子どもたちに今まで気付かなかった動植物の不思議を感じ取らせ、さらに調べる意欲をもたせるようにする。	◆自然発見館
2 博物館の自然学習園で動植物を観察しよう。		博物館での学習 1時間
IV 自然学習園で動植物を観察する。	○ 観察カードの書き方を指導し、マイクロハイクで見つけた動物や植物を記録させるようにする。	
V 季節ごとに動物や植物の観察を行う目標をもつ。	○ 季節と動植物の活動や成長との関係性を調べる意欲付けを行う。	

5 博物館での学習

1 博物館の自然学習園でネイチャーゲームをしよう。

博物館での学習
1時間

博物館には、自然学習園があり、北九州市の林や北九州市の草原などを再現しています。自然学習園を使って、地面に1mほどの糸を置きその糸を道に例えて、糸に沿って虫眼鏡で見ていくネイチャーゲームをして、日頃気がつかない植物の息吹きや小さな動物たちの存在を感じさせます。子どもたちは動物や植物に興味・関心を持ち、もっと知りたい調べたいと思うでしょう。

さらに、北九州市で普通に見られる春の動物や植物の話聞きます。子どもたちは自分たちの身の回りに興味深い動植物がいることに気付き、校庭や家の回りで身近な動物や植物を探し、調べようとするでしょう。

一年間という大変長い期間を通して季節による動物や植物の活動や成長を観察することは大変なことです。話を聞くことにより子どもたちがこれからしていく観察への意欲をもつことができるでしょう。



自然学習園



虫眼鏡を使っでのマイクロハイク

2 博物館の自然学習園で動植物を観察しよう。

博物館での学習
1時間

自然学習園へもう一度出かけ、春に見られる動物や植物の観察を始めましょう。学習1をふまえ、虫眼鏡やワークシートを与えて、普段気付かない細かいところまで観察させるようにします。十分満足いくまで観察することができたら、1年間観察を続ける動物や植物の活動や成長が、季節が変わるとどう変わるのか話し合えます。

子どもたちは自分たちが観察した春の動植物が、夏になるとどのように変化していくのか問題を持ち、季節との関係を追究していこうとするでしょう。

1 虫めがねを使って、マイクロハイクをしましょう!

POINT ミクロハイクのやり方

野原に1mほどの糸をはわせます。この糸を道にたとえて虫めがねで糸のまわりをかんさつしながらたどってみましょう。ミクロの世界には何が見えるかな?

※虫めがねで太陽を見てはいけません!



こんなものが見えたよ! 見つけたり感じたりしたことを書きましょう!

- ・虫から見たら草も大木みたいに見えるんだね。
- ・わあっ、アリがやってきたぞ!! いつもは小さく見えるアリが、大きな牙を持ったかいじゅうに見えるよ。こわい! にげろー
- ・虫からしたら、人間からいつ踏まれるかビクビクしなきゃいけないね。
- ・雨が降ってきたらどうなるのかな?

など、見つけたり、感じたりしたことをそのまま書かせてください。

2 自然学習園で、動物や植物をかんさつしよう!

かんさつした植物の名前 ()	月	日	時
かんさつした場所 ()	天気	気温	℃
絵をかく			
気づいたことや感想			

学校 4年 組

わたしたちの体と運動

1 単元の概要

本単元は、人や他の動物の骨や筋肉の動きに着目し、自分の体に直接触れたり、動物の骨や筋肉について調べたりすることを通して、人や他の動物には体を支えたり体を動かしたりするときに使われる骨や筋肉、関節があることや、それら体のつくりと運動とを関係付けていく内容になっています。導入では、博物館の様々な骨格標本や剥製を観察することを通して、人や他の動物の体のつくりや運動に興味をもたせることができます。また単元の終末では、展示されている恐竜の首の骨格と動きを関係付けて説明することで、学習してきた内容の発展学習とすることができます。

2 学習のねらいと手だて

- 人や他の動物の骨や筋肉の動きについて興味・関心をもって追究する活動を通して、人や他の動物の体のつくりと運動とを関係付ける能力を育てる。
- 人や他の動物の体のつくりと運動についての理解を図り、生命を尊重する態度を育て、人の体のつくりと運動のかかわりについての見方や考え方をもつことができるようにする。



アースモール マンモスの骨格

3 指導計画（総時数7時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 博物館で動物の骨格や剥製を観察することを通して学習問題をつくる。	博物館での学習 ◆ アースモール、生命の多様性館「キリンの骨格標本、剥製等」 ○ ひざやかかとの位置を調べさせる。	1時間
II 人の骨や筋肉のつくりと働きについて調べる。 ① 人間の体のどこに骨と筋肉があり、どのようなところで曲がるか調べる。 ② 腕の骨や筋肉の動きを調べる。	○ 硬いところ、柔らかいところ、曲がる場所の3つを視点に骨や筋肉、関節の場所を考えさせる。 ○ 内側と外側の筋肉の動きが互いに連動することで腕の曲げ伸ばしが行われていることに気付かせる。	3時間
III 動物の骨や筋肉のつくりと働きについて調べる。	○ 小動物に実際に触れ、人と比較しながら骨や筋肉の様子について調べさせる。	2時間
IV 生き物の骨や筋肉のつくりと働きについてまとめる。	博物館での学習 ◆ アースモール「セイスモサウルス」 ◆ エンバイラマ館「マメンチサウルス」 ○ 首の骨格と動きを関連付けるようにする。	1時間

4 学習展開例（2時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
博物館に展示されている動物の標本を観察して学習問題をつくろう。		博物館での学習 1時間
I 博物館にはたくさんの骨格標本があることを知り、いろいろな骨格標本を比べて体のつくりに着目する。 II 動物（キリン）の骨格標本を観察し、どこが体のどの部分にあたるか考える。 III 観察して気付いたことについて交流し、学習問題をつくる。	○ いろいろな骨格標本を比較しながら観察し、共通点を探すことにより、動物の体のつくりには関節などの特徴があることに着目させるようにする。 ○ 動物の体のつくりを目に向け、体内にある体を動かす仕組みについて興味・関心を高めるようにするため、キリンの「ひざ」や「かかと」はどこか観察するようにする。 ○ 前脚と後脚の関節が反対に曲がることや、人とひざやかかとの位置が違うことに気づかせ、「人や動物の体について調べよう」とする意欲をもたせ、学習問題をつくるようにする。	◆アースモール ◆生命の多様性館 ◆生命の多様性館 ・「キリンの骨格標本」 ・ワークシート
人や動物の体のつくりと運動についてまとめよう。		博物館での学習 1時間
I アースモールのセイスモサウルスの骨格標本を観察し、首の動きを予想する。 II エンバイラマ館でセイスモサウルスと同じ竜脚類のマメンチサウルスの首の動きを見学する。 III 人や動物の体のつくりと運動についてのまとめを行う。	○ セイスモサウルスの首はたくさんの骨に分かれていることに着目させ、骨がたくさんあることと、首の動きとの関係について考えさせる。 ○ マメンチサウルスの首の動きから、セイスモサウルスの首の動きを想像するようにする。 ○ 首の骨が多いことと、なめらかな首の動きを関係付けて考えることができるようにするため両者のスケッチを比較させる。 ○ どんな生き物にも、その環境に応じた体のつくりとそれに適した働きがあることを感じることができるような発問をする。	◆アースモールの古代ゾーン ・セイスモサウルスの骨格標本 ◆エンバイラマ館 ・マメンチサウルス ・ワークシート

5 博物館での学習

博物館に展示されている動物の標本を観察して学習問題をつくろう。

博物館での学習
1時間

アースモールや生命の多様性館には様々な動物の骨格標本や剥製が展示されています。骨格標本を見て、どこが体のどの部分か、またどのような動きをするのか想像させることで人や動物の体のつくりと働きに興味・関心を持たせることができます。中でもキリンのひざやかかとの位置はどこか問いかれたり、どのように脚を曲げるのか考えさせたりすることで、骨格と動きの関係に目を向けさせることに適しています。キリンの首には骨があるのにゾウの鼻には骨がないことも、子どもたちにとっては驚きでしょう。



▲キリンの骨格標本と剥製

ひざやかかとの位置を問うパネル▶

人や動物の体のつくりと運動についてまとめよう。

博物館での学習
1時間



アースモールのセイスモサウルス

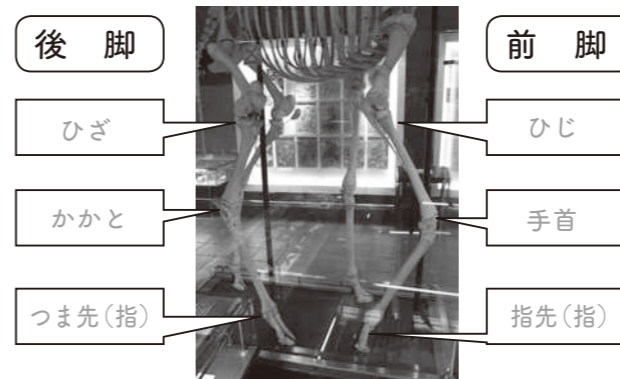
エンバイラマ館のマメンチサウルス

アースモールには、たくさんの恐竜の骨格標本が展示されています。大昔に生きた恐竜の動く様子は、今の私たちには、実際に目にすることができません。そこでこれまでの学習を活かし、研究者になったつもりで「この恐竜は、骨格から考えるとこんな動きをしていたのではないかな。」と意見を交流させることで、学習してきたことを応用させることができます。実際に研究者の調査研究の結果を反映させたものがエンバイラマ館のマメンチサウルスです。動く恐竜ロボットとして、なめらかに首を動かす姿は見ものです。アースモールには同じ竜脚類のセイスモサウルスの骨格標本を展示しています。こちらの骨格をはじめに観察、スケッチし、どのような動きをしていたか予想してからマメンチサウルスのロボットを見学すると体のつくりと働きをつなげて考えることができ、学習のまとめとすることができます。

様々な動物の標本を見学することで、動物の特性に応じた巧みな体のつくりや働きを改めて実感させることができます。

1 キリンの骨格標本を観察しよう。

🔍 (1) キリンの「脚(あし)」を観察し、人間の手足に例えると、どこがどの部分か考えよう。



🔍 (2) キリンは前後の脚をどのように曲げるのか考え、すわっている様子を想像して図に描こう。

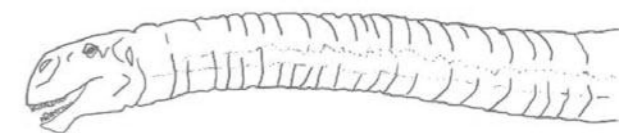


2 アースモールで、セイスモサウルスの骨格を観察し、その予想される動き方をエンバイラマ館でマメンチサウルスの動きと対応させながらまとめましょう。

アースモールのセイスモサウルスの骨格のスケッチ



エンバイラマ館でマメンチサウルスのスケッチ



気づいたこと

(例) 首にはたくさんの骨がある。

気づいたこと

(例) 首が広い範囲を滑らかに動く。
(アースモールのセイスモサウルスと対応して描くように助言してください。)

骨と動きを観察して思ったこと

(例) ・たくさんの骨が首にあることで、なめらかな動きをすることができる。
・この骨の周りに体を動かす筋肉がついていたと考えられる。
・首を自由に動かすことで、体全体を動かさなくても広い範囲のエサを食べることができる。

季節と生き物（冬）

1 単元の概要

私たちの身の回りの自然を観察すると、四季折々それぞれの季節に応じた動物の活動や植物の成長を見ることができます。校庭や学校の周辺を観察するだけでもたくさんの動植物に出会うことができるでしょう。そして、四季ごとに動植物を探し、それらを育てたり観察を継続的に続けたりすることによって、子どもたちは動物の活動や植物の成長は季節によって違いがあるということをとらえるようになります。また、生物を愛護する態度を育てることができます。

「冬」は「秋」からさらに気温が低くなる冬の動物や植物の様子を調べ、冬の特徴を捉えると同時に、年間を通して調べてきたことをもとに、生き物の活動や成長のようすと環境とのかかわりをまとめることができます。

2 学習のねらいと手だて

- 一年間を通して同地点で同一の対象を定期的に観察してきた動植物の成長や活動の変化をまとめることができるようにする。
- 動物の活動や植物の成長について観察したことを絵図や表、グラフなどに整理して記録し、季節ごとの動物の活動や植物の様子の変化をとらえたり、気温の変化と関係付けたりすることができるようにする。



自然学習園

3 指導計画（総時数7時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I ツルレイシの様子を調べる。 枯れてしまった根の様子	○ ツルレイシの根を掘り起こして、根も枯れていることを確認できるようにする。	1時間
II 冬の校庭や身近な場所の植物の様子を調べる。(サクランボなど枯れないで冬を越す植物)	○ 葉を落とし枯れているように見えても、新しい芽をつけて生き続けている植物を観察することができるようにする。	1時間
III 冬の動物の活動の様子を調べる。	○ 秋に比べて動物の種類や数が減少していること、活動の変化やそれぞれの動物に冬越しの仕方に気づくようにする。	1時間
IV 一年間の動植物の成長や活動の変化をまとめる。	○ 一年間観察してきたことをまとめる際、視聴覚機器などを活用して振り返り工夫してまとめることができるようにする。	2時間
V まとめたことを博物館の展示物や自然学習園のコーナーで確かめる。 ① 季節の変化による植物や動物の様子を確かめよう。 ② 自然学習園を観察し、姿を変えていく植物の様子をまとめよう。	博物館での学習 ◆ 平尾台や山田緑地の自然展示コーナーや平尾台の四季のビデオを視聴した後、自然学習園の動植物を観察する。	2時間

4 学習展開例（2時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
1 季節の変化による植物や動物の様子を確かめよう。		
I 北九州の自然（平尾台）のコーナーを観察する。	○ 平尾台に行ったときの経験などを出し合い、四季折々でいろいろな植物が育っていることに気づくことができるようにする。	博物館での学習 1時間 ◆自然発見館 ・「平尾台の四季」のビデオ ・「北九州の草原」平尾台
II 「平尾台の四季」のビデオを視聴する。	○ ビデオは10名程度しか見ることができないので、各コーナーを観察するグループと順番を決めておくようにする。	・「北九州の林」 ・鳥や虫の音コーナー
III 山田緑地や虫の音コーナーなど興味のあるコーナーを観察する。	○ 平尾台のコーナーが詳しく説明されているが、山田緑地などにも行った経験があることが予想される。そこで、植物や動物に関するコーナーの見学を事前に計画しておくようにする。	
2 自然学習園を観察し、姿を変えていく植物の様子をまとめよう。		
I 「北九州市の林」や「北九州市の草原」で冬探しをする。	○ 学校で学習したことや展示物コーナーで見たことと結び付けて観察していくように声かけする。 ○ 昆虫にも目を向けていくように声かけする。	博物館での学習 1時間 ◆自然学習園 ・「北九州の草原」 ・「北九州の林」
II 枯れた植物と枯れたように見えても新しい芽をつけて、生き続けている植物を比較する。	○ 葉を落として枯れているように見えるサクランボと種子を残して枯死するツルレイシ等を対比的に取り上げることで、生命の不思議さや素晴らしさを感じることができるようにする。	
III 自然学習園についての話を聞き、まとめを行う。	○ 自然学習園の季節による変化の話をして学習のまとめとする。（MTの話が聞きたい場合は、事前に連絡が必要。）	◆資料 「自然学習園」

5 博物館での学習

1 季節の変化による植物や動物の様子を確かめよう。

博物館での学習
1時間

自然発見館には平尾台の自然を展示したコーナーがあり、「平尾台の四季」のビデオは春夏秋冬と変わりゆく植物や動物の様子を4分間で詳しくまとめています。このコーナーを活用することで、平尾台の一年間を通して植物や鳥、昆虫などがどのような姿を見せてくれているのかを知ることができます。また隣接している山田緑地の自然コーナーでは、北九州の林の様子を学ぶことができます。その他、鳥や虫の音を聞くコーナーもあり、児童にとって興味をそそられる展示がされています。



平尾台展示コーナー



平尾台ビデオコーナー

2 自然学習園を観察し、姿を変えていく植物の様子をまとめよう。

博物館での学習
1時間

展示コーナーを見学した後、「自然学習園」で実際の自然に学ぶ時間を設けます。ここは身近な林に生育する代表的な樹木が観察できる「北九州の林」、人手を加えることで維持されている草原の植物を植栽した「北九州の草原」の観察をすることができます。ここに生えている植物の種子がどこからやってきたのか、春、この場所はどのように変化していくのか考えさせることで、1年間の植物の成長や自然の営みをとらえさせることができます。



「北九州の草原」ゾーン



「北九州の林」ゾーン

1 「自然発見館」を見学して答えましょう。

「平尾台の四季」のビデオを見て、それぞれの季節に見られる動物や植物の様子をまとめましょう。

	春	夏	秋	冬
動物	ヒバリ、キジ ホオジロ、セッカ ホオアカ	キチョウ アゲハチョウ	ツユムシ セグロバッタ オオカマキリ	オオカマキリの卵のう ナナホシテントウ
植物	ツチグリ タカサゴソウ オキナグサ ヒトリシズカ	キキョウ コオニユリ カワラナデシコ ノヒメユリ	ススキ、リンドウ ハバヤマボクチ ムラサキセンブリ ウメバチソウ	

自然発見館のどこのコーナーでどのような発見をしたかまとめましょう。

2 「自然学習園」をかんさつして答えましょう。

自然学習園で冬さがしをしよう。

①葉が散っている木をさがしましょう。 (名前プレートが付いている木からさがしましょう。)	②木の芽をさがしてスケッチしましょう。
③ススキはどんな様子でしょうか。	④他にも見つけたことを書きましょう。

春に自然学習園の植物は、どのようになっていると思いますか。思ったことを書いてみましょう。

生命のつながり(3) | メダカのたんじょう

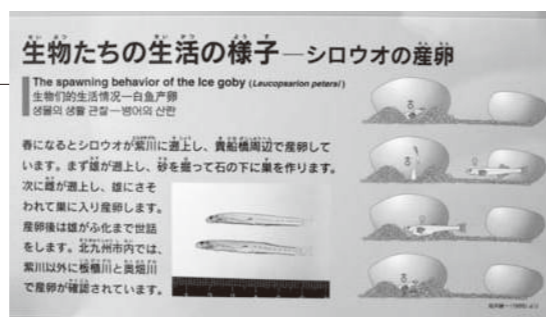
1 単元の概要

生命は長い年月を経て、祖先から私たちへと受け継がれてきました。何百年、何千年、何万年という長い長い年月のうち、どこか一か所でも欠けたならば、今の私たちの生命はないのです。私たちの生命はたった一つきりですが、この一つの生命を誕生させるために多くの命が費やされてきたのです。生命は連続しているのです。

日に日に変化するメダカの卵の中の様子を観察することで生命が形作られる瞬間を、メダカの孵化という生命誕生の感動を体験することで生命の連続性を感じさせることができます。このように生命のつながりという視点で生命の誕生について学習していきます。

2 学習のねらいと手だて

- 魚の発生や成長について興味・関心をもって追求する活動を通して生命尊重の態度を育て、動物の発生や成長についての見方や考え方をもちようにする。
- メダカを飼育しながら雌雄の形状の違いや卵の中の変化、水中の小さな生き物を観察し、その記録を基に魚の発生や成長について追求できるようにする。



シロウオの産卵の様子を紹介するパネル

3 指導計画(総時数9時間)

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I メダカの誕生について学習の見通しをもつ。 ① メダカの誕生について話し合い、学習計画を立てる。	○ モンシロチョウの発生の様子を想起させたり、様々な動物の誕生の映像や資料を提示したりして、生命の誕生についての興味・関心を高めるようにする。	1時間
② メダカなどの淡水魚のすみ環境を調べる。	博物館での学習 ◆ 自然発見館「北九州の川」「北九州の池」	1時間
③ メダカの飼い方やオスとメスの違いについて調べる。	学校での学習 ◆ 自然発見館「北九州の川」「北九州の池」 ○ 「卵を産ませて増やそう」という意識を高め、飼育に対する意欲を喚起する。	1時間
II メダカを飼育し、卵の成長や誕生の様子を調べる。 ① メダカを飼う環境をつくる。 ② 顕微鏡などを使って、メダカの卵の成長を調べ、記録する。 ③ 誕生や成長についてまとめる。	○ 解剖顕微鏡や双眼実体顕微鏡が確実に使えるように指導する。 ○ 卵の変化を継続的に観察することができるよう、班や個人で卵を管理するようにし、視聴覚機器を用いて情報を共有できるようにする。	4時間
III メダカの食べ物について調べる。	○ 池の水にすむ生き物の観察や、メダカが食べる様子を十分に観察させる。	1時間
IV 学習のまとめをする。	○ 生命の連続性についてまとめる。	1時間

4 学習展開例(2時間扱い)

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
魚がすんでいる川や池の様子を調べよう。		博物館での学習 1時間
I 淡水にすむ魚はどれも同じような環境の下で生きているのか考える。	○ フナやオヤニラミ、ドジョウなどの淡水魚を紹介し、淡水にすむ魚にも様々な種類のものがあることに気付かせ、すんでいる環境を調べようという意欲をもたせる。	
II 池にすむ魚と川にすむ魚の環境の違いについて調べる。	○ 「北九州の川」「北九州の池」のジオラマを観察させ、普段目にするこの少ない水中の様子について比較させる。	◆自然発見館 ・「北九州の川」ジオラマ ・「北九州の池」ジオラマ
III 観察して気付いたことについて交流し、メダカにはどのような環境が適しているのか考える。	○ 川と池とでは、水の流れ、水草や水底の様子などの違いがあることに気付かせ、メダカにはどのような環境が適しているか考えるようにする。	
メダカの飼い方を調べよう。		学校での学習 1時間
I メダカを飼い、増やすには、どのような飼い方をしなければならないか考える。	○ シロウオやオヤニラミの産卵のパネルを想起させ、オスとメスを一緒に飼うことが必要なことや、メダカに適した卵を産む場所が必要なことに気付かせる。	◆自然発見館 ・「シロウオの産卵」パネル ・「オヤニラミの産卵」パネル
II メダカの雌雄の見分け方について調べる。	○ 図書資料や模型などを用いて、メダカの雌雄の、体のつくりの違いについて調べるようにする。	
III メダカが卵を産むのに適した場所について調べる。	○ メダカはどのような場所に卵を産むのか考えた上で、図書資料などを用いて調べるようにする。	

5 博物館での学習

魚がすんでいる川や池の様子を調べよう。

博物館での学習
1時間

自然発見館では北九州の代表的な自然をジオラマで再現しています。ここには川や池を再現したジオラマもあり、水中や水底の様子もわかりやすく再現されています。2つのジオラマを見比べると、すんでいる魚の種類が異なることが分かり、それぞれの魚に適した環境があることに気づかせることができます。メダカは早い水の流れを苦手とし、小川や用水路、池や沼に生息しているため、「北九州の池」のジオラマに近い環境にすんでいると言えます。このジオラマには水草もあり、メダカの飼い方を考えるときにもこの環境が参考になることでしょう。



「北九州の池」のジオラマ



「北九州の川」のジオラマ

また、自然発見館には「紫川の自然と魚たち」を紹介するビデオコーナーもあります。その中ではシロウオが石の下に産卵することを紹介していて、孵化直前の卵の中に稚魚の目が確認できる場面もあります。「メダカはどこに卵を産むのだろう。」と考えたり、「メダカの卵はどんな卵だろう。」と考えたりするきっかけにすることができます。

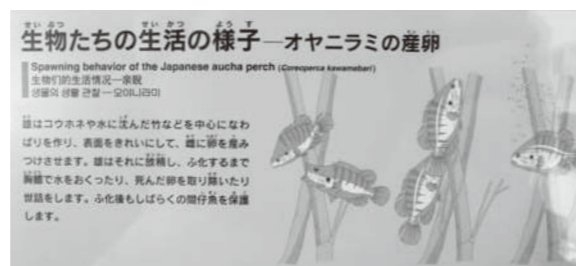
ビデオ「北九州の自然と魚たち」の中でのシロウオの卵▶



メダカの飼い方を調べよう。

学校での学習
1時間

博物館での見学をもとに、メダカの飼い方について調べていきます。「シロウオの産卵」や「オヤニラミの産卵」のパネルからは、産卵させるためにはオスとメスを飼う必要があることや、魚の種類に応じた産卵場所があることがわかります。博物館で見学した「北九州の池」などのジオラマやこのパネルに加えて、図書資料なども活用し、メダカを飼育する水槽の環境について考えていこうにしましょう。



オヤニラミの産卵の様子を紹介するパネル

1 魚がすんでいる川や池の環境を調べましょう。

(1) 自然発見館の「北九州の池」や「北九州の川」のジオラマを見て、魚のすむ環境について調べましょう。

	「北九州の池」の中の様子	「北九州の川」の中の様子
ジオラマ		
魚	カムルチー、ブルーギル、フナ、モツゴ、コイ	カマツカ、オイカワ、アユ、ヨシノボリ、カワムツ、ドンコ、フナ、オヤニラミ
水草	ガガブタ、ヒシ、エビモ、マコモ、ウキヤガラ	ヨシ
水底の様子	泥。植物の葉やくきが沈んでいる。	石がごろごろしている。

(2) 2つのジオラマを見て、気付いたことや疑問に思ったことを書きましょう。

- ・場所によってすむ魚が違う。
- ・水草が生えている。
- ・魚たちは何を食べているのだろう。

2 博物館のパネル「シロウオの産卵」や「オヤニラミの産卵」を見て気づいたことをもとに、メダカにたまごをうませて増やすためにはどんなことが必要か調べよう。

パネルを見て気づいたこと

- ・シロウオは石の下に卵を産む。
- ・オヤニラミはコウホネ（水草）に卵を産む。
- ・オスとメスがいます。

メダカにたまごをうませるために必要なこと

- ・メダカは水草などに卵を産むので水槽に水草を入れる。
- ・卵を産ませるためには水槽にオスとメスのメダカを入れる。

学校 5年 組

流れる水のはたらき

1 単元の概要

昔から、私たちの生活と川は、切っても切れない関係です。昔の人々は川の恵みを受けながら生活していました。逆に、川の水の氾濫によって人々の生活がおびやかされてきました。人々は川とともに生活してきたのです。今後も持続可能な社会を築き、川と共存していくためには、防災・減災の観点も取り入れながら、流れる水のはたらきと土地の変化の関係についての考えをもたせることが大事になってきます。

2 学習のねらいと手だて

- 地面を流れる水や川の働きについて興味・関心を持ち、流水の働きと土地の変化の関係について条件を制御して調べる能力を育てるとともに、流水の働きと変化の関係についての見方や考え方をもちつことのできるようにする。
- 野外での観察、モデル実験を取り入れて、流れる水の働きについての理解を図る。その際、実際の川の様子を関係付けてとらえたり、長雨などにより増水した川の様子をとらえたりするため、映像、図書などの資料を活用する。



ふだんの板櫃川

増水した板櫃川

3 指導計画（総時数 13 時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 流れる水の働きについて調べる。 ① 普通の川の様子と水の量が増えた時の川の様子を比べ、流れる水の働きについての学習計画を立てる。 ② 水を流して流れの様子や働きを調べる。 ③ モデルの結果を考察し、流れる水の働きについてまとめる。	○ 資料などを活用して普通の川の様子と水が増えた時の川の様子を比べ、気付いたことなどをもとに、学習計画を立てるようにする。 ○ 砂山などでモデル実験を行い、土砂の量などに着目しながら観察するようにする。 ○ 流れる水の量や速さによって働きが変わることを「浸食」、「運搬」、「堆積」などの言葉を使いながら説明できるようにする。	5 時間
II 流れる水と変化する土地について調べる。	○ 川の水の働きの変化と土地の様子の変化を関係付けて考えることができるようにする。	1 時間
III 川の上流と下流の石の様子の違いを調べる。 ① 上流と下流の様子の違いを調べる。	博物館での学習 ◆ 自然発見館「北九州の川」紫川のジオラマ ◆ 自然発見館「紫川の自然」パネル	2 時間
② 上流と下流の石の違いを調べる。 ③ 上流と下流の石に、どうして違いがあるのかを考えてまとめる。	○ 形や大きさを観点に観察させる。 ○ 上流と下流の石の違いを、流れる水の働きと関係付けて考えることができるようにする。	2 時間
IV 川とわたしたちの生活について調べる。	○ 洪水を防ぐ工夫や川の自然を守る工夫を図書館などで調べさせるようにする。	3 時間

4 学習展開例

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
川の水にも、周りの土地をけずったり、流したり、積もらせたりするはたらきがあるか調べよう。		博物館での学習 1 時間
I 紫川のジオラマを観察する。 II ワークシートに予想を書き込む。 III 考えを交流し、流れの速さについての話を聞く。 IV ワークシートに考えを書き込む。	○ 紫川のジオラマでは、川底の石や側面の様子を中心に観察させる。 ○ モデル実験の結果などを想起させながら、川の流れの速いところと緩やかなところについて予想させる。 ○ みんなの予想をもとに、なぜ流れの速いところに大きな石が多く、流れの緩やかなところに小さな石が多いのかを考えさせる。 ○ 川の流れの速さと土地の変化の関係についての考えをまとめさせる。	◆自然発見館 ・「北九州の川」紫川ジオラマ ・ワークシート
上流と下流の様子の違いについて調べよう。		博物館での学習 1 時間
I 紫川の上流域・中流域・下流域の写真を観察する。 II 気付いたことをそれぞれワークシートに書き込む。 III それぞれの気付いたことや分かったことを交流する。 IV もう一度、紫川の上流域・中流域・下流域の写真を観察する。 IV 川の様子と水の働きについてまとめる。	○ パネルでは、紫川の上流域・中流域・下流域を比較しながら観察させる。 ○ それぞれの特徴について自由に書き込ませる。 ○ 出てきた特徴を「川幅」「川の流れの速さ」「石の形」など観点別に分けるようにする。 ○ 川幅の広さや流れの速さとの関係や上流域における浸食・運搬、下流域における堆積などの働きについて考えながらもう一度観察させる。 ○ 「浸食」、「運搬」、「堆積」という言葉を使ってまとめさせる。	◆自然発見館 ・「紫川の自然」パネル ・ワークシート

5 博物館での学習

川の水にも、周りの土地をけずったり、流したり、積もらせたりするはたらきがあるか調べよう。

博物館での学習
1時間

紫川のジオラマは、紫川の中流域をモデルとして作成しています。このジオラマで注目してもらいたいのは石の数々です。観察すると場所によって石の大きさが違うことに気が付きます。流れの速さと石の大きさを関連付ける観察をさせて下さい。石をさらによく観察すると中流域特有のゴツゴツとした石や丸みを帯びた石があることが分かります。それらの石を見ながら、どうしてとがった石が丸みを帯びてくるのか考えさせましょう。また、淵になっている部分は川底や側面が削られていることが分かります。



「北九州の川」紫川ジオラマ



角がある石や丸みをおびた石

上流と下流の様子の違いについて調べよう。

博物館での学習
1時間

自然発見館の「紫川の自然」パネルでは、紫川の上流域・中流域・下流域、それぞれの様子を比較しながら見るができます。また、それぞれの場所の流れの特徴も説明してあり、川の流れと川幅などを関係付けながら「浸食」、「運搬」、「堆積」という3つの水の働きについて考えることができます。

3つのパネルを比較しながら考えていくことで、上流から中流、下流へと行くにつれ、川幅が広がっていくことや川の流れが緩やかになっていくことなどがよく分かり、「浸食」、「運搬」、「堆積」についてもより理解しやすくなります。



紫川上流域のパネル



紫川中流域のパネル



紫川下流域のパネル

1 川の水にも、周りの土地をけずったり、流したり、積もらせたりするはたらきがあるか調べよう。

(1) 紫川のジオラマを見て、川の流れが速いところとゆるやかなところはどこか予想しましょう。



速いところ

ゆるやかなところ



(2) なぜそう思いましたか。

川底の石の大きさに注目させてください。①～③へ移るほど川底の石が大きくなっています。流れの速さと流すはたらきの関係に気付かせてください。

(3) 流れが速いところとゆるやかなところでの水のはたらきと土地の変化を書きましょう。

川の流れが速いところでは、浸食の作用により土地が削られたり、削られた土砂が運ばれたりする。

川の流れがゆるやかなところでは、運搬されてきた土砂が堆積することで川原などができる。

2 上流と下流の様子の違いについて調べよう。

(1) パネルやジオラマを見て、紫川の上流・中流・下流、それぞれの特徴について書きましょう。



上流

川幅が狭く、大きく角張った石がたくさんあります。川の流れも速そうです。特に、川幅・石の大きさや形・流れの速さなどに着目させて下さい。



中流

上流よりも川幅が広がっています。流れもゆるやかになっています。所々に丸みを帯びた石があります。



下流

中流よりもさらに川幅が広がっています。流れもさらに穏やかです。川底には丸い石が見えます。

(2) 上流と下流の様子の違いについて、「しん食」、「運搬」、「たい積」という言葉を使ってまとめましょう。

上流は流れが速く、両岸が浸食されることにより、崩れ落ちてきた石が多い。下流は、流れが穏やかなため、長い時間をかけて運搬されてきた丸みを帯びた石や土砂が川底に堆積している。

生物とそのかんきょう

1 単元の概要

生きている植物体や枯れた植物体は動物によって食べられています。動物と植物は、互いに密接にかかわりあって生きているのです。けれども、それらのつながりは、意識しなければなかなか見えてきません。博物館では、北九州の身近な里山のジオラマや図書資料などを活用しながら、自然界のつながりについて多面的に調べることができます。

2 学習のねらいと手だて

- 動物が植物体を食べていることを調べる活動を通して、動物と植物がかかわり合っているという見方や考え方をもちようにするとともに、生物の体のつくりと働きを多面的に追求する能力や、自然界のつながりを総合的にとらえようとする態度を育てる。
- 動物の食べ物をたどる活動を通して動物と植物のかかわりに気づかせるとともに、ダンゴムシなどの身近な動物を使って食べ物を検証するようにする。



「山田緑地」のジオラマ

3 指導計画（総時数7時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 食べ物を通した生物どうしのかかわりを調べる。		
① 動物がどんな食べ物を食べているか調べる。	○ 動物が、食べ物を通してかかわり合っていることを整理させ、そのかかわり合いに関心をもたせるようにする。 ○ 資料や映像を活用し、動物がどんな食べ物を食べているか調べられるようにする。	1時間
② ダンゴムシなどが、何を食べているか調べる。	○ 植物体を食べる身近な動物については、昆虫や草食性のほ乳類などを扱うようにする。 ○ 動物を食べる動物については、肉食性のほ乳類や水中の小魚や小さな生物を食べる節足動物などを扱うようにする。	1時間
③ 食べ物を通した生物どうしのかかわり合いについて調べる。	博物館での学習 ◆ 自然発見館 ○ ジオラマを観察して北九州にすむ鳥や、小動物、昆虫などの名前を調べる。 ◆ 情報館 ○ 調べた生物の食べ物について調べる。	4時間 1時間
④ 食べ物を通した生物どうしのかかわり合いについて調べる。	○ 調べた結果を表にして一覧表に示し、友達と意見交換をしながら、食べ物に着目して生物どうしの関係性について考え、まとめる。	1時間
II 生物と空気のかかわりについて調べる。		
①② 植物が二酸化炭素を取り入れて何を出しているか調べる。 ③ 空気を通した生物どうしのかかわり合いについてまとめる。		3時間

4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
「自然発見館」を見学し、身近な動物を調べよう。		
博物館での学習 0.5時間		
I 「自然発見館」のジオラマや展示物を見学する。	○ 自分たちの身近にすんでいる小動物や鳥類の剥製を見学させ、北九州地域にも多様な生き物があることをとらえさせる。	◆自然発見館 ・「山田緑地」(林)ジオラマ ・里山の哺乳類
II 自分が調べようとする動物を選ぶ。	○ 哺乳類だけでなく、鳥類や爬虫類、昆虫などの動物から選ばせる。 ○ 食べ物についての予想をしながら選ぶように助言する。 ○ ジオラマや剥製だけでなく、「糞分析や胃内容物による食性調査の方法」の展示コーナーなども活用して、動物の食べ物に目を向けさせるようにする。 ○ ワークシートの①の「選んだ動物名」にそれぞれ記入させる。	・里山の鳥類 ・「平尾台」(草原)ジオラマ ・「平尾台の四季」ビデオ ・糞分析や胃内容物による食性調査の方法
「情報館」で、自分の選んだ動物の食べ物について調べよう。		
博物館での学習 0.5時間		
I 自分の選んだ動物の食べ物について、調べるための資料を探す。	○ 書棚の大まかな分類に従って自分のほしい情報を探すようにさせる。 ○ 友達どうしで情報交換をしながら探せるよう助言する。	◆情報館 ・動物の図鑑 ・鳥類の図鑑 ・昆虫の図鑑など
II 見つけた資料を使って、食べ物について調べ、ワークシートに記入する。	○ 資料が見つかった児童は、ワークシートに調べたことを記入するようにさせる。	

5 博物館での学習

「自然発見館」を見学し、身近な動物を調べよう。

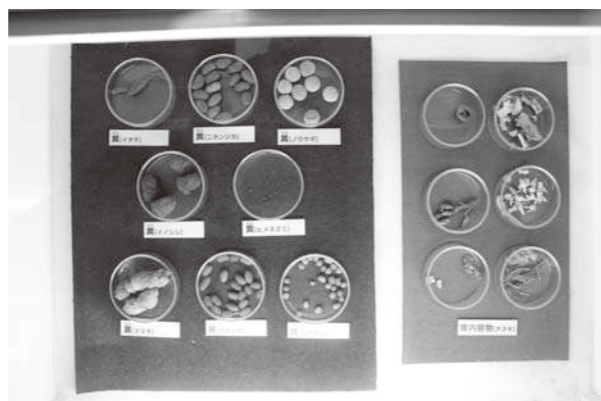
博物館での学習
0.5時間

「自然発見館」では、北九州でも特徴的な環境である「平尾台」や典型的な環境である「山田緑地」などをジオラマで再現しています。また、そこでは各々の環境で生活する生物を剥製標本で展示しています。壁面やジオラマ横のファイルには、植物や小動物についての簡単な説明もあります。また、「動物の糞」から動物の食性を調べる方法など、興味深いコーナーもあります。展示物についての説明が難しい場合は、博物館のスタッフにたずねるなどして確かめると、より効果的に学習を進められると思います。

具体的な活動としては、身近な地域の自然環境や生物を調べ、興味を持った生物の名前をワークシートに記録します。何を食べているのかを予想した後、2階の「情報館」の資料で調べるようにします。



里山の哺乳類・里山の鳥類



糞分析や胃内容物による食性調査の方法

「情報館」で、自分の選んだ動物の食べ物について調べよう。

博物館での学習
0.5時間

「情報館」には、たくさんの図鑑や百科事典、専門書が揃っています。それらの資料を上手に活用して、一人一人が選んだ生物の食べ物について調べるようにします。もし、本や図鑑が見つからない時には、博物館スタッフに相談してみてください。



情報館カウンター



情報館図書資料コーナー

ワークシート〈動物の食べ物〉

1 身近な動物を調べよう

- 私たちの身近な里山には、小動物や鳥などの多くの野生動物が生きています。博物館3階の「自然発見館」を見学し、どんな動物がいるのか調べてみましょう。
- 展示されている動物たちの中から、食べ物を調べようと思う動物を一つ選んで、下の表の①調べる動物名の欄に名前を書きましょう。



「里山の哺乳類」「里山の鳥類」

2 動物の食べ物を調べよう

- 2階の「情報館」で動物の食べ物を調べましょう。多くの図鑑や資料があります。どの本で調べるか迷ったら、博物館スタッフにたずねてみましょう。
- 食べ物がわかったら、下の表の②の欄に書き込みましょう。

①調べる動物名 ・飼育されている家畜ではなく、野生動物や鳥類、昆虫などを選択させるようにしてください。

②どんなものを食べているのかな

・食べ物の名前をあげるだけでなく、食草(植物)や昆虫、小動物などがあることで、様々な生物が生きていけることに目を向けることができるよう助言をしてあげてください。

③ほかにも自分で調べたことがあったら書きましょう。

・多数の生物を調べることで、生物どうしのつながりをよりはっきりと意識させることができます。
・関係やつながりを図に書いてまとめるのも効果的です。

土地のつくりと変化

1 単元の概要

本単元では身近な地層やボーリング試料などを観察し、土地をつくっている物の特徴や地層のでき方を調べます。また、火山の噴火や大きな地震などによって土地が変化することを知ります。学習を通して、土地のつくりや変化に関する時間的・空間的なスケールの大きさと、自然のもつ力の大きさを実感することができますように学習を進めていきます。

2 学習のねらいと手だて

- 土地のつくりや土地のでき方について興味・関心をもって追究する活動を通して、土地のつくりと変化を推論する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、土地のつくりと変化についての見方や考え方をもちつことができるようにする。
- 指導に当たっては、遠足や修学旅行などのあらゆる機会を活用し、実際に地層を観察する機会をもったり、博物館などの展示を見学したりできるようにする。



アースモール

3 指導計画（総時数 13 時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 土地の様子を調べる。 ① 観察計画を立てる。 ② 地層が見られる露頭に行き観察する。 ③ 観察したことをもとに話し合う。 ④ 化石について調べる。	○ 縞模様のはっきりとしたがけの写真などを提示することで、なぜ土地が縞模様になっているか発問し、土地のでき方に対して興味・関心をもつことができるようにする。	4 時間
II 地層のでき方について調べる。 ① 地層に含まれている物を観察する。 ② 水の働きによる地層のでき方を調べる。 ③ 岩石について調べる。 ④ 火山の働きでできた地層について調べる。	○ 地層に含まれている石の形と川原の石を比較することで、土地のでき方には流れる水のはたらきが関係することを予想することができるように支援する。	4 時間
III 土地の変化について調べる。 ① 火山活動による土地の変化について調べる。 ② 地震による土地の変化について調べる。	○ 岩石標本などを準備し、実際に岩石に触れて調べることで、流れる水のはたらきではない地層のでき方があることに気付かせるようにする。	3 時間
IV 北九州の土地の成り立ちについて調べ、単元の学習をまとめる。 ① 博物館で北九州の土地のつくりについて調べる。 ② 学習したことをまとめて発表する。	■ 博物館での学習 ◆ 自然発見館 エンバイラマ館 ○ 北九州の土地の成り立ちについて調べることで、自分たちの住む土地も長い時間をかけてできあがってきたことを実感できるようにする。	2 時間

4 学習展開例（2時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
北九州の土地のつくりについて、エンバイラマ館・自然発見館で調べよう。		
I アースモールを見学し、地球と生命の歴史の長さを知る。	○ 地球上のあらゆる場所で発見された様々な化石を見学し、空間的・時間的スケールの大きさを感じられるようにする。	◆アースモール
II 中生代白亜紀（約1億3000万年前）の北九州の様子をジオラマで見る。	○ 音声ガイドや補足説明を通して、太古の北九州の生物や環境、火山活動などが理解できるようにする。	◆エンバイラマ館 古生代～新生代
III リサーチゾーンの展示物を見て、北九州の土地のでき方について学ぶ。 ○ 九州島の生い立ち ○ 関門層群 ○ 中生代の化石 ○ 芦屋層群 ○ 新生代の化石 ○ 火山活動の影響	○ ビデオの内容と展示物のつながりに気付けるように、時間的な流れを補足説明する。 ○ 呼野層群の石灰岩が海山の上で形成された石灰岩に由来することを知り、地球の力の大きさや、土地の形成の時間的・空間的なスケールの大きさを感じられるようにする。 ○ ディプロミスタスなどの化石から、かつては湖底だったことなどを理解できるようにする。 ○ 芦屋層群などの新生代の地層に含まれる化石を見て、環境の変化の流れを感じられるようにする。 ○ 九州島誕生の時代、阿蘇山の火砕流到達範囲などの展示を見て、北九州も火山活動の影響を受けていることを理解できるようにする。	◆エンバイラマ館 リサーチゾーン ・「九州島の生い立ち」ビデオ ・梅花石(ウミユリ) ・紡錘型火山弾 ・芦屋層群の化石 ・石炭 ・阿蘇山噴火の解説パネル
IV 自然発見館で北九州の地質について調べる。 ○ 北九州地方の地質模型 調べてわかったことをまとめて発表する。	○ 自分の町の土地がどの地質に属するのかわかるように、これまでの学習内容が自分の生活と深くかかわっていることを実感できるようにする。 ○ 学習したことをまとめ、土地の成り立ちについて理解を深める。	◆自然発見館 ・北九州地方の地質模型

5 博物館での学習

北九州の土地のつくりについて、エンバイラマ館・自然発見館で調べよう。

博物館での学習 2時間

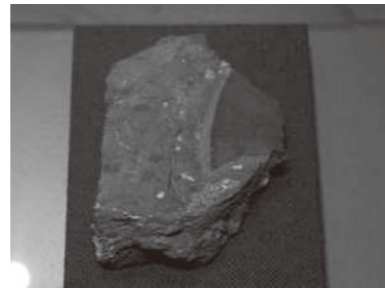
「アースモール」では、地球の形成と生命の進化の歴史を振り返ることができます。「エンバイラマ館」には、太古の北九州の様子を復元した「白亜紀ゾーン」と、その復元に用いられた資料などを展示した「リサーチゾーン」があり、過去の北九州について学ぶことができます。



アースモール

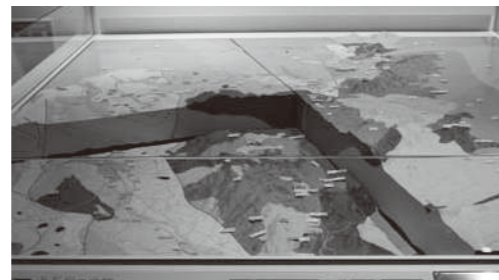


白亜紀ゾーン



リサーチゾーンの化石

自然発見館には、北九州の地質模型が展示されています。この展示を活用すれば、子どもは自分の学校や家のある地域の地質を知ることができます。また、市内の貴重な大地の遺産がどこにあるのかを知ることができます。



北九州地方の地質模型▶

※館内授業「土地のつくりと変化」（北九州市内は出前授業も可）

博物館では、MTによる「土地のつくりと変化」の館内授業・出前授業を行っています。博物館ならではの貴重な実物資料にふれたり、わかりやすい実験器具を用いた実験に取り組んだりしながら以下の学習に取り組むことができます。

●第1時 地層は何の働きによって縞模様になったのだろう？（45分）

地層の写真やはぎとり地層（実物）を提示し、「なぜ地層は縞模様になっているのか」という問題を見出せるようにします。ペットボトルを用いた土砂の分離実験を通して、「流れる水の働きで縞模様ができる」ことを確かめられるようにします。

●第2時 地層はどこでどのようにしてできたのだろう？（30分）

ジオラマや実物の化石などを通して、「地層は自然の中のどこでどのようにできているのか」という問題を解決していきます。実際にジオラマに水を流す実験を通して、地層は流れる水の働きで海にできることを推論できるようにします。

●第3時 海の底で地層ができた後と、流れる水の働きではない地層のでき方（15分）

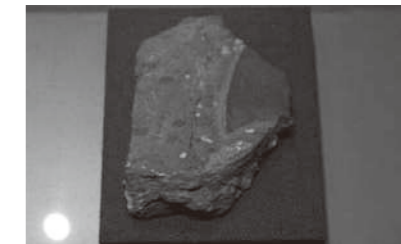
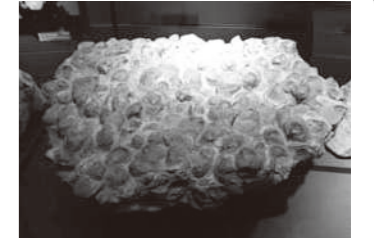
実物の堆積岩・火山岩の観察、プレゼンテーションの説明を通して、海の底でできた地層が陸上で見られるわけと、火山の噴火によって作られる地層について学びます。地層のでき方に関する学習をまとめられるようにします。

☆事前に申し込みが必要です。また、出前授業の場合は、会場とプロジェクターの準備をお願いします。詳細は博物館へお問い合わせください。

●北九州の土地のなりたちや岩石、化石について調べてみましょう。

(1) エンバイラマ館のリサーチゾーンで「九州島の生い立ち」ビデオや解説パネルを見て答えましょう。 ※ビデオ約3分20秒

- 北九州で一番古い地層は約（ 3億5000万 ）年前のものです。
- 恐竜がいた時代の北九州にいた大型肉食恐竜は、（ ワキノサトウリュウ ）という名前です。
- 八幡西区の若葉という町から（ 貝 ）の化石が見つっています。今の若葉の町をつくっている土地は、大昔には（ 海の底 ）だったといえます。
- 九州が今のような島となったのは約（ 200万 ）年前のことです。
- 約9万年前、阿蘇山の噴火で発生した火砕流は、北九州を越えて、（ 山口県 ）まで到達しました。



(2) 北九州やその周辺で発見された化石で、印象に残ったものについて書きましょう。

名前「 ※ ワキノサトウリュウ 」
時代 中生代 白亜紀 前期
発見された場所 宮若市 千石峡
ひとくちメモ ※ここに上げたものは例です。リサーチゾーンには多数の化石を展示してあります。

地質の名前	年代
人工地質体	現代
古砂丘	約10万年前～現代
玄武岩	約170万～70万年前
耶馬溪層	
芦屋層群	
大辻層群 幡生層	約3000万年前
直方層群	
深成岩類	
半深成岩類	約9000万年前
八幡層	
下関亜層群	約1億3000万年前
脇野亜層群	
呼野層群 石灰岩	約3億年前
呼野層群 非石灰岩	
三郡変成岩	

(3) 自然発見館の「北九州市の地質模型」で、自分の住んでいるところの土地について調べましょう。

自分の学校がある場所の地層の名前	どれくらい前にできた地層ですか？
例 脇野亜層群	例 約1億3000万年前

学校 6年 組

生物と地球のかんきょう

1 単元の概要

この単元では、人や他の動物、植物などの生き物は、食べ物・水・空気を通して自然界の中で互いにかかわって生きていることをねらいとしています。そして生物と環境とを関係づけながら調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつように調べていきます。

2 学習のねらいと手だて

- 生物と環境のかかわりについて興味・関心をもち、図書資料や博物館の展示物などを活用しながら生物と環境のかかわりを推論する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、環境を保全する態度を育て、生物と環境のかかわりについての見方や考え方をもつことができるようにすることがねらいである。



生命の多様性館

3 指導計画（総時数6時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 生物は地球の環境とどのようにかかわり合っているか話し合い、学習計画を立てる。	○ 生物が生きていくために必要なものについて話し合う活動を通して、人や他の動物、植物などの生物が水をはじめとする地球の環境とどのようにかかわっているのかに関心がもてるようにする。	1時間
II 生物と水のかかわりについて調べる。	○ これまで学習したことから生物と水とのかかわりを考え話し合いができるようにする。	2時間
III 人の生活とまわりの環境について調べる。 ① 水、空気と生物のかかわりについて調べる。	■ 博物館での学習 ◆ 「自然発見館」「生命の多様性館」 ○ ジオラマや標本を、空気や水との関わりを考えながら観察するようにする。	1時間
② 人の生活と自然環境について調べる。	◆ 「生命の多様性館」「自然発見館」 ○ ウバザメやカワセミなどの標本を観察し、環境や他の生物との関わりを考えることができるようにする。	
③ 生物と自然環境のかかわりについて話し合い、地球環境とのかかわり方についてまとめる。	○ 調べたことを絵や図、文章で整理しながらまとめ、発表したり意見交換したりしながら、生物と自然環境について考えを深めたり、これからの自然環境とのかかわり方を考えたりすることができるようにする。	2時間

4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
① 生物と水・空気との関わりを博物館の展示物から調べてみよう。		
I 「自然発見館」でのジオラマや展示物を見学する。 II 課題に応じた調べ学習をグループごとに進める。 ① 「生物と水」チーム ② 「生物と空気」チーム III 調べたことをまとめる。	○ 北九州の自然に関する展示物から興味・関心を高める。 ○ 各ジオラマを見学し、生物と水、空気のつながりについて調べさせる。 ○ カメラを活用して記録をとらせたり、展示物の説明をまとめさせたりして環境との関わりについて学習を進めさせる。	博物館での学習 0.5時間 ◆北九州の林 ◆北九州の草原 ◆北九州の川 ◆北九州の池 ◆北九州の海辺 ◆北九州の干潟 ◆バイオリウム ◆北州市のジオラマ模型
② 様々な生物が自然環境の中でつながり、共に関係して生きていることを調べてみよう。		
I 「生命の多様性館」や「自然発見館」で生物標本を見学する。 II ウバザメとジンベイザメの標本を見学し、他の生物とのつながりについて考える。 III カワセミの標本を見学し、食べる・食べられるの関係について考える。 IV 哺乳類・鳥類・魚類・甲殻類・昆虫・植物などの展示から多様な生き物を知る。 V 調べたことをまとめる。	○ 自分が見学したいと思っていた展示物を探して興味を高める。 ○ 最大の魚類標本であることを知る。主食はプランクトンであり、海の中の小さな生物とのつながりに気付かせる。 ○ 「北九州の池」ジオラマの様子を見学させ、カワセミと池の魚の関係や身を隠すようにしているカエルなど、そこに生きる生物のかかわりに気付かせる。 ○ 生物は多様性に富んでおり、環境や様々な他の生物と関わって生きていることに気付かせる。 ○ 学習内容を整理してまとめさせる。	◆ウバザメの標本 ◆北九州の池 ◆生命の多様性館 ◆自然発見館

5 博物館での学習

① 生物と水・空気との関わりを博物館の展示物から調べてみよう。

博物館での学習
0.5時間

自然発見館では自然の一部を切り取ったように、市内の自然を紹介しています。

生き物と水・・・北九州の干潟や川のジオラマから、そこにどのような生物が生息するか調べることができます。また、水生生物コーナー（バイオリウム）には北九州にいるオオサンショウウオや原始的な魚など古くから水とかかわり、独自の進化を遂げた生物を見ることができます。

生き物と空気・・・北九州の林と草原のジオラマなどを調べて、植物が動物のくらしと密接に関係していることを実感させ、動物が必要としている酸素も作り出していることに触れることができます。



北九州の干潟〈ジオラマ〉



北九州の林〈ジオラマ〉



北九州の池〈ジオラマ〉

② 様々な生物が自然環境の中でつながり、共に関係して生きていることを調べてみよう。

博物館での学習
0.5時間

「生命の多様性館」や「自然発見館」では、豊富な生物標本を展示しています。これらを見学する中で、多くの生き物が環境とかかわり合いながら生活しているのかを実感として理解させることができます。また、生物が単独で存在しているのではなく、他の生物と様々な関係を持ちながら生きているということをとらえさせることによって、種の絶滅がその種のみでなく、環境への取り返すことができない影響となるということを学ぶ機会にもなります。



カワセミ

水中に飛び込んで小魚、水生昆虫などを捕食します。捕獲後はくわえ直し、丸呑みにするか、大きい獲物は足場に数回叩き付けて、骨を砕いてから飲み込みます。



ウバザメ

魚類の中で2番目に大きい魚。大きいものは9～12mにもなります。海面付近で大きく口を開けながら泳ぎ、プランクトンを捕食しています。

1 グループのテーマと、「自然発見館」の展示を見て気づいたことを書きましょう。

※自然発見館のジオラマなどを見学させ、生き物と周囲の環境とのつながりに気づかせてください。

テーマ 生き物と((例)水)

調べたコーナー (例 岩屋海岸ジオラマ)

調べたコーナー (例 岩屋海岸ジオラマ)

気付いたこと

※例えば、水中には水中独自の生態系が存在し、生き物は単独で存在しているのではないことに気づかせてください。

気付いたこと

※干潟の埋め立てによってカブトガニは産卵場所を減らしています。水中の生態系が維持されるには、水だけではなく周りの自然も重要であるということに気づかせてください。

2 「自然発見館」や「生命の多様性館」の展示物を見て答えましょう。

(1) ウバザメやカワセミの体の特徴で気が付いたことや説明してわかったことを書きましょう。

ウバザメ

(例)

ジンベイザメに次いで2番目に大きい魚。性質はおとなしく、動きはとても緩やかである。暖かい時期になると、大きな口を開けてプランクトンを摂食している。

カワセミ

(例)

餌を取るときは、水辺の石や枝の上から水中に飛び込んで、魚類や水生昆虫をくちばしでとらえる。水中に潜るときは目からゴーグル状のものを出し水中でも的確に獲物を捕らえられるようにしている。

(2) 「自然発見館」の展示物の中から、ウバザメやカワセミ以外にも、つながっている関係にある生き物を見つけましょう。

(例)

タヌキ → 昆虫、果物など

ヘビ→カエル

キツネ → ネズミ

カムルチー→小魚

ズグロカモメ → ヤマトオサガニ (ビデオにて)

学校 6年 組

自然学習園

平尾台の草原ゾーン

ススキが一面に広がる平尾台の草原は、定期的な野焼きによって維持されています。天然の草原に対し、このように人間によって維持されている草原は“二次草原(半自然草原)”と呼ばれています。平尾台の二次草原には、“草原性生物”とよばれる明るく開けた場所を好む生きものが数多く生育しています。そのなかには、かつて日本がアジア大陸と陸続きであった頃に日本に渡ってきた“大陸系の生物”も含まれています。

二次草原の面積は、近年、急速に減少してしまいました。そのため、草原性の生物のなかには、すみ場所を失い、絶滅が危ぶまれるようになったものもあります。

ここでは、平尾台のような二次草原を再現しようとしています。



小倉南区平尾台

金毘羅山の林ゾーン

私たちの周りで見られる林の多くは、古来より人手が加えられた林で、天然林に対し、“二次林”と呼ばれています。温暖で降水量が多い北九州地域の二次林の主役は、シイ・カシ類やタブノキなどの常緑広葉樹です。

二次林は、燃料や肥料の採取のための柴刈りや落ち葉かき、炭焼きのための伐採など、人間の生活と密着した利用がなされていた林で、“里山林”とも呼ばれています。

近年、里山林は経済的な価値を失い、かつてのような利用がなされなくなりました。このため、里山林の環境は大きく変化し、里山林から姿を消しつつある生きものも出てきました。

ここでは、金毘羅山にみられるような二次林を再現しようとしています。

畑

自然学習園の畑では自然の営みと人々のくらしについて考える講座「いのたび自然塾」で使用する作物を育てています。講座では、作物の成長を楽しみ、作物に集まる生き物を観察し、収穫後の活用などについて紹介します。



畑

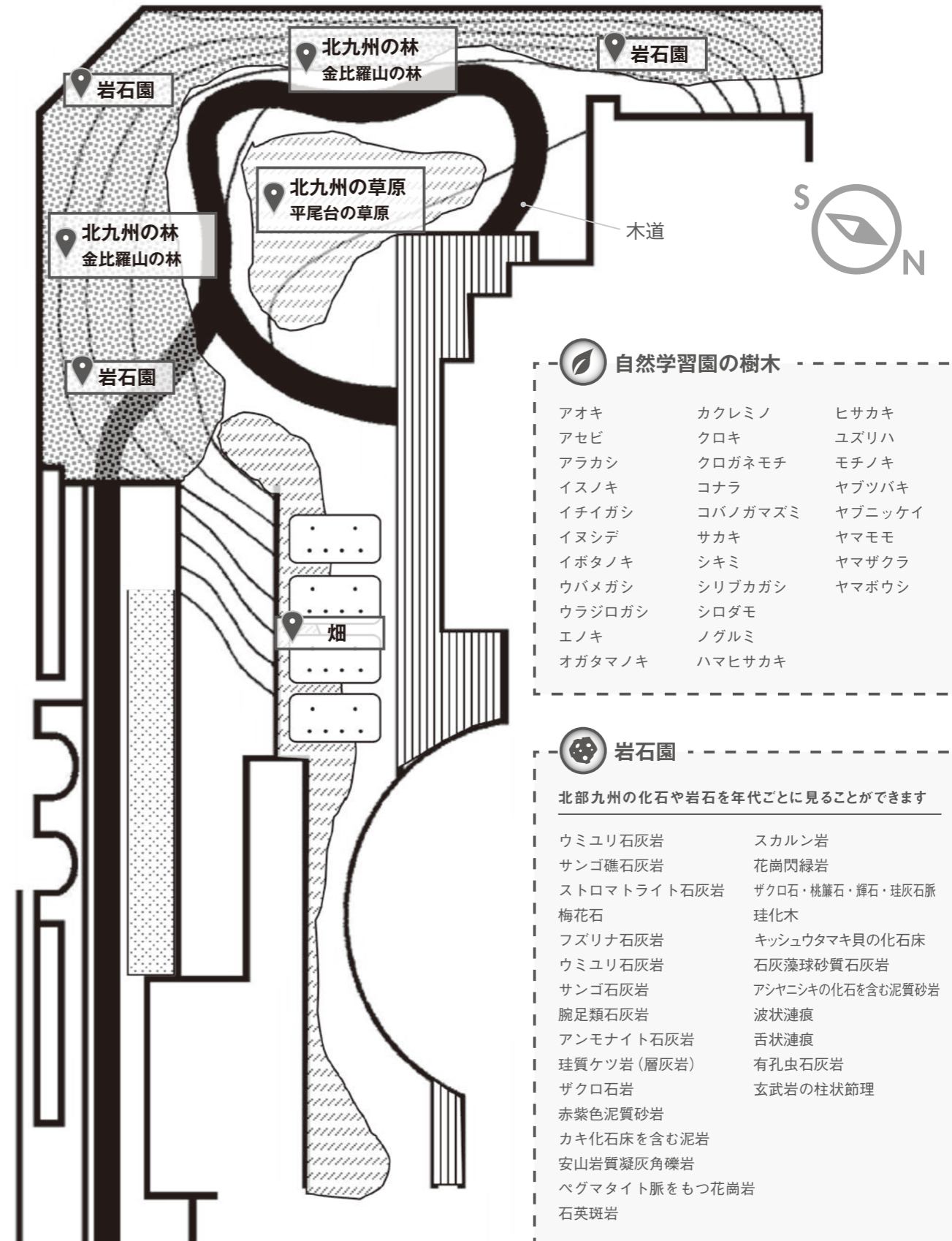
岩石園

遊歩道を歩いていくと、北部九州の代表的な岩石や化石などを年代ごとに見ることができます。



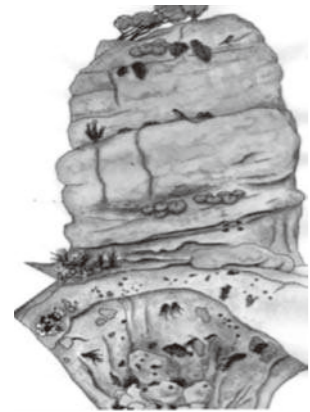
岩石園

自然学習園MAP



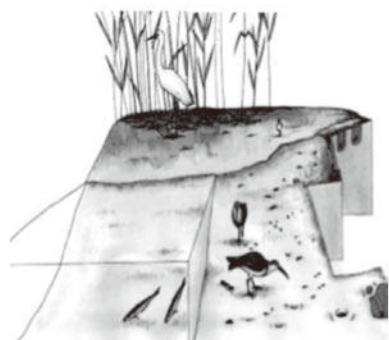
自然発見館のジオラマと生き物

自然発見館では、北九州の海岸や森などの地形や、そこにくらす生き物を実物標本と模型で再現したジオラマがあります。ジオラマで北九州市を代表する海岸、干潟、池、川、林、草原と6つの環境を再現しています。環境やそこで生活する生き物を比較することや、同じ環境で生活する生き物の関わり合いを考える場面において活用できます。



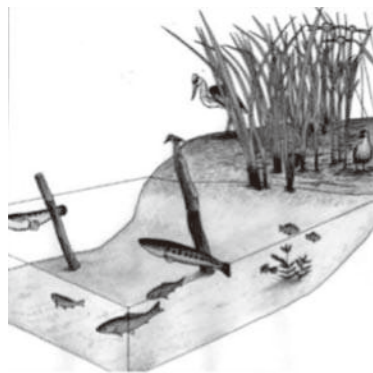
海岸(岩屋海岸) (展示解説のある生き物あり)

イソヒヨドリ(ツグミ科)	ヒザラガイ(ヒザラガイ科)
フナムシ(フナムシ科)	ハマナデシコ(ナデシコ科)
カメノテ(ミョウガガイ科)	ハマヒサカキ(ツバキ科)
クロフジツボ(フジツボ科)	タイトゴメ(ベンケイソウ科)
イワフジツボ(イワフジツボ科)	イトマキヒトデ(イトマキヒトデ科)
タマキビ(タマキビ科)	ムラサキウニ(ナガウニ科)
タイドプールの魚	



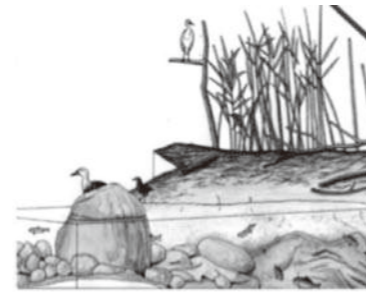
干潟(曾根干潟) (展示解説のある生き物あり)

トビハゼ(ハゼ科)	オサガニ(スナガニ科)
アオギス(キス科)	チゴガニ(スナガニ科)
シバナ(ホロムイソウ科)	カブトガニ(カブトガニ科)
ヤマトオサガニ(スナガニ科)	アオサギ(サギ科)
コメツキガニ(スナガニ科)	チュウシャクシギ(シギ科)
ハクセンシオマネキ(スナガニ科)	



ため池(浦の谷池) (展示解説のある生き物あり)

カイツブリ(カイツブリ科)	アメリカザリガニ(アメリカザリガニ科)
フナ(コイ科)	マコモ(イネ科)
モツゴ(コイ科)	ガガブタ(ミツガシワ科)
ブルーギル(サンフィッシュ科)	ヒシ(ヒシ科)
カムルチー(タイワンドジョウ科)	
コイ(コイ科)	



川(紫川) (展示解説のある生き物あり)

カルガモ(カモ科)	アブラボテ(コイ科)
ダイサギ(サギ科)	ドンコ(ハゼ科)
カマツカ(コイ科)	オヤニラミ(ケツギョ科)
アユ(アユ科)	オイカワとカワムツ



森林(山田緑地) (展示解説のある生き物あり)

ヤマドリ(キジ科)	ツブラジイ(ブナ科)
ニホンザル(オナガザル科)	シロダモ(クスノキ科)
ヒミズ(モグラ科)	カクレミノ(ウコギ科)
タブノキ(クスノキ科)	ヒサカキ(ツバキ科)



草原(平尾台) (展示解説のある生き物あり)

キジ(キジ科)	ノヒメユリ(ユリ科)
ウグイス(ウグイス科)	キキョウ(キキョウ科)
ホトギス(カッコウ科)	オミナエシ(オミナエシ科)
カヤネズミ(ネズミ科)	ミシマサイコ(セリ科)

※ 上に紹介した生き物以外にも、たくさんの生き物が展示されています。展示パネルにより、展示されている生き物の名前を調べることができます。

OVER EXHIBITIONS

自然発見館には上記以外にも様々な展示があります。

◎ 北九州地域の地質模型

◎ 千仏鍾乳洞のジオラマ

◎ オオサンショウウオ

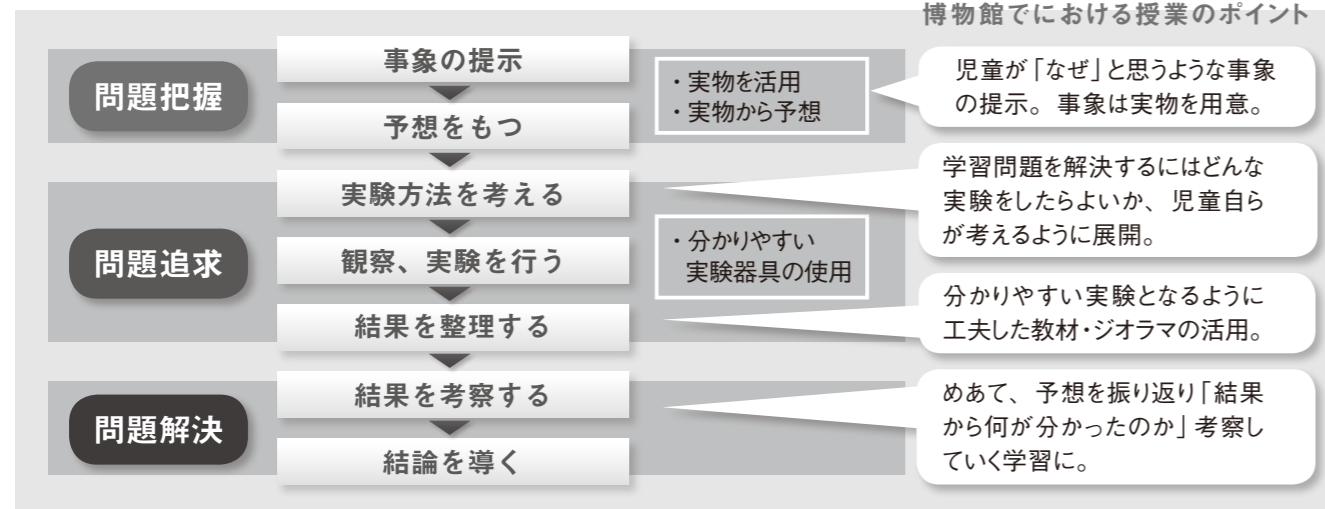
館内授業「土地のつくりと変化」(北九州市内は出前授業あり)

博物館では第6学年理科の「土地のつくりと変化」の館内授業および出前授業を行っています。博物館の特性を活かし、実験や実物に触れながら土地のつくりについて学習していきます。



定員	1クラス(約40名) 9班まで	時間	45分×2コマ(途中5分休憩)
持参するもの	筆記用具	教材費	無料

● 学習の流れ



● 当日の学習の流れ

第1時

- 事象の提示** … 地面の下(地層)が「しまよう」になっていることを児童に写真や実物(はぎとり地層※1)などで着目させ、なぜこのような模様ができているか、問題を見いださせる。
めあて 地層は何のはたらきによって縞模様になったのだろう。
- 予想をもつ** … 「しまよう」は何のはたらきで作られているか予想する。予想の際には地層にあった実物の丸みをもった石※2を提示し、第5学年の「流れる水のはたらき」の学習を想起することで、予想を支援する。
- 実験方法を考える** … 「しまよう」を作るためには、土砂に何を加えて実験を行えばよいかを考えさせる。
- 観察、実験を行う** … ペットボトルに土砂※3と水を入れたもの※4を振って自分たちの手で「しまよう」をつくってみる。
- 結果を整理する** … 結果を文や図でまとめて、発表し水によって土砂がどのように分離するかをつかむ。
- 結果から考察する** … 何のはたらきで土砂は分離して「しまよう」になるのか考えさせる。
- 結論を導く** … 水(流れる水)のはたらきから地層が「しまよう」になることを予想や結果を振り返ることで導き出せるようにする。
- まとめ** 地層は流れる水のはたらきによってできている。

第2時(30分)

- 事象の提示** … ジオラマ※5を提示しながら、前時で分かった「しまよう」は実際の自然の中では、どこでどのように作られているのか発問し、問題を見いださせる。
めあて 地層はどこでどのようにしてできたのだろうか。
- 予想をもつ** … 地層から見つかる実物の化石(アンモナイトなど※6)を提示することや、第5学年「流れる水のはたらき」の学習を想起させることで(浸食、運搬、堆積などのはたらき)どこで、どのようにして「しまよう」(地層)は作られるのか予想しやすくする。
- 実験方法を考える** … ジオラマを使ってどうやって調べるのか考えさせる。
- 観察、実験を行う** … ジオラマに水を流して、地層のでき方を観察する。
- 結果を整理する** … どこで、どのようなことがあり、地層ができたのか観察したことをワークシートに記入する。
- 結果から考察する** … 川の土が削られ水槽に「しまよう」ができたことから、実際の自然に置き換えるとどのような事が言えるか考えさせる。
- 結論を導く** … 地層は流れる水のはたらきによって海にできることを、予想や結果を振り返ることで導き出せるようにする。

第3時(15分) 時間があれば

- 問題把握** … 海にできた地層がなぜ地上にあるのか発問し、問題を見いださせる。また、流れる水のはたらきでできていない地層をパワーポイントや、その地層から出た丸みをもった石ではなく角ばった石(火山岩※7)が見つかることなどの事象を提示し、この地層は何のはたらきでつくられたのか問題を見いださせる。
- 問題追及** … 実物の岩(れき岩、砂岩、泥岩)※8の観察やパワーポイントの説明を見ながら地層のでき方を調べていく。
 また、火山岩や火山の噴火の様子を見ることで、流れる水のはたらき以外の地層のでき方を調べていく。
- 問題解決** … これまでに学習したことをまとめる。
- まとめ** ① 地層は流れる水のはたらきによって海に作られ、岩になりやがて陸に押し上げられる。
 ② 地層は火山の噴火によってできるものもある。

事前申込が必要ですので、ご希望の場合は、あらかじめ博物館へご連絡下さい。

※出前授業の場合は会場やプロジェクターなどを用意していただきます。

※内容については変更する場合がございます。詳細についてはお問い合わせ下さい。



● 使用する教材 (都合により一部用意できない場合があります)



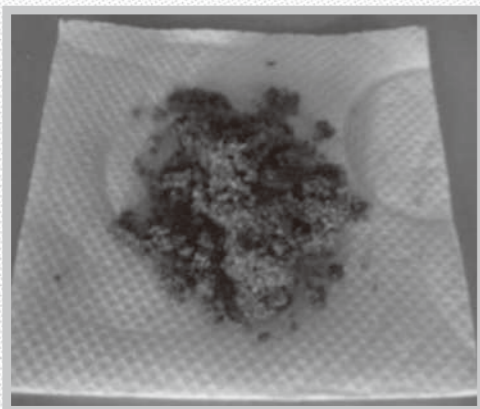
※1 はぎとり地層

実物の地層が教室で見ることができます!しかもようになって
いることを間近で観察し、興味・関心を引き出します。



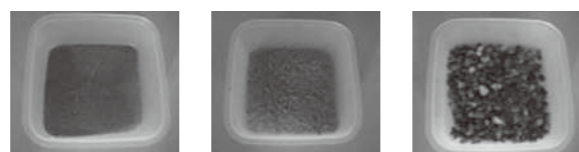
※2 丸みをもった石

丸みをもった石を実際に触れて見
ることで予想しやすくします。



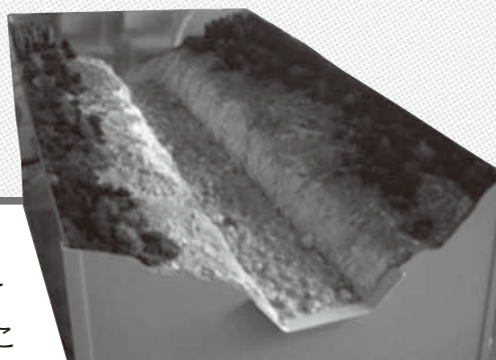
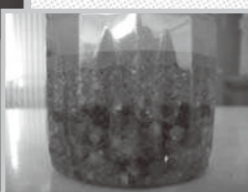
※3 土砂

3種類の土を混ぜた土砂です。泥には緑
色の着色がしてあり、分離した時に一目で分
かるようにしています。



※4 ペットボトルに土砂と水を入れたもの

第1時の実験で用います。ペットボトルに※3の土砂を入れ
ています。また水のりを少し含ませることで、すぐに土砂が分
離し、しかもように分かれるようになっています。



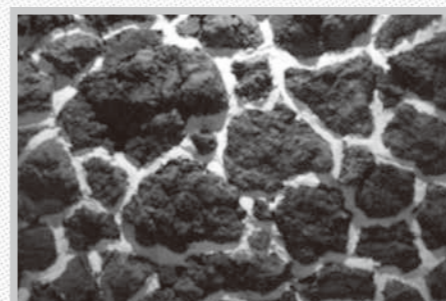
※5 ジオラマ

山、川、海のジオラマです。リアルに作られて
おり、児童の関心をひくことができます。また、こ
れを用いて第2時は実験を行います。ジオラマなの
で、実験と実際の自然との対応がしやすいのが長所です。



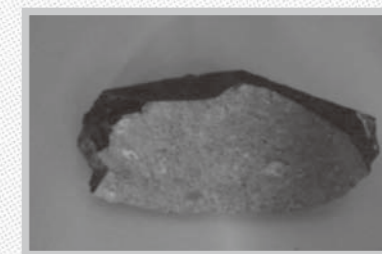
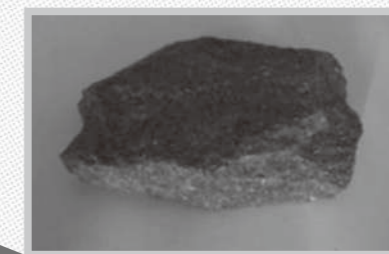
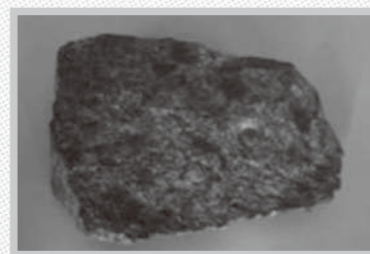
※6 実物の化石(アンモナイトなど)

アンモナイトなどの実物化石です。(ティラノ
サウルスの歯のみレプリカ)海の生き物の化石
があることから、地層は海にできたのではないかと
予想するための手掛かりとして提示します。



※7 角ばった石(火山岩)

角ばった石を提示することで、既習の内容を
覆し、流れる水のはたらきで作られていない地
層に対して興味をもたせます。



※8 れき岩、砂岩、泥岩(右から)

地層の岩を実際に観察することを通して、それぞれの形成している粒の特徴から、れき
(小石)、砂、泥が固まって岩になったことをつかませます。セットは各班用意しています
ので、じっくり観察することができます。

● 宮崎県 新燃岳の噴火の様子(スライドによる資料)



博物館学芸員が現場に行って撮影
した、宮崎県の新燃岳の様子をパワ
ーポイントのスライドで、紹介します。

火山灰が降り積もる町の様子など、
貴重な写真を見る活動を通して、火山
灰による土地の成り方を考えることが
できます。

ディスカバリーボックスの貸し出し

学校団体対象にディスカバリーボックスの貸し出しを行っています。
理科の授業、クラブ活動、選択教科などでのご利用はいかがでしょうか。

- 貸し出し、返却は当館で行います。(貸し出し期間は原則1週間です)
- 貸し出しは無料ですが、石膏など消耗品は学校で準備されてください。



アンモナイト化石レプリカ作成キット

石膏を使いアンモナイトのレプリカを作成するキットです。実際に型どりに使った実物のアンモナイトを観察しながら、色塗りまで行うことができます。



【キット内容】

実物アンモナイト化石	1個
アンモナイト型	7個
計量スプーン	1個
計量カップ	1個

以上のセットが6セット入っています。別に説明書があります。

【学校で準備していただくもの】

- ・石膏(一人約40g) ・紙コップ ・割り箸
- ・絵の具 ・パレット ・筆 ・筆洗い用バケツ

昆虫標本作成キット

昆虫の標本作りに必要なものが一式そろっています。初心者の方にも扱いやすいキットです。標本をつくることで昆虫をじっくりと観察することができます。



【キット内容】

展翅板	1個
展足板	1個
昆虫針(100本入り)	4セット
玉針(50本入り)	4セット
展翅テープ 大・小	各4セット
ピンセット	4本
展翅専用針柄	4本
説明書	

【学校で準備していただくもの】

- ・展翅する昆虫

体験学習プログラムの利用

いのちのたび博物館では、展示見学だけでなく、博物館で「体験」していただくための「体験学習プログラム」をご用意しております。



化石レプリカづくり

石膏を使ってアンモナイト等の化石レプリカを作ります。固まったレプリカを型から取り出す作業には、誰もがワクワクすることでしょう。実際に本物の化石を見ながら作業を行うことで、観察力を養うことができます。



型に石膏を流し込んでレプリカを作る様子



色を塗ったアンモナイトレプリカ

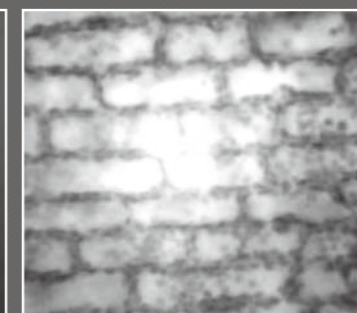
定員	40名程度
持参するもの	なし
時間	50~60分程度
教材費	200円

ペットボトル顕微鏡づくり

ペットボトルとビーズ玉を使って顕微鏡を作ります。身近なものを利用して、手軽に顕微鏡を作ることができるという新鮮な驚きと喜びを感じることができ、探究心や自然愛護の気持ちを育むことができるプログラムです。ペットボトルホルダーがつきます。



完成したペットボトル顕微鏡



顕微鏡で見るオオカナダモ(約90倍)

定員	40名程度
持参するもの	ペットボトル
時間	50~60分程度
教材費	200円



勾玉づくり

弥生時代から古墳時代にかけて身分の高い人たちが身に付けていた勾玉づくりに挑戦するプログラムです。滑石(かっせき)に自分でデザインを描き紙やすりで削ります。形を整えたら、ドリルで穴を開けて皮ひもを通して完成です。世界にひとつしかない自分だけの勾玉が出来たとき、古代のロマンにひたれる気がします。



やすりなどの道具でスムーズに滑石を削ることができます



滑石から勾玉になるまでの過程

定員	40名程度
持参するもの	なし
時間	50～60分程度
教材費	200円

化石の発掘体験をしよう

栃木県の塩原にある化石園の岩石を素材とし、化石の発掘体験を行います。塩原は、保存の良い化石が豊富に産する日本の代表的な化石の産地です。小学校の児童でもハンマーを使って化石を取り出すことができます。植物の化石が多く産出しますが、魚や昆虫類の化石も発見されています。自分で発掘した化石は標本にして持って帰っていただけます。



化石を発掘する様子



発掘した木の葉の化石

定員	40名程度
持参するもの	なし
時間	50～60分程度
教材費	300円

事前申込と別途料金が必要ですので、ご希望の場合は、あらかじめ博物館へご連絡下さい。

※内容については変更する場合がございます。詳細についてはお問い合わせ下さい。

博物館のホームページでは「アクセス・利用案内」「展示案内」「修学旅行・校外学習・団体利用」「博物館の活動」と幅広くいのちのたび博物館について紹介しております。学校の先生方には、「修学旅行・校外学習・団体利用」の修学旅行・校外学習のご案内をご覧くださいことをお勧めしております。

修学旅行・校外学習のページ



博物館のホームページの修学旅行・校外学習のご案内では、「来館までの流れと手続き」「館内見学時間とコース」「館内での体験学習」「周辺施設とモデルコース」「授業での博物館利用」「ダウンロードコーナー」と多くのページを設け、学校での学習に利用していただける情報を数多く紹介しています。特に、「ダウンロードコーナー」では、学校団体が申し込むのに必要な書類や、利用の手引きのワークシートを含む館内で活用できるワークシート、北九州の教科書の流れに沿った「学習内容と展示の対照表」など理科・社会・総合的な学習の時間などの教科に関する資料を自由にダウンロードでき、博物館での学習に役立てるようにしています。

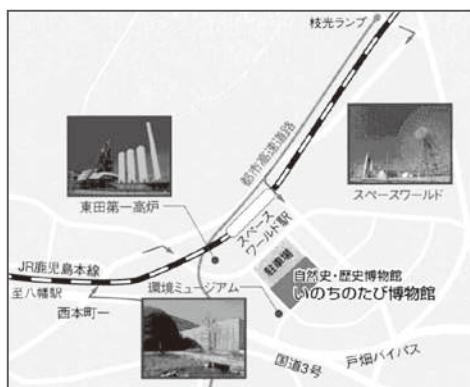


ダウンロードコーナー

- ・ 申請書類(団体見学申込書・常設展減免申請書)
- ・ ワークシート(スタンプラリーシートや展示場所に対応したワークシートなど)
- ・ 学習内容と展示の対照表(小学校・中学校における理科・社会)
- ・ 博物館を利用した総合的な学習の時間展開例

<http://www.kmnh.jp/> **いのちのたび博物館** で検索してください

博物館利用案内



学校団体利用の窓口は

いのちのたび博物館

普及課 ミュージアムティーチャーへ

☎ 電話 (093) 681-1011

📠 ファックス (093) 661-7503

🕒 受付時間 9:00~17:00

- [開館時間] 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- [休館日] 年末年始・燻蒸期間日(6月下旬~7月上旬)
- [観覧料] 大人 / 500円(400円) 高校生以上の学生 / 300円(240円)
(常設展) 小・中学生 / 200円(160円) 小学生未満 / 無料
※()内は30名以上の団体料金です。
※北九州市内小・中学校の団体でのご利用は減免となります。
(常設展観覧料減免申請書の提出が必要)
※特別展開催時の観覧料についてはお尋ねください。
- [駐車場] 収容台数 / 大型車(バス) 30台
普通車 約300台
駐車料金 / 大型車 30分 250円 (4時間以上は一律2,000円)
普通車 30分 100円 (4時間以上は一律800円)
- [所在地] 〒805-0071
北九州市八幡東区東田二丁目4番1号
- [電話] (093) 681-1011 [ファックス] (093) 661-7503
- [ホームページ] <http://www.kmnh.jp/>

博物館利用の手引き作成委員

[社会科編]

藤井 英貴	中原 健治	桑鶴 千鶴	林 智晴	塚本 泰広
佐藤 法聖	四井 慎一	畑野 浩太	廣政 良尚	日浅 真一
松本 里香	稲田 健太	高松 淳子	竹治 あけみ	

[理科編]

坂上 徹	福田 修二	松村 修治	津島 大輔	川野 妙
近藤 嵩晃	明石 恵	竹内 嘉奈子	川津 栄子	鈴木 寛人
松成 誠	豊田 剛	古澤 律子	秋重 吉克	